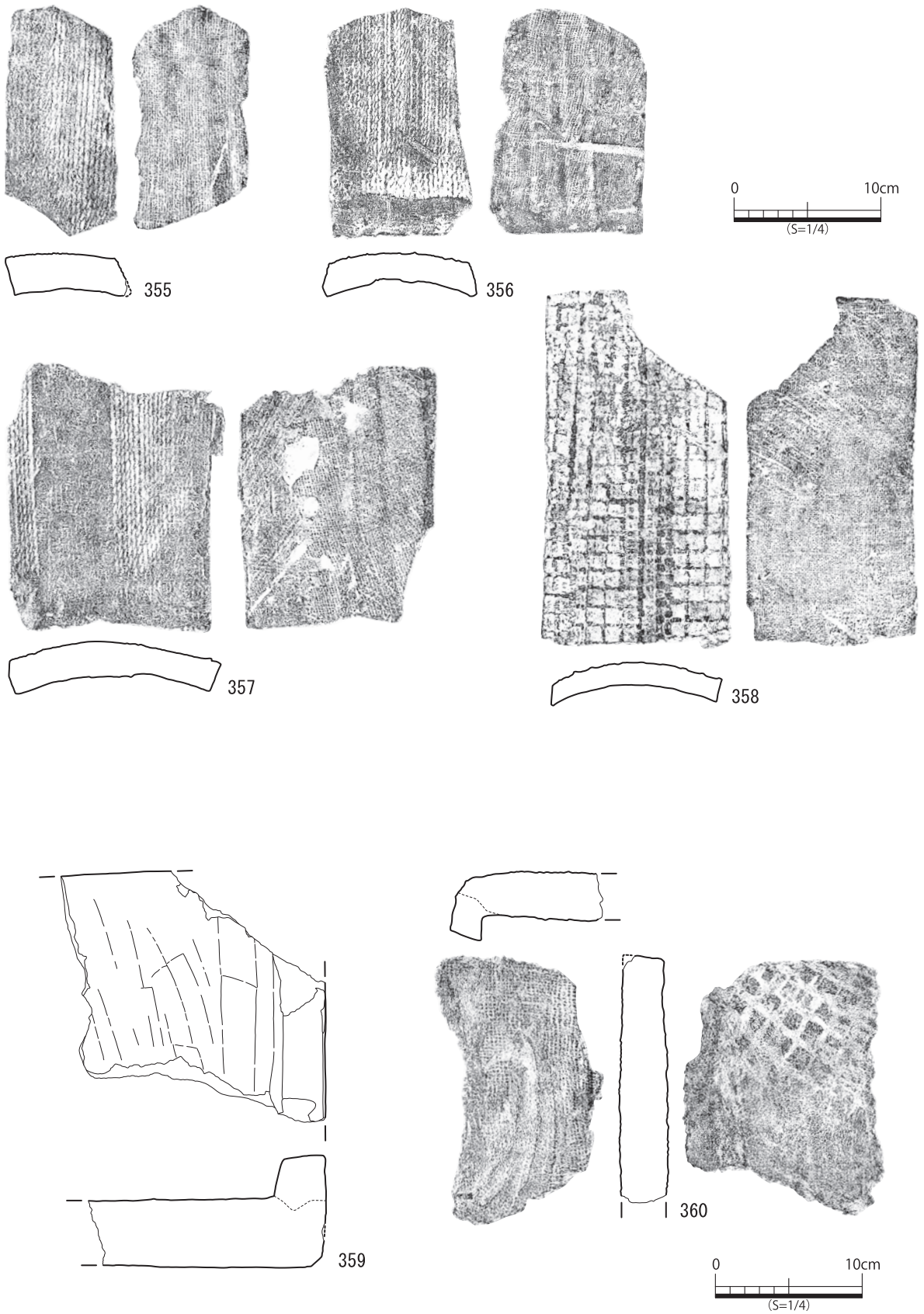
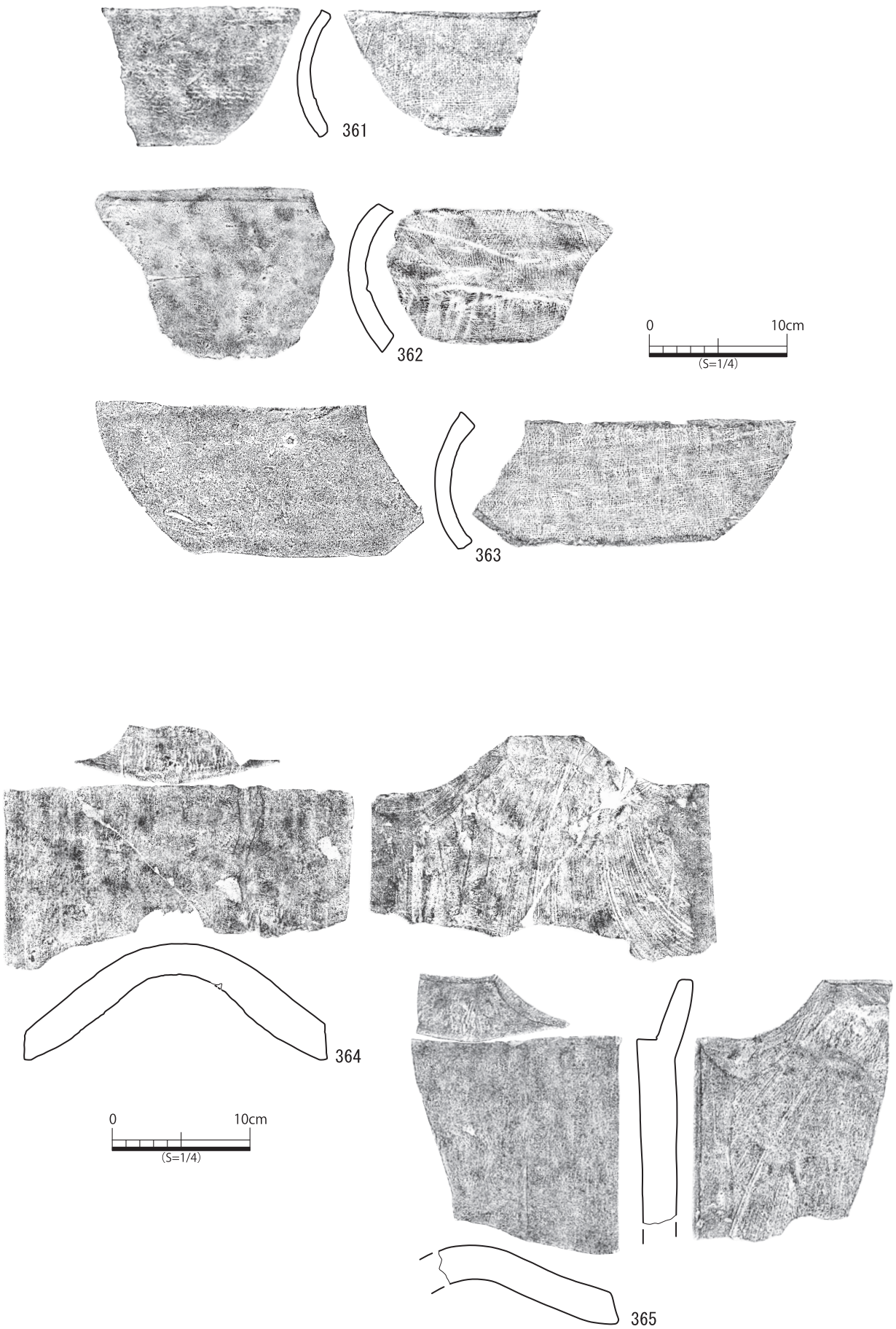
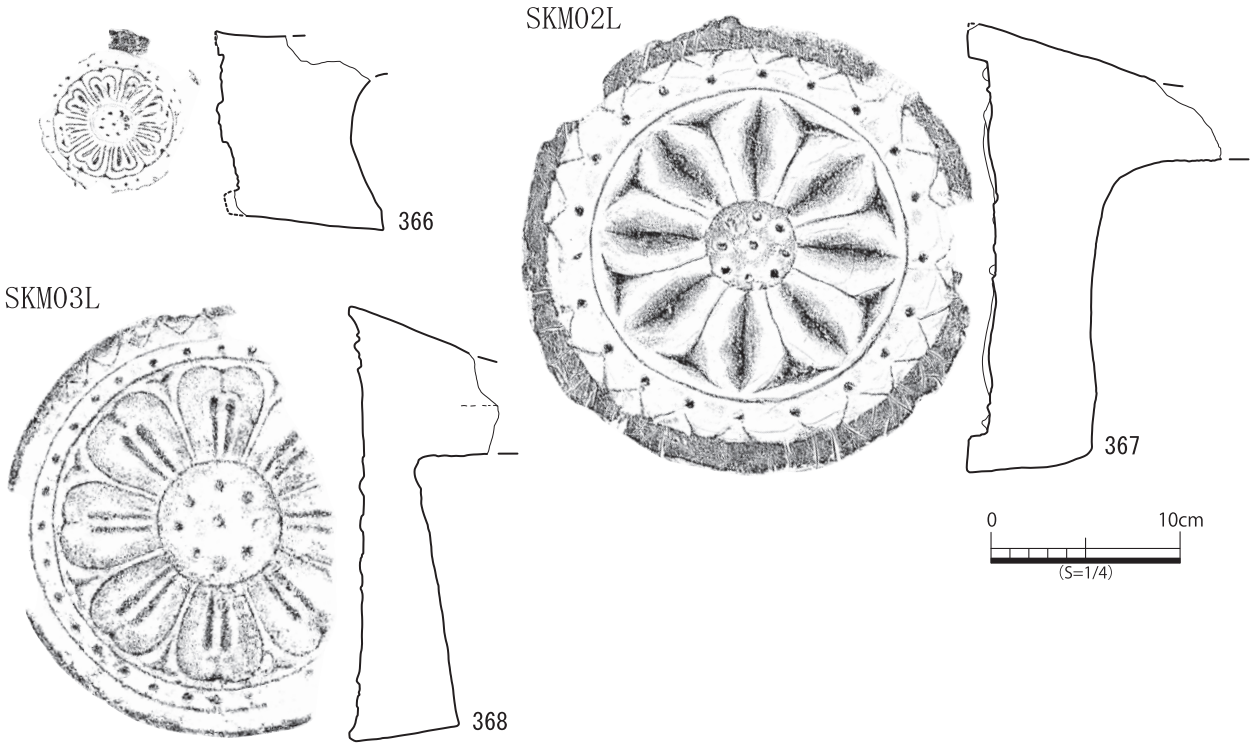


第 112 図 熨斗瓦・隅木蓋瓦（S=1/4）



第 113 図 面戸瓦・雁振瓦（S=1/4）



第 114 図 鳥衾瓦（S=1/4）

形状や大きさである。しかし、文様がⅢ期に位置づけられる SKM10 等の文様に酷似していることから、これを模倣したと考えられる。文様は複弁 8 葉蓮華文である。中房に 1+8 の連子を置く。外区に珠文が巡り、笵傷が多く見られる。文様が SKM10 に酷似していることや、焼成が堅緻で胎土が精良であり、この時期の軒先瓦の焼成や胎土が類似することから、Ⅲ期頃に位置づけられると推測している。また、この形状のものは本来、中世以降に多く見られるものであり、今後の発掘調査等で詳細な年代や技法等を明らかにする必要がある。

7）隅切瓦（第 115 図 - 369 ～ 372）

隅切瓦は宇瓦の SKH01A、SKH01C、SKH03 と女瓦で確認している。

369 は SKH01C である。370 は SKH01A である。右側側面を隅切りしており、通常の側面成型よりも粗い削り方である。通常のタイミングで行う側面ケズリよりも時間が経過してから隅切りを行ったと考えられる。凸面はナデ整形、凹面もナデ整形を行い側面側に調整 1 度入れる。372 は SKH03 であり、左側側面を隅切りしている。凹凸面ともにナデ整形を行っており、通常の SKH03 と同じ整形状況である。全体的灰被りをしている。

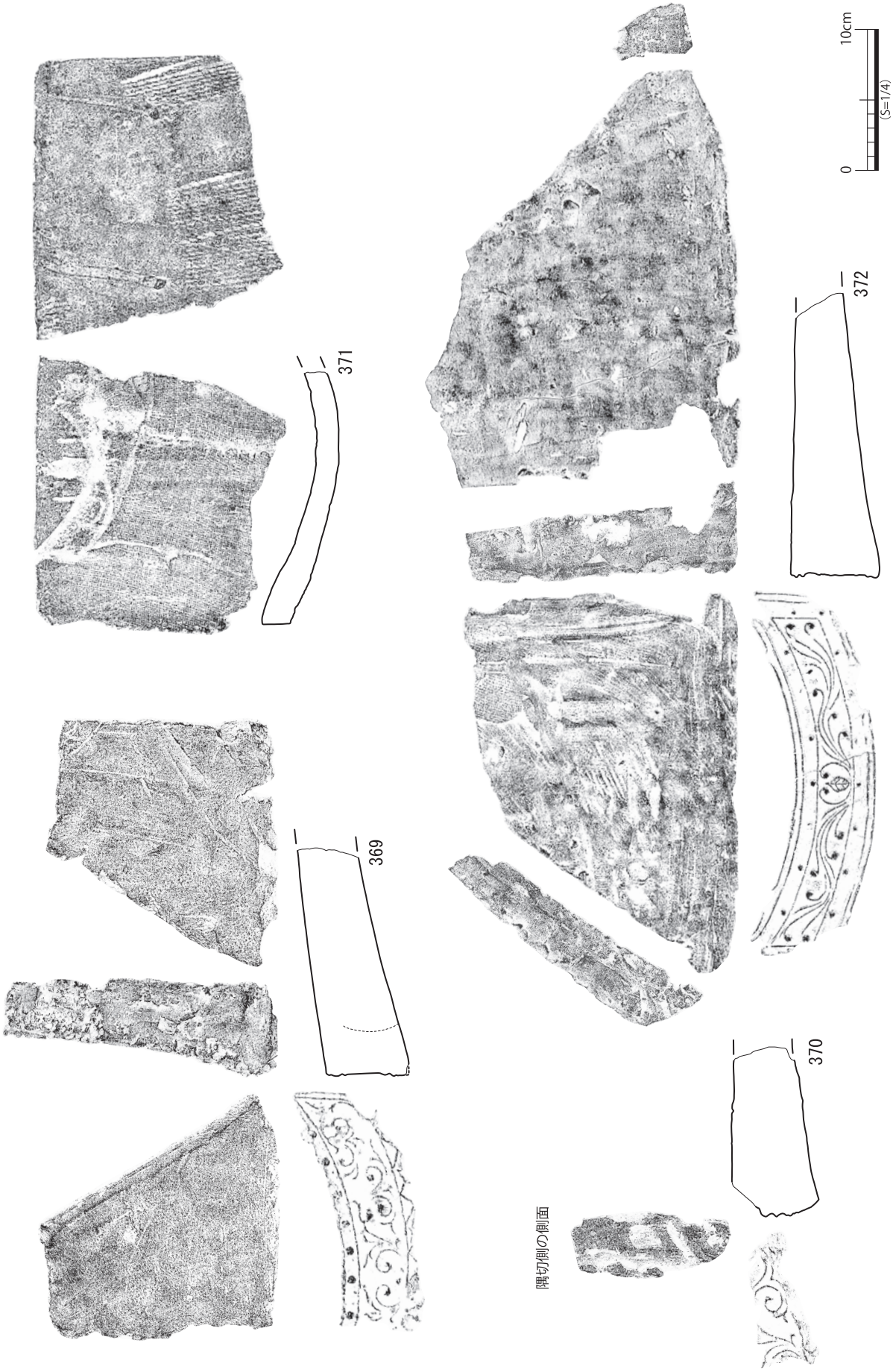
371 は女瓦である。凸面に縄縦 C の叩き具で整形されている。凹面は布目痕と布かがり痕、粘土板合わせ目痕が見られる。粘土板桶巻作りである。

他の隅切瓦を含めて切り位置を検討すると狭端面に近く、小さい範囲しか切り込んでいないものや 370 等のように広端面から大きく切り込むものなど、切り位置のヴァリエーションは多く、屋根の構造に合わせて隅切瓦の生産を行ったと考えられる。基本的には焼成前に綺麗にケズリ成型をしているが、86 のように消費地で瓦を打ちかえたものがあり、多少なり現地で屋根に合わせて瓦と屋根の接着状況を調整したと考えられる。

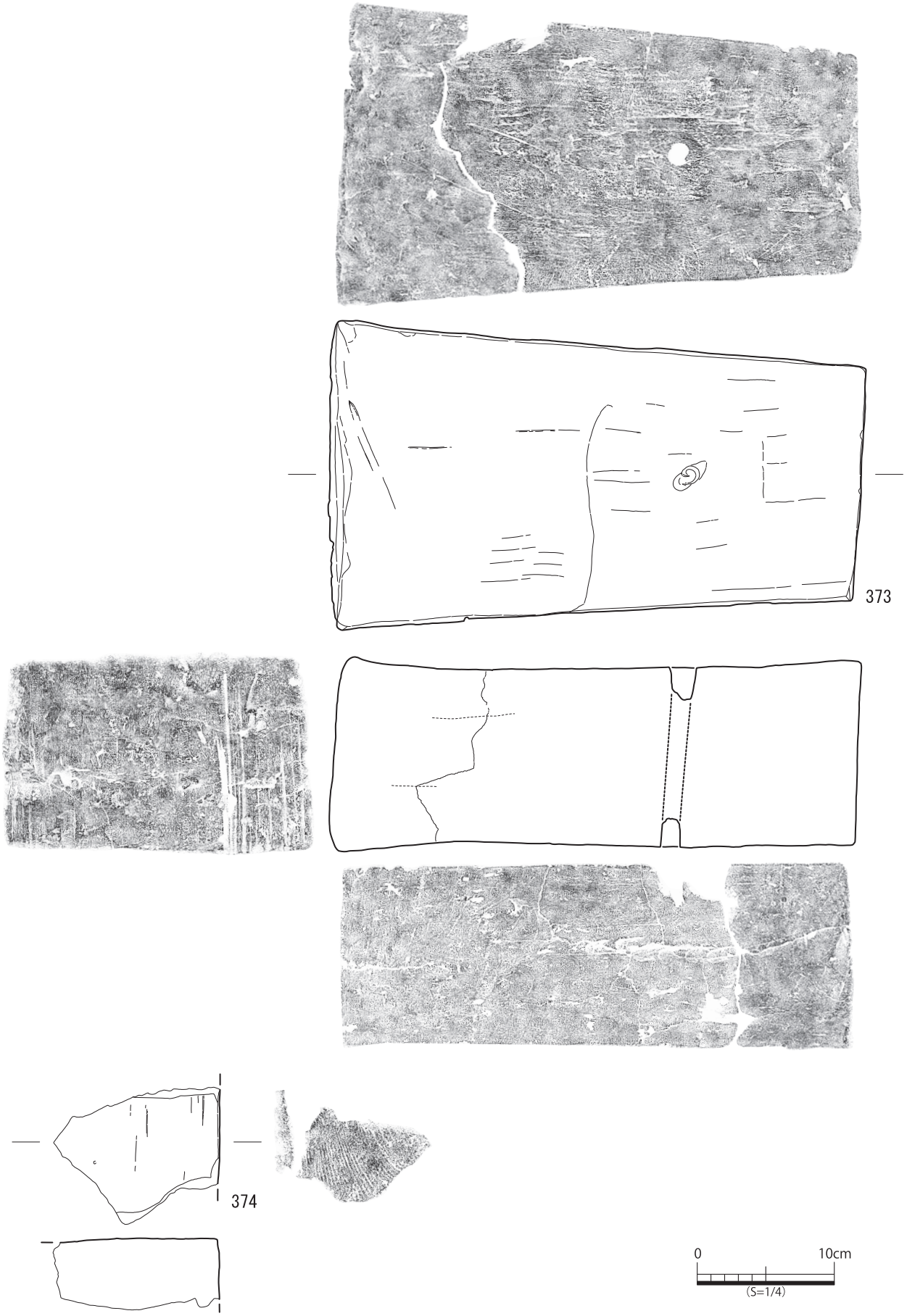
第 7 節　塼（第 116 ～ 119 図 - 373 ～ 390）

出土した塼は主に方形塼と台形塼に分類される。いずれの面もナデやケズリによる整形が見られる。一部薄いものがあり、布目が残るものがある（写真図版 24）。全点ではないが中央に孔が見られ、前後の塼同士或いは地面との固定用のものと考えられる。作り方は粘土板を 3 ～ 4 枚程度重ねて或いは塊上のものを型に詰めて成型する。詰める工程で拳か棒状のもので突き固めながら成型していく。そのため、突き固めた面に次の粘土を押し込むため上面の粘土はネガポジの関係になり、製作時の上面下面が分かる（写真図版 23）。色調はおおよそ灰色～暗褐色で一部赤褐色のものもある。焼成は良好なものが多い。

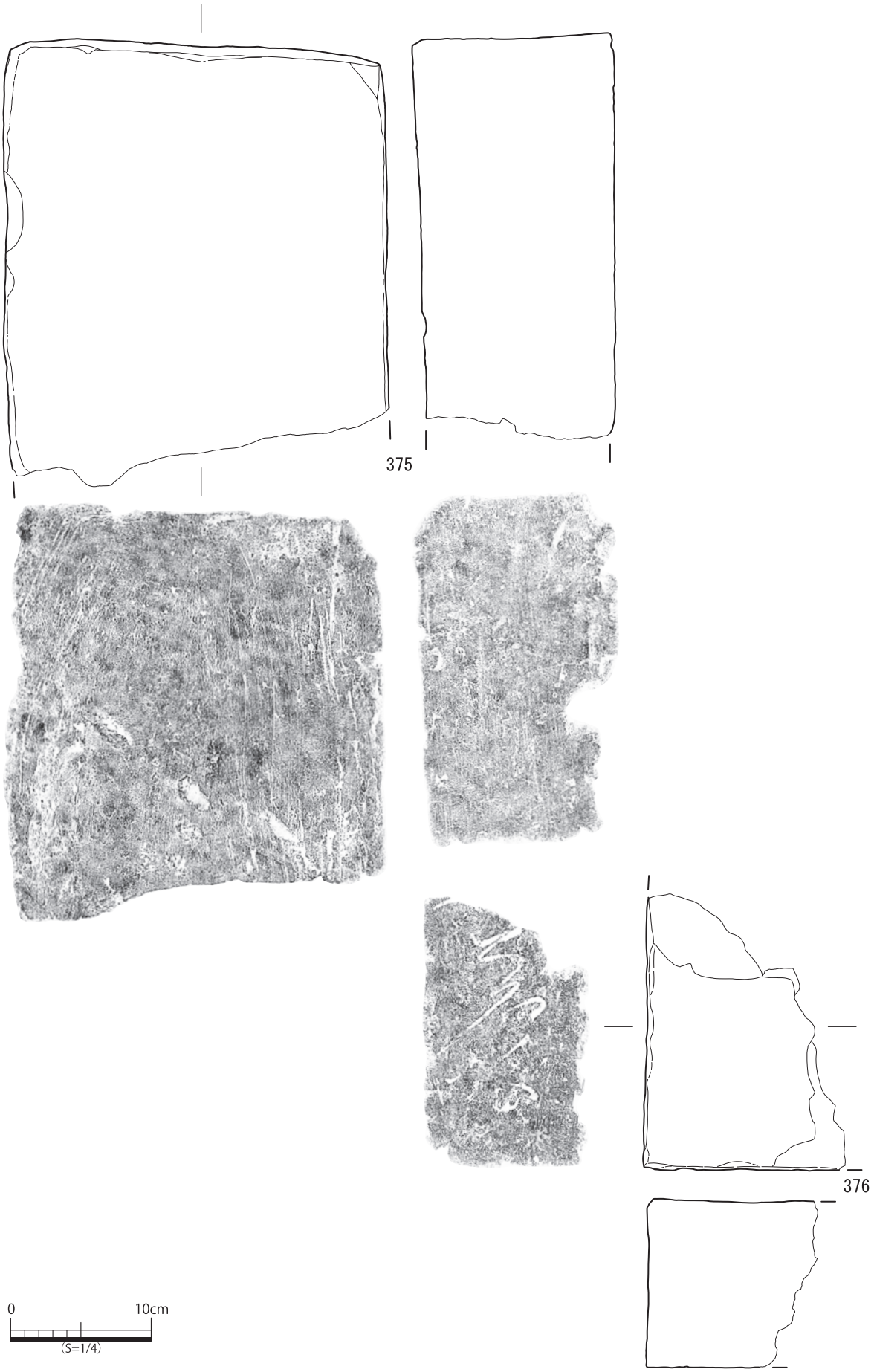
完形品の法量を見ると長方形塼は 2 種類、台形塼



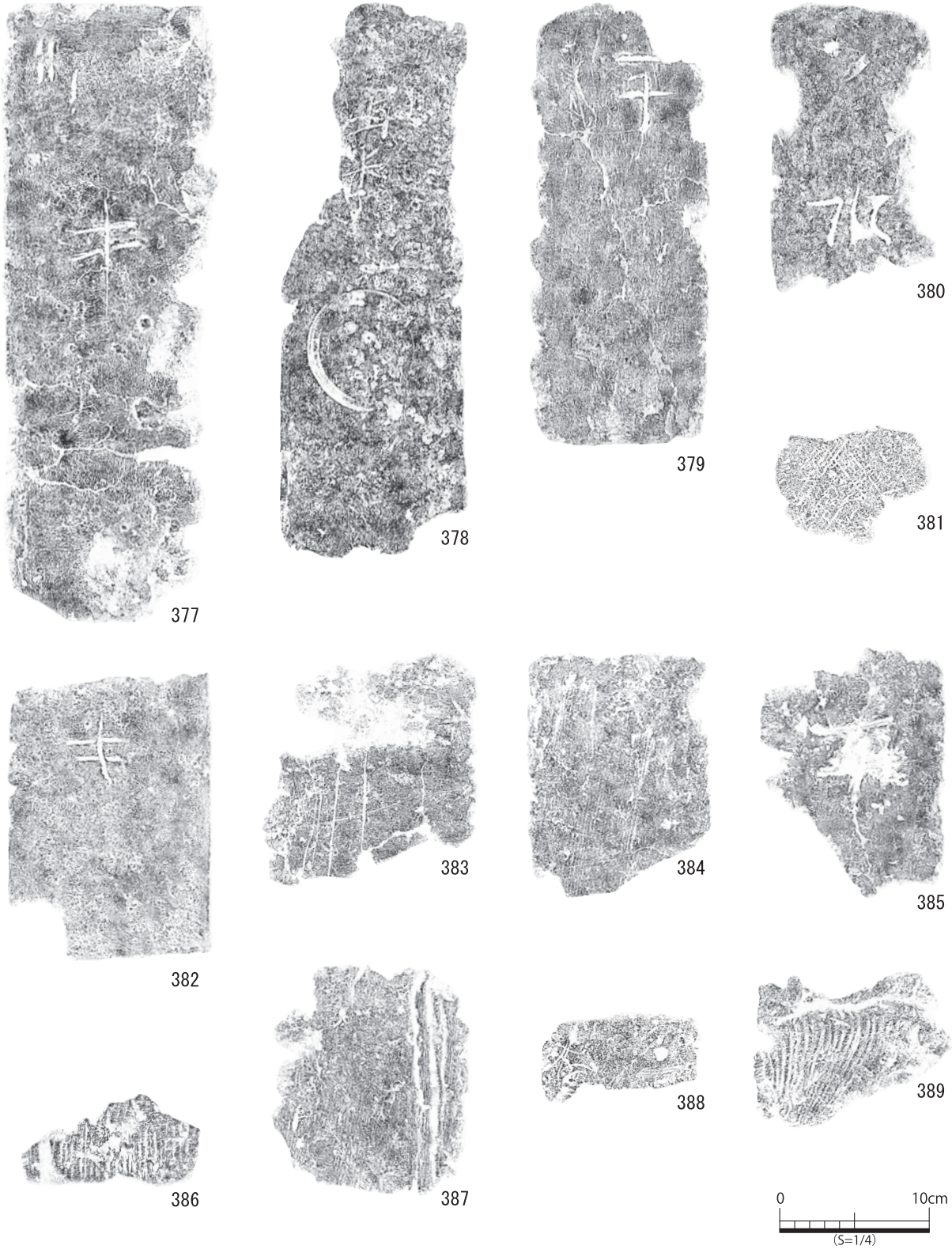
第 115 図 隅切瓦（S=1/4）



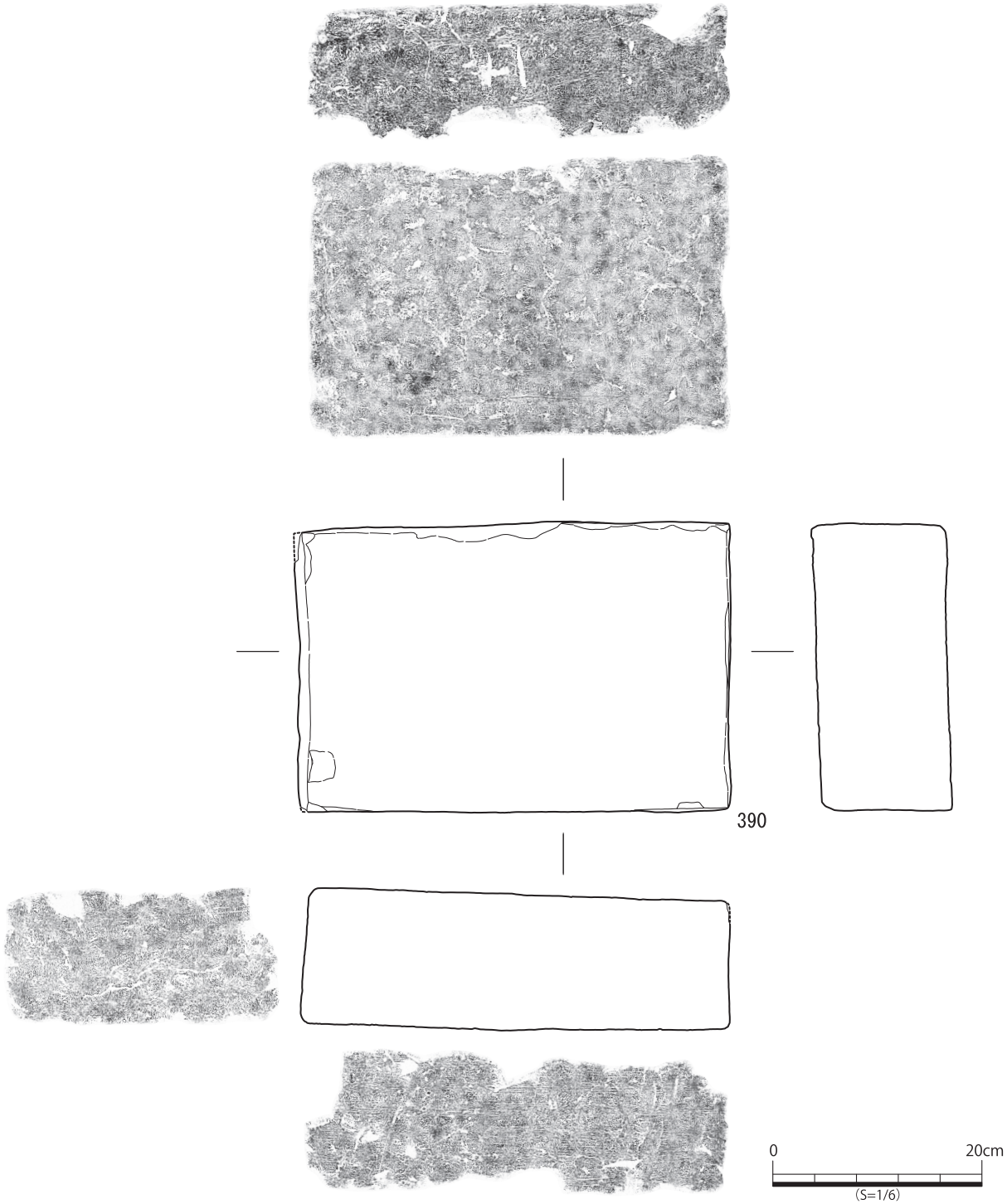
第 116 図 塼①（S=1/4）



第 117 図 塼②（S=1/4）



第 118 図 塼③（S=1/4）



第 119 図 塼④（S=1/6）

は 2 種類に分類できると考えられる。

長方形塼は長辺 40㎝前半代×短辺 27㎝前後×厚さ 14㎝前後に分類される長方形①、次に長方形①に比べ一回り小型な長辺 37㎝前後×幅 25㎝前後×厚み 12㎝前後の長方形②に分類できる。明確な分類差は長方形塼程見受けられなかったが、長辺 37 ～ 38㎝台×短狭辺 18 ～ 19㎝台×短広辺 24 ～ 25㎝×厚さ 12 ～ 14㎝台の台形①と長辺 37㎝前後×短狭辺 17㎝台×短広辺 23㎝台×厚さ 13 ～ 14㎝の台形②に分類できる。技法はいずれの型式も前述した技法で製作されている。重量は完形品が少ないこともあるが、同型式でも重量の差異が見られる。

塼は全点数の重量を計測することができ、総重量 2251㎏である。年度別は 83 年度で 76.9㎏、84 年度で 223.5㎏、85 年度で 780㎏、86 年度で 113.6㎏、年度不明のもので 1056.8㎏である。完形のものは長方形塼で最大で 26㎏、平均的なもので 23.0 ～ 24.5㎏、台形塼で最大 22.5㎏、平均的なもので 19 ～ 20㎏台

である。出土した量としては長方形、台形がおおよそ半数ずつである。乱暴な計算であるが、長方形塼の平均重量を24kgとしたときに約93個体分、台形塼の平均重量を19.5kgにしたとき約115個体分の塼が出土したと推測される。

塼類の特徴で長方形塼にはヘラ記号が多く、「キ」「山■」「一千」等の多彩な文字が確認できる（第118図）。文字は台形塼には見られず、長方形塼のみであることから生産集団がそれぞれ違うと考えられる。番付との指摘もある（国分寺町1996）。

出土位置は昭和60～61年の僧房調査時に多く出土しており、原位置から移動しているものが多い。しかし、遺構に関係がある出土状況として、長方形塼は僧房跡で地覆及び中央間の暗渠護岸用、北面築地でも暗渠護岸用に使用された。台形塼は僧房跡で唐居敷座として使用された可能性がある（写真遺構編43.2）。長方形塼と後述する切石は僧房跡の地覆及び唐居敷座として使用されたと考えられるが、後世の転用の可能性も指摘されている（国分寺町1996）。

年代は僧房の間仕切りに使用されたことから創建期に相当すると考えられる。他の遺構で出土してものは詳細な年代を抑えることは難しいが、出土しているものは製作技法や焼成等が類似することからいずれも創建期に生産されたと推測される。

第8節　文字瓦（第120図 - 391～398）

文字は記号とも考えられ「－」「×」等、「　」大■」、「　」十歳」等が出土している。

「≠」は393で器種は女瓦である。「－」と同様で凸面整形や焼成等にヴァリエーションがある。この文字に類似したものが塼にも見られるが関連性は不明である（382等）。

「－」は394で器種は女瓦である。記名されたものの種類は、女瓦が大半であり、熨斗瓦や男瓦に少量見られる。凸面は格子叩き（斜格子Ａ）である。凸面の叩きは種類不明であるが、数種類の格子叩きや縄叩き、ナデ整形のものが確認できる。焼成や胎土もヴァリエーションがある。文字の表記もヘラ書きのものや指書きのものがある。記名宇位置は凸面が多い。文字の意味は不明だが、叩き具の種類や胎土や色調のヴァリエーションが多いことから長期間に渡り何らかの意味を持ち、記名されたと推測される。

「×」は396で器種は女瓦である。396は墨書であるが、他の個体はへら書き、指書き等で表記するものが大半である。「－」と同様で凸面整形や焼成等にヴァリエーションがある。

「　」十歳」は397で器種は女瓦である。凸面は縄叩き後にナデ整形を施す。年号を示すものと推測されるが、年号に十歳と示す年号がないことから今後検証する必要がある。

「　」大■」は398で器種は男瓦である。

「伏瓦」は391で凹面に記入している（SKH05A）。「亻大」は異体字である。

前冊で提示したが、「国分金光明（寺？）■」とヘラ書きされた文字瓦が出土している（写真図版25-6）。前回の報告と異なる点は「寺」と思われる文字と解読不明の文字が見られる。ヘラ書き後に半裁していることから桶巻作りである。出土位置から築地塀と考えられる。「国分」と「金光明」を併記する例は天平17年に太宰府伝播で見られる（岩波1991）

前述したように塼も文字が記入され、「山■？」（378）、「一千」（379）、「水？」（380）が挙げられる。

文字の記名率は女瓦に多く、その他の器種は少量である。しかし、長方形塼は文字のバリエーションがあり、種類が豊富である。文字は「－」「×」が圧倒的に多く、次いで「≠」である。他の文字は1点のみである。

第9節　その他の瓦塼類及び石製品

その他の瓦塼類（第121図 - 399～400）

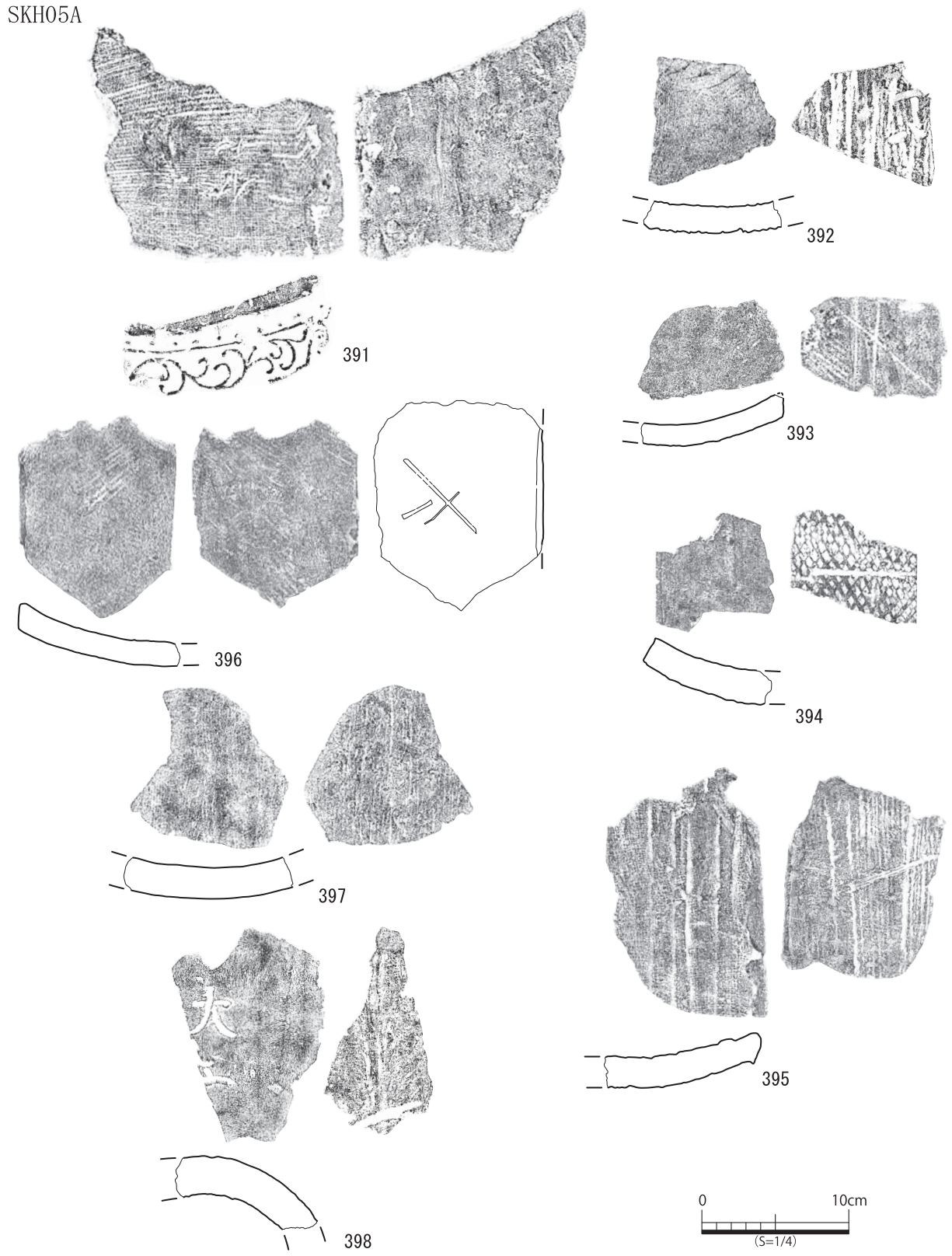
用途不明なもので399・400が挙げられる。399は中央がボール状に湾曲している。色調は灰白色で焼成は良好で瓦質である。400も付け根部分が湾曲している。焼成や胎土は399と同様である。

棟飾瓦（第121図 - 401）

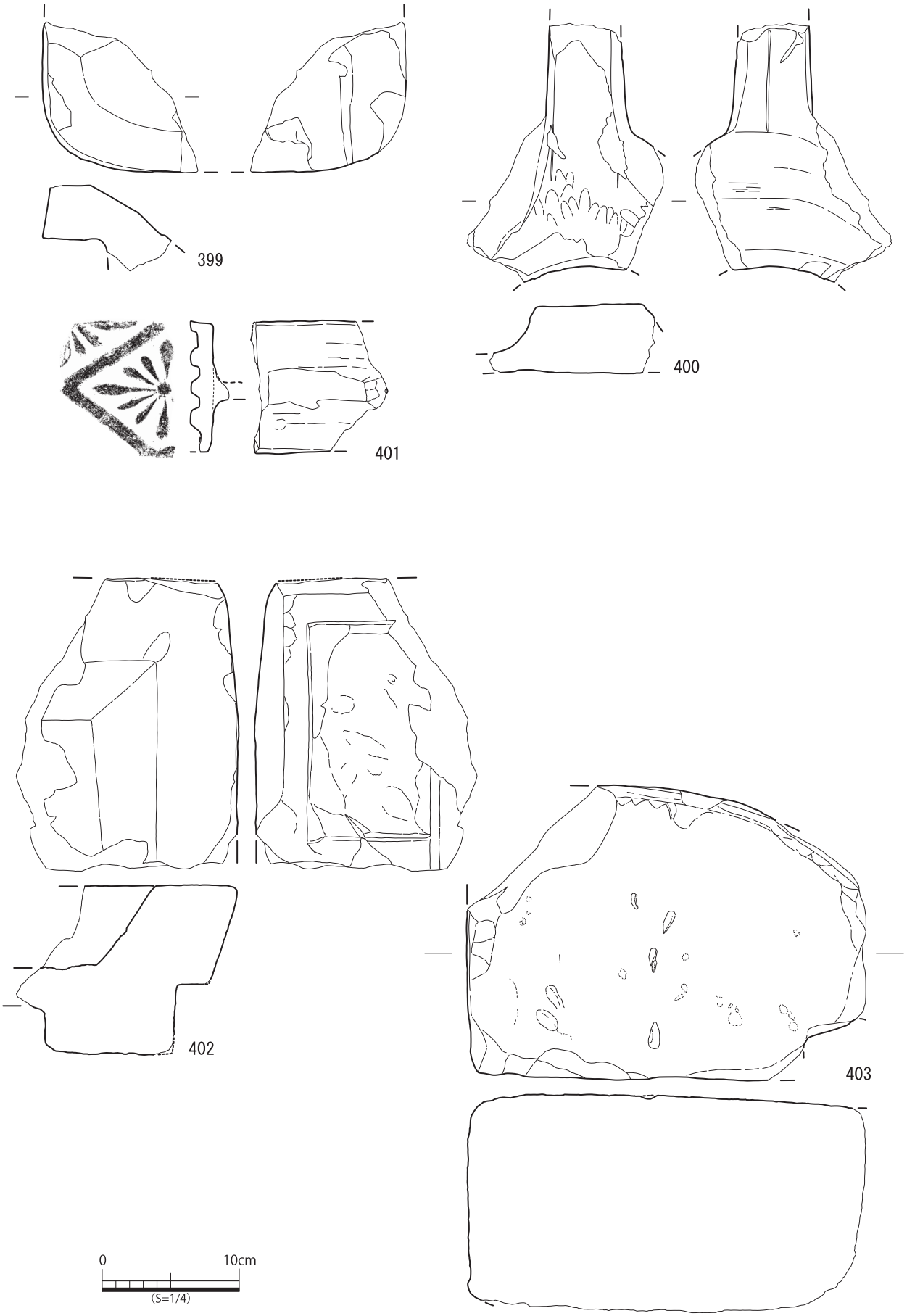
401は菱形を呈する菊花文で、離れ材としてキラ粉を使用する。裏面には棟に差し込む方形の突起がある。ナデ調整によって仕上げる。

石製品（第121図 - 402・403）

402は唐居敷座の一部と考えられる石製品である。材質は凝灰岩で角閃石や白色砂粒、黒色砂粒を多量に含む。台座が逆台形状に切込み、柱等を据えたと考えられる。403は凝灰岩の切り石である。写真図版27のように塼類と同様に地覆として使用したものである。



第 120 図 文字瓦（S=1/4）



第 121 図 その他の瓦塼類・石製品（S=1/4）

第４章　総括

第１節　胎土・色調・焼成状況から見る瓦の分類

各器種・型式で胎土や焼成の特徴について前述したとおりであるが、改めて軒先瓦を基準に傾向を記述する。まず、胎土であるが、瓦類全体の特徴として多寡はあるが、白色粒が入っており、混和剤と考えられる。この胎土をベースに黒色粒や赤色粒等の粒子が混入し、軒先瓦では型式ごとに混入物が入ることが判明した。ただ、SKH01A 等のように白色粒のみの個体と赤色粒を含むものがあり、明確に線引きできない型式もある。その状況を表したものが第 122 図（上段）である。

まず、胎土別に分析した際、白色粒のみであるものは SKM01・04・05・06 である。SKM01 は技法によって砂粒の細粗はあるが、基本的に白色粒のみである。一方、赤色粒を出土量の大半で見られるものは SKM03L・07・08・16・17、SKH05・06・09・10・12・18 である。白色粒のみのものと赤色粒を含むものが半数前後のものが、SKM03A・09・15、SKH01 全般・03 である。黒色粒を多く含むものとして SKM02A・SKM02L が挙げられる。混和剤を含めた粒子の大きさは型式によって１～２㎜前後を主体とするものと、３～５㎜を主体とするものに分けられる。１～２㎜前後のものは SKM01 ～ 06、SKH01 ～ 06 である。もちろん個体による差異や遺物観察表では５～８㎜台と大型の粒子を含んでいるものもあるが、基本的に１～２㎜の粒子を多く含む傾向にある。３～５㎜を主体とするものは SKM07・08・09、SKH02・05 である。

色調や焼成状況を見ると大きく２種類に分けられ、暗灰色～灰色系で焼成が硬質なものと灰色～にぶい黄橙色系で焼成が軟質であるものに分けられる。その状況を表したものが第 122 図（下段）である。前者に位置づけられるものは SKM01 ～ 06・10A、SKH01 全種、SKH03・04・06 である。後者は SKM07 ～ 09・15・17、SKH05・09・10・12・18 である。また、窯での焼成時に着床した灰被りが顕著に見られるものが SKM05 と SKH03・06 である。灰被りは SKH01A 等で１～３点程度見られるが、SKM05、SKH03・06 が顕著に見られる１群である。

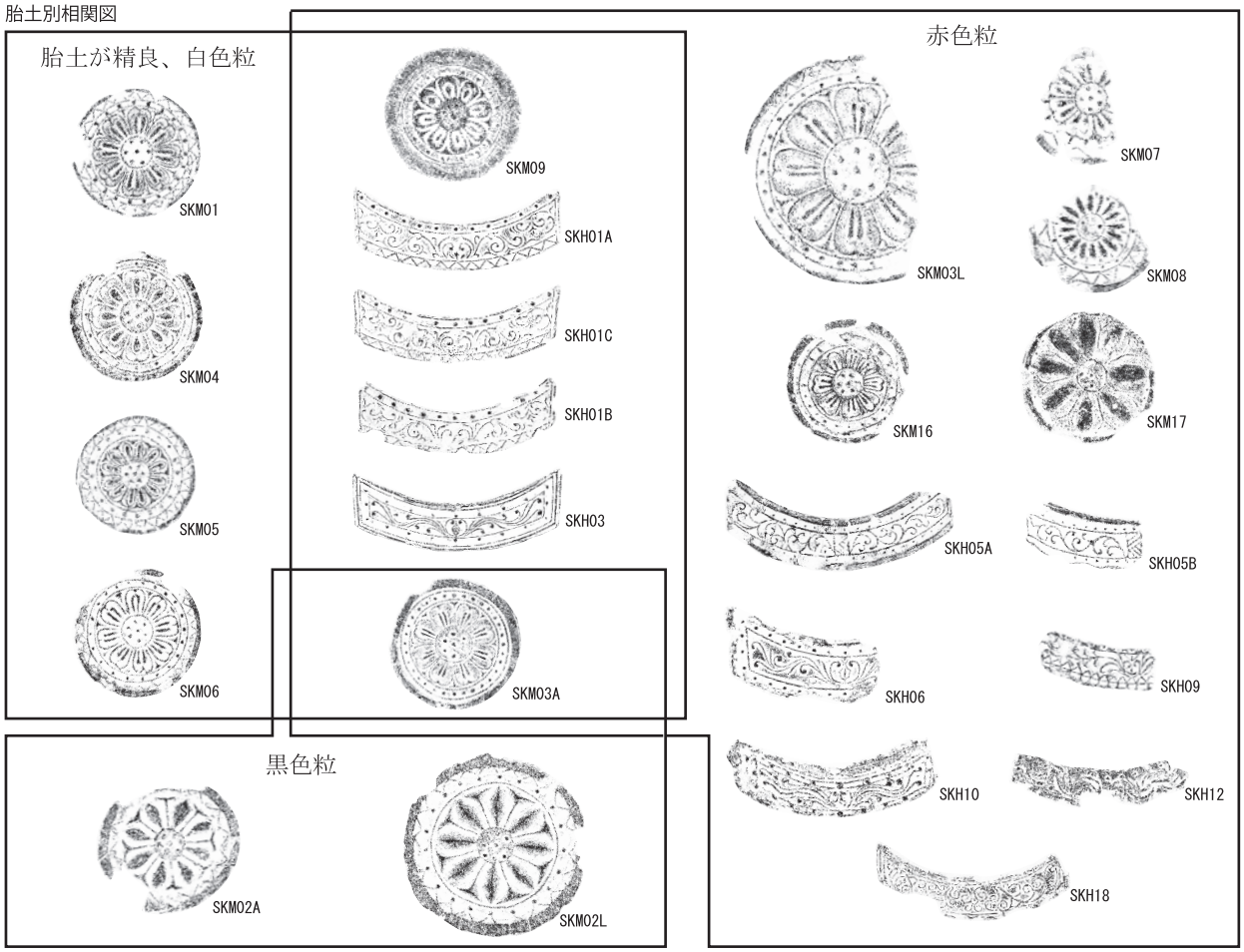
含有物と焼成の結果を踏まえ、第６表や第 122 図のＡ～Ｄの４つのグループに分類できると考えられる。まずＡグループの特徴は焼成は良～硬質のものが多く、色調は灰色～暗灰色系である。胎土は白色粒のみを含んでいるものが多い。もちろん SKH01A 等のように赤色粒を含んでいる型式もあるが、焼成や色調を含めて総合的に判断した際にＡグループに属すと考えられる。ＢグループはＡグループと胎土、焼成は類似するが、灰被りを受けており、Ａグループと比較し、生産地や時期等が異なると考えられる。Ｃグループも同様にＡグループと焼成は類似するが、胎土に黒色粒を含んでいるグループである。SKM03A は技法を含めて検討すると現状ではＡグループに属すと考えられるが、今後の調査研究によってはＣグループに属される可能性もある。Ａ・Ｂ・Ｄグループは創建期（Ⅰ・Ⅱ期）の時期に生産されたと考えられる。Ｃグループは胎土に赤色粒を含み、灰色～にぶい黄橙色系で焼成が軟質なグループである。平安期（Ⅳ期）に属すと考えられる。Ⅲ期に位置付けられる瓦類（SKM15 や SKH10 等）はＡ～Ｄグループのいづれかに偏るという傾向はつかめず、いずれかに属すというものである。

この傾向を男瓦や女瓦に当てはめると、凡そ一致すると考えられ、技法や作り等を含め検討した結果、創

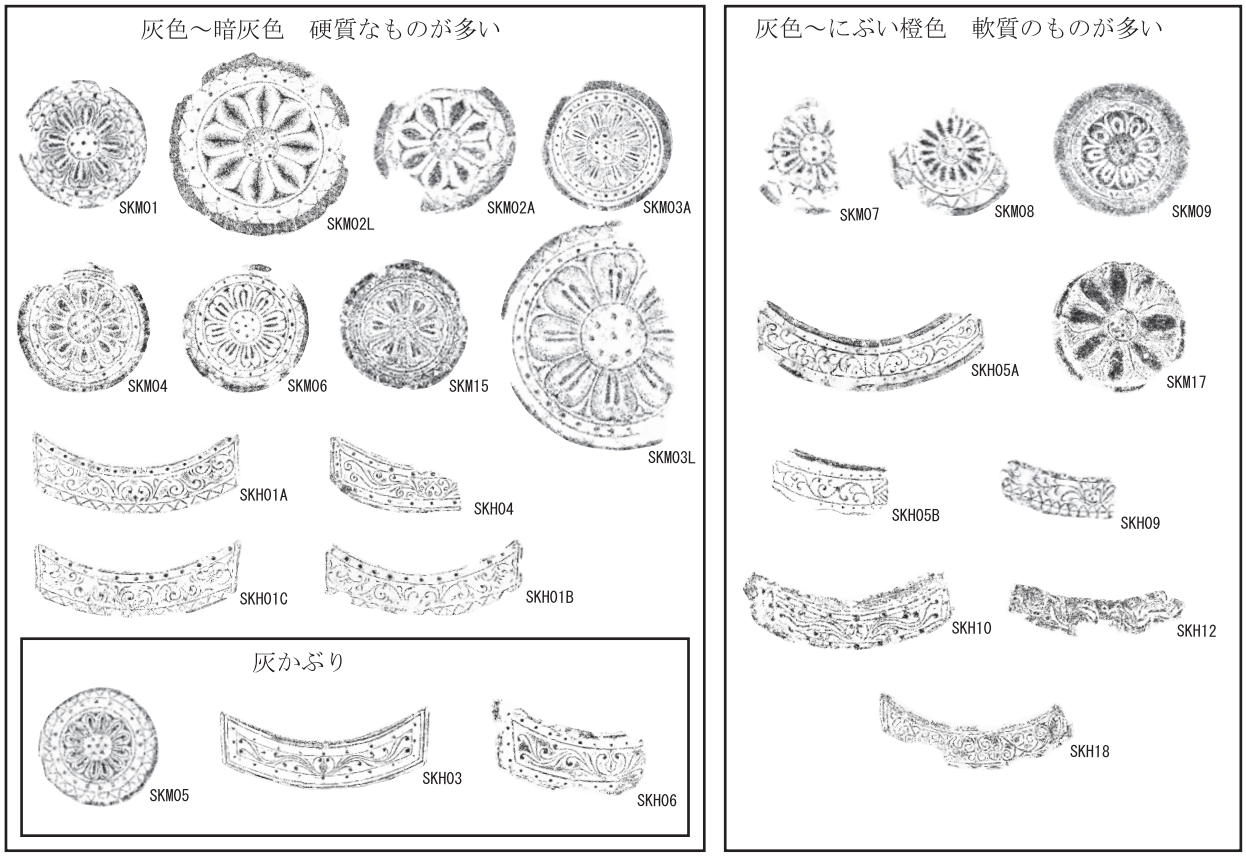
第６表　胎土・焼成等分類一覧表

分類	色調	焼成	胎土（含有物）	その他	型式
グループA	灰～暗灰色系	硬質が多い	精良で白色粒（一部に赤色粒が混ざる）		SKM01～06・15 SKH01・04
グループB	灰～暗灰色系	硬質が多い	精良で白色粒（一部に赤色粒が混ざる）	灰被り	SKM05 SKH03・06
グループC	灰色～にぶい橙色系	軟質が多い	赤色粒（一部白色粒多い個体もある）		SKM07～09・17 SKH05・09 10・12・18
グループD	灰～暗灰色系	硬質が多い	黒色粒が多い		SKM02

胎土別相関図



焼成状況相関図



第 122 図 胎土別・焼成状況相関図

建期に位置づけられるものは暗灰色～灰色系で焼成が硬質なものが多く、平安期の時期が下がるものは灰色～にぶい黄橙色系で焼成が軟質であるものが多い。鐙瓦・宇瓦も含め焼成時の窯内の位置によって色調や焼成状況が変化することは念頭に置かなければならないので、今後の発掘調査状況によってグルーピング等を再考する必要はある。また、男瓦と女瓦は赤色粒の混入が型式ごとに明確に分類することが困難で、赤色粒を確認できる個体も鐙瓦・宇瓦の割合から考えると少量であると考えられる。

第２節　創建期における瓦の技法について

軒先瓦や男瓦・女瓦をはじめ、分類ごとに多様な瓦の製作技法を確認した。ここでは創建期の瓦類を中心に製作技法から見る瓦の変遷について簡潔に記したい。

まず、鐙瓦の製作技法は SKM01 で接合式と横置型一本作りを確認しており、笵傷の進行から接合式から一本作りに変化することはすでに明らかになっている（妹尾 2017）。SKM04 の変化は妹尾氏も指摘（妹尾 2017）しているとおりだが、今回の分析で枷型がある状態 (范割れなし）→枷型を抜いた状態で笵割れがないもの→中房から笵割れしているもの（接合式）→笵割れ一本作りになる（尼寺へ）と変化することが明らかになった。よって、創建期でも初期の頃は接合式に始まり、その後横置型一本作りに変化することが判明した。

宇瓦では SKH01A に粘土板桶巻作りと粘土板一枚作りが確認できる。両者を比較すると桶巻作りのものは文様がシャープで立体感があるものに対し、一枚作りは下外区に鋸歯文に彫直しが見られる。また、文様全体のシャープさが失われ、若干丸さがでる。よって、SKH01A は粘土板桶巻作りから粘土板一枚作りに変化する。SKH01C でも粘土板桶巻作りと粘土板一枚作りを確認している。SKM01C の桶巻作りは模骨痕をもつもの、分割線を入れた状態ものを確認している。SKH01C は左脇区に近い、支葉に笵傷の有無があり、桶巻作りにはなく、一枚作りには見られることから、粘土板桶巻作りから粘土板一枚作りに変化することが判明した。桶巻作りと一本作りの出土割合は数値化はしていないが、今回の調査範囲（僧房跡等のⅡ期に相当）一枚作りが圧倒的に多く、桶巻作りが少ない状況である。

桶巻作りから一枚作り・一本作りに変化した様相は創建期の主要な造瓦組織（国衙系工房）に影響したと推測される。国衙工房の瓦は府中・山内瓦窯跡で生産されたもので国衙工房が関わっており、国分寺の主要な瓦生産組織としての位置づけは現状と変わりない。一方で、平城京系の瓦は鐙瓦と宇瓦の製作技法はそれぞれ、接合式と段顎・曲線顎であり、一枚作り・一本作りの技法は入らない。

よって、一枚作りと一本作りは、国分寺や讃岐国内の造瓦体制において全てに影響したものとは現状考えておらず、国衙工房内等に一定期間・一部の造瓦組織に当てはまると推測される。現に、特に横置型一本作りにおいては国分僧寺・尼寺の造営時は主要な造瓦生産の一端を担っていることは既に明らかになっている。しかし、僧寺・尼寺の造瓦組織は武蔵国や上野のように多様な造瓦組織の関与は認められず、国衙工房による造瓦組織の可能性があり、その中心が府中・山内瓦窯跡であると考えられる。そのためか、周辺の古代寺院には、特に一本作りに関してはほぼ分布せず（開法寺・宝撞寺を除く）国分僧寺と尼寺のみに分布し、後世には伝えられないことが現状の研究成果からいえる。そのため、一本作りの技術を有する工人は一定期間に製作したのちに国衙工房を離れ、讃岐国を離れた可能性がある。そのため、一本作りの技術は讃岐国に広まらなかった可能性が推測される。

SKH01A・C ともに数量は判明していないが桶巻作りの点数は少量であり、SKH01 を生産した当初から早い段階で一枚作りに変化した可能性がある。一方で SKH01B には桶巻作りは確認できない。出土量は SKH01A・C に比べ少なく、既往の研究成果を含めた文様の変化でも SKH01A・C よりも SKH01B は後出であることが明らかになっている（渡邊 2017）。以上の状況から、SKH01B は SKH01A・C が一本作りになったタイミングで生産が開始されたと推測される。また、SKH01B は讃岐国分尼寺で主要な生産量になることから、僧寺では他の SKH01 より少量であったと考えられる。

女瓦の製作技法は桶巻作りと一枚作りの両方が確認されている。一枚作りが採用されたタイミングとしては、宇瓦に一枚作りが採用されたと同時期と考えられる。一方で、男瓦の一本作りは全体の出土量から換算すると極わずかである。一枚作りが入る一方で、男瓦の主要な生産は依然として桶巻作りが主要と考えられ

る。

第３節　国分寺瓦の生産地について

国分寺に瓦を供給した窯跡はこれまでの研究で府中・山内瓦窯跡が挙げられる。府中・山内瓦窯跡は高松市と坂出市の市境を跨って設置された瓦窯である。大正 11 年に国指定史跡に指定されているが、本調査を実施した経歴はなく踏査や採取資料等による分析が中心である。これまでの研究で窯跡は 13 ～ 14 基存在したと推測される（渡部 2013b）。これまでに窯構造が判明できた窯跡は有段式登窯２基と有牀式平窯２基であるが、焼成室の位置等が大まかに解明できるのみで全体の様相は不明確である。府中・山内瓦窯跡からは SKM03A と SKM07、KB06（讃岐国分尼寺）、SKH01C が出土しており、讃岐国分僧寺と讃岐国分尼寺出土瓦の主要な生産地として挙げられていた。現在までに、府中・山内瓦窯跡以外で瓦類の生産地は明らかになっていない。

第４章第１節で胎土と焼成ごとの分析を行ったが、創建期に位置づけられたものの中でも SKM01 等の灰色系のものと SKM05 等の灰被りをしているものの２種類に分けられる上に、平安期に位置づけられる SKM07 等は軟質で灰褐色系で赤色粒を多く含んでおり、創建期から平安期にかけて４グループに分けられる。また、男瓦や女瓦の中でも焼成や胎土、技法が異なることから府中・山内瓦窯跡以外で生産された可能性はあり、これまでの発掘調査で明らかになった成果で製作技法や焼成状況等から他の生産地の可能性について考えてみたい。その中で、三豊市所在の金鳥池窯跡と綾川町所在の丸山窯跡で出土する瓦類に同類の叩き具や製作技法があるためこれらの窯跡について検討したい。

三豊市所在の金鳥池窯跡は確認調査により２基の有牀式平窯が確認され、出土する軒先瓦や研究成果から８世紀末～９世紀頃の窯跡と考えられる（塩冶・垣見 2013）。同笵の軒先瓦はないが、叩き具や色調等が類似した女瓦が出土している。叩き具は正格子Ｆが挙げられ、色調は灰色～浅黄橙色で焼成も良好であることから正格子Ｆの特徴と同一である。その他に、断定はできないが国分寺のものと類似した縄叩きの女瓦等が確認されている。窯跡の年代等を含めて検討すると、Ⅲ期～Ⅳ期に国分寺に供給した窯跡の１つと想定される。

綾川町に所在する丸山窯跡は古墳時代から続く十瓶山窯跡群内の⑤支群に位置づけられる窯跡である（森下 2016）。丸山窯跡は京都府鳥羽離宮宮田中殿金剛心院、平安宮南面大垣等に供給したと考えられる窯跡である。生産時期は 12 世紀前半～ 12 世紀後半と考えられる。ここで出土する男瓦には粘土紐桶巻作りのものが確認でき、僧寺の同一技法の男瓦と焼成や胎土が類似することから丸山窯跡で生産された可能性がある。

また、特定の窯跡は確認できなかったが、縄斜系叩き具の男瓦は十瓶窯跡群の丸山窯跡や綾川町ますえ畑窯跡等で生産されており、胎土や焼成は国分寺と類似していることから、これらの生産地が候補として挙げられる。生産時期は 11 世紀から 12 世紀と考えられる。

本節で生産地に関する検討を行ったが、金鳥池窯跡や丸山窯跡で出土するものは国分寺内における出土量の割合は高くなく、創建期に位置付けられる瓦類は出土していない。現状において、創建期の主要な生産地は府中・山内瓦窯跡を考えなければならない。今後の発掘調査で新たな同笵瓦が出土する窯跡は十分に考えられる。また、男瓦や女瓦の分析で丸山窯跡等の他の窯跡で生産された可能性は十分にあり、今後の発掘調査や既往の資料の詳細な分析を行い、供給体制の様相を明らかにしたい。

第４節　讃岐国分僧寺の瓦編年について（案）

1）編年（案）の前提について

出土した瓦について文様や技法、胎土、調整等の特徴から編年を考察したい。しかし、ここで前提となるのが、讃岐国分僧寺は僧房跡や鐘楼跡等は発掘調査を実施しているが、塔跡や金堂跡・講堂跡等の中心部の建物の調査は実施したことはない。他国の国分寺では塔跡か金堂跡が最初に造営されていることを考慮すると、讃岐国分寺の創建当初の編年や葺かれた瓦類の状況等を考察することは極めて難しい。そのため、今回の編年案は僧房の創建時期を中心とした編年案で金堂跡等を含めた創建当初の様相や時期等については技法や文様等から推測するものであり、今後の発掘調査等で当初の瓦の様相や創建年代を再考する必要がある。今回の変遷案で使用する瓦類は僧房跡、鐘楼跡、築地塀等に使用された個体に基づく。

まず、時期設定は主に 4 期に分け設定する。Ⅰ・Ⅱ期は創建期に位置づけ、Ⅰ期は他所の国分寺の造営順序を考慮し、国分寺内で先行して造営される塔跡や金堂跡等の中枢仏堂の造営時として設定する。Ⅱ期は中心部の造営から一定期間経過すると考えられることから僧房跡や鐘楼跡の周辺施設の造営時として設定する。しかし、今後の調査状況によってⅠ期とⅡ期の設定を改変しなければならない可能性はある。Ⅲ期は創建後の小規模な補修期として設定する。Ⅳ期は大きく平安時代内と設定し、細分は今回行っていないが、大規模な修理と小規模な修理が混在した時期として設定する。国分寺の創建年代はこれまで SKH01 の東大寺式宇瓦を定点として年代設定（神護景雲年間が創建）が行われていた（渡部 2013）。しかし、各部位は様々ある東大寺式の要素を取り入れてはいるが、文様全体を比較した際に特定の平城宮式に当てはめる年代を考察することは困難であると考えられる。一方で、後述するように、SKH03 や SKH06 が天平宝字 7 年以降に生産された可能性があると考える定点資料と考えられる。また、大きく 4 期に分類しているが、瓦の変遷状況や今後の消費地、生産地の調査状況によって細分できる可能性は十分にある。

2）これまでの讃岐国分寺の年代観について

これまでの研究で讃岐国分寺の年代観については多くの研究者によって述べられ、各研究者で年代観が異なる。ここでは簡略的ではあるが、各研究者の創建年代を中心に瓦の年代観について触れたい。

まず、渡部氏は SKH01A の特徴が東大寺式の系統下にあると考え、文様意匠の特徴から天平勝宝年間（749 ～ 757）頃の東大寺式宇瓦（6732E ～ G・J 等）まで遡らず、神護景雲年間（767 ～ 770）頃の西大寺系東大寺式宇瓦（6732N・M・X 等）の影響を受けたと考えており、創建年代を 770 年頃と想定している。宇瓦は SKH01A → 01C → 01B の型式的変化を想定している。鐙瓦は SKM01・03A → SKM02A・04 → SKM06 という変遷を考えており、SKM06 の年代を延暦初年（780 年代前半）頃に位置づけた（渡部 2013）。

松本氏の変遷は、鐙瓦は SKM01・03A・06（横置き型一本作り）→ SKM01・04（接合式）→ SKM02A・04 と変遷することを打ち出した。宇瓦も文様の変化から SKH01A → 01B → 01C と変遷すると考えた。創建年代は SKH01 の祖型を天平文様に求め、横置き型一本作りの製作技法による鐙瓦や平城京式鬼瓦等から天平 12 年以前の造瓦技術が讃岐国分寺導入されたと考えた。最新の見解としては SKH01 が東大寺法華堂の八乾漆像の天平模様に由来し、法華堂の創建事情や讃岐国分寺・国分尼寺の造営に際して、中央から伝播した造瓦技術の変遷を受けた結果、天平 9 年（737）の造仏の詔を受けて造営が始まったと推測している。（松本 2009・2015）。

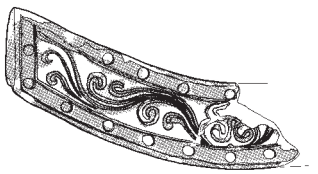
妹尾氏は製作技法や宇瓦の顎の形状、笵傷の進行等の観点から分析した。その結果、SKM01A の技法は笵傷の進行から接合式から横置き型一本作りに変化したことを解明した。また、創建当初の瓦は SKM05・SKH06 の組み合わせと考え、文様や製作技法等から平城宮瓦編年をもとに天平勝宝末年頃、750 年代の中頃と位置づけられれると考えている（妹尾 2017）。

前述したとおり、渡部氏は SKH01 系統の年代観を平城京 6732Zb・6733A 等と文様が類似していることから神護景雲年間頃に当てはめている。SKH01 は東大寺式をモチーフにしている考えられるが、文様が中心飾りが近似していること以外に類似点が乏しい。また、渡部氏は SKH01A・01B は上記の平城京系瓦と同じ変化を辿ると述べているが、何等かの技術的交流も含め、その実態については想定されていない。瓦文様は東大寺式をモチーフにしているが、大きくリメイクされており、限定的な年代を与える困難と考えられる。

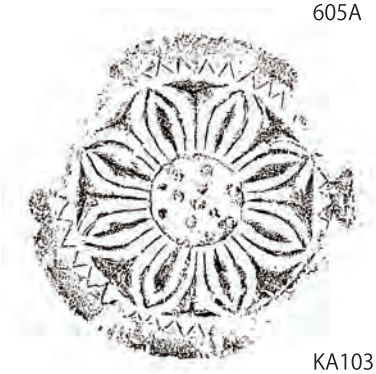
松本氏の年代観は採用した文様や技法の上限年代を採用しており、国分寺建立の詔以前に造営が開始したと想定されているが、地方における横置型一本づくりの導入は国分寺造営頃に導入される地域が多く、必ずしも平城京と同時期に技法の年代を置く必要はないと考えられる。

3）瓦の変遷について

瓦の変遷を述べる前に文様の系譜状況を整理したい。まず、鐙瓦であるが、SKM01 が宝幢寺（丸亀市）の鐙瓦を模倣して作成されており、国分寺独自の瓦文様を創造する。一方、宇瓦は SKH01 は東大寺式の模倣、後述するように SKH03・06 は唐招提寺の三釉瓦を模倣したものと考えられる。創建期の宇瓦はこれらの平城京系の瓦で構成される。また、鐙瓦 SKM05 を含め、平城京系の瓦類は程度は様々であるが、リメイクされているのが讃岐国分寺で出土する平城京系瓦の特徴である。よって、鐙瓦は SKM05 を除くと在地系瓦をモ



605A



KA103

第 123 図 唐招提寺・弘安寺出土瓦（S=1/4）
（岡田ほか 2017、高松歴資 1996 より）

チーフにしているが、宇瓦は平城京系瓦をモチーフに創建期瓦を生産していることが分かる。

さて、前述した各型式の技法や胎土の状況について分析した第 1・2 節の記述と瓦の文様系譜を考慮すると第 123 図のような変遷になると考えている。各期の詳細は以下のようである。

①Ⅰ期

まず、Ⅰ期に位置づけられる軒先瓦、すなわち塔跡や金堂跡等に葺かれたものは鐙瓦 SKM01・04、宇瓦 SKH01A・C と考えられこれらが組み合うと考えられる。SKM01 は宝幢寺の瓦文様の系譜下にあると考えられ、宝幢寺の瓦は奈良時代前期～中期ごろに生産した瓦と考えられる。そのため、SKM01 は創建期（Ⅰ期）に位置づけられると考えられ、これと組みあう SKH01A・C もⅠ期に位置づけられると考えられる。これらの瓦類は、妹尾氏が分析したように鐙瓦が接合式から横置き型一本作りに（妹尾 2017）、今回の分析で宇瓦は桶巻作りから一枚作りへと変化していく。この変化は僧房跡や築地塀等の造営に見られるもので、Ⅰ期の段階は接合式であった可能性がある。これまでの調査で SKM01 は接合式の個体にも若干ではあるが笵傷が見られることから、塔跡等で葺かれた場合、笵傷がないものが葺かれた可能性が推測される。SKM04 は前述したように枷型の有無や笵傷の有無で 3 段階に分かれることが分かっており、古段階の枷型があるものがⅠ期に遡ると考えられる。

現状ではⅠ期に位置づけられる建物は発掘調査を行っていないため、全容は不明と言わざるを得ないが、古式の文様系譜に位置づけられる型式で鐙瓦 SKM26、宇瓦 SKH25、46 が挙げられる。これらの型式は文様が古手であることや点数が極少量であることから、塔跡等に葺かれた可能性が推測されるが、今後の調査によって位置づけを再考しなければならない。

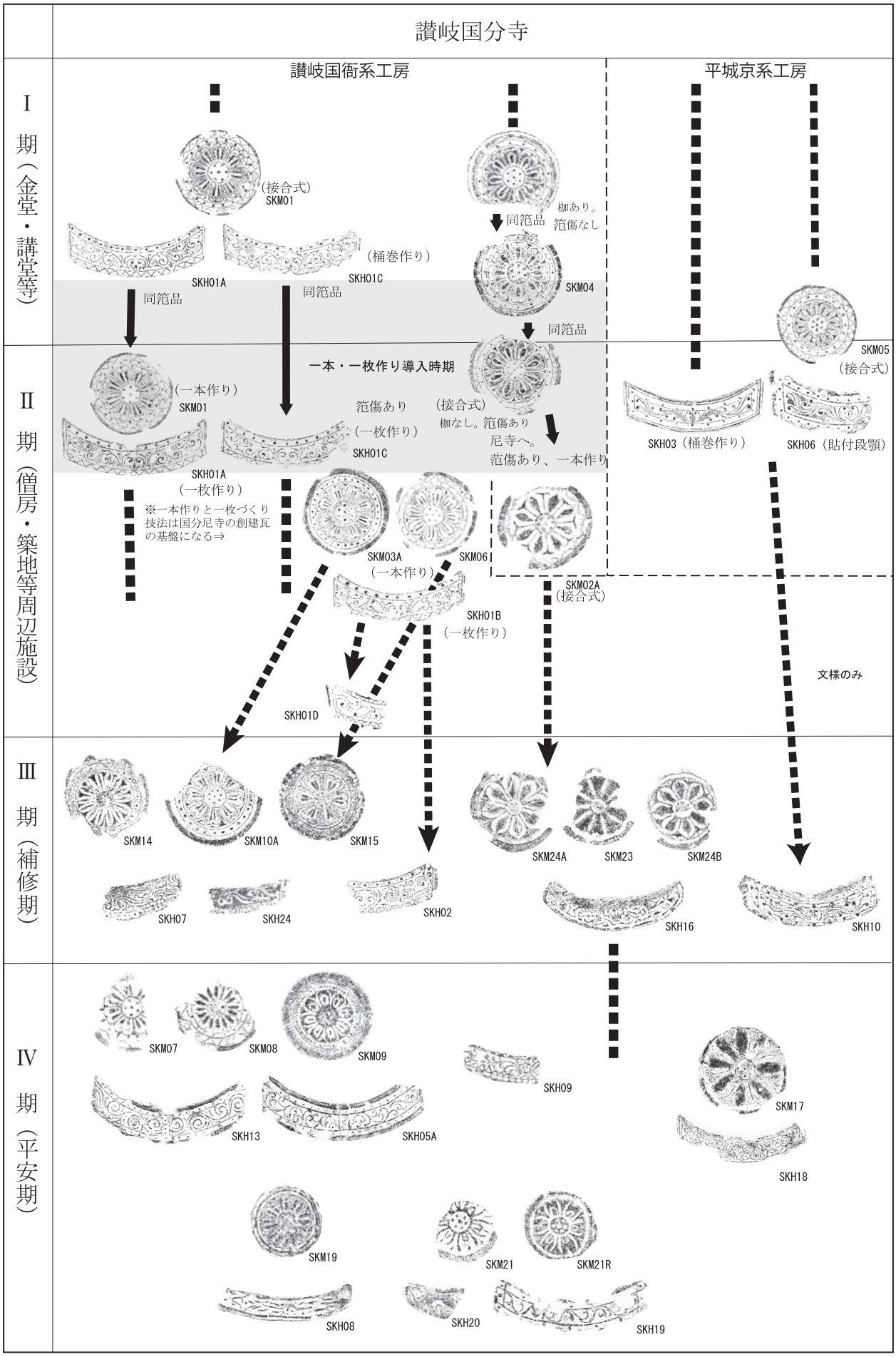
また、Ⅱ期に現状位置づけているが、鐙瓦 SKM05、宇瓦 SKH03・06 もⅠ期に位置づけられる可能性もある。妹尾氏は SKM05 の文様構成と SKH06 が段顎であることから、塔跡や金堂跡に葺かれた創建瓦と位置付けている（妹尾 2017）。また、今回の分析で焼成状況から SKM05 と SKH03・06 は灰被りをしており、グループ B に位置づけられたことが明らかになった。SKM05 が平城京 6284・6138 型式を模倣したもので SKH03・06 も讃岐国周辺に文様系譜を追えるものはなく、SKM05 と共に平城京からもたらされた瓦笵と考えられ、セット関係にあると考えられことを考慮すると系譜や生産時期が限定的な状況であると考えられる。今回は SKH03・06 が後述するように天平宝字 7 年以降に生産された可能性があり、平城Ⅱ期に位置づけているが、SKM05 の参考にしている平城宮式の年代や平城京での段顎の消失が平城Ⅱ期と古い時期を示す資料であることから、調査によって位置づけを再考する必要がある。

SKM03A は現状Ⅱ期に位置づけているがこれまでの調査で全ての個体に中房等には笵傷がみられることから、推測ではあるが笵傷がない個体が、講堂跡等に葺かれた可能性も推測される。

Ⅰ期の様相は繰り返しになるが、発掘調査を行っていないため、全様は不明であると状況であるが、瓦文様等から SKM01・04、SKH01A・C が現状推測される創建期瓦と考えられる。また、一本作りが導入された時期は SKM01 が接合式から一本作りに変わった後に SKM03A 等の一本作りが盛行になると考えられる。SKM03A はⅡ期に相当する今回の調査範囲（僧房跡等）では、中房等に笵傷が見られるものしか出土しなかったことから、金堂跡や講堂跡では笵傷がない個体がある可能性がある。そのため、Ⅰ期の終わりからⅡ期の初めにかけて導入された可能性がある。一枚作りも同様の時期に導入されたと考えられる。

②Ⅱ期

Ⅱ期に位置づけられる鐙瓦は SKM01・02・03A・



第 124 図 讃岐国分僧寺瓦変遷図

04・05・06、宇瓦はSKH01A・01B・01C・03・06と考えられる。組み合わせはSKM01・04 - SKH01A・C、SKM03A・06 - SKH01B、SKN05 - SKH06が組み合うと考えられる。Ⅰ期から続くと考えられるSKM01は、技法が接合式から横置き型一本作りに変化し、笵傷も珠文帯にまで増える。SKH01A・Cも桶巻作りから一枚作りに変化し、技法が変わった後に掘り直しや笵傷が見られるようになる。SKH01Bは明確に桶巻作りと判明できるものはなく全て一枚作りと考えられることから、SKH01A・Cと比べ遅れて採用された可能性がある。これは、文様分析からSKH01AからSKH01Bへと変化したという意見と一致する（渡邊2016）。Ⅱ期の初め頃までに平城京から導入された一枚作り、一本作りの製作技法の転換が完了し、これらの技法で生産される瓦類が盛行になる。そのため、SKM03A・06とSKH01BはSKM01、SKH01A・Bよりも新しい時期に位置づけられる。SKM04も枷型を取り外し、中房に笵割れが見られるようになる。その後、讃岐国分尼寺に供給先が変わり、ここでは一本作りに変化する。推測であるがSKM04の横置型一本作りが出土していないことから、新たな横置型一本作りで製作されるSKM03A・06が新たに導入されたことになり、尼寺に供給先が変更されたと考えられる。

SKM02Aは接合式であるが、男瓦と瓦当で積み上げた粘土にヴァリエーションがSKM01等の接合式の鐙瓦と比較すると雑になっていると考えられる。また、瓦当面に貼り付けた粘土が柔らかいことが要因で発生した凹凸が見られることから、SKM01等を生産した工人が異なると推測される。製作技法や作り方がSKM01よりも雑になり、この型式よりも新しい時期に位置づけられるが、焼成は硬質であるものが多く、著しく時代を遡るものではないと考えられる。また、祖型となる鐙瓦（弘安寺KA103）が幅広い年代観であるが、奈良時代に位置づけられることを考慮すると平安時代まで下るものではなくⅡ期の中でも新しい時期に置かれる可能性がある。

一方で、SKM05、SKH03・06は現状Ⅱ期に位置づけられると考えられるが、第4章1節で示したとおり、灰被りをしており、讃岐国衙系工房の瓦と異なる工人・窯跡で生産された可能性がある。そのため、鐙瓦の技法も接合式であり、宇瓦も桶巻作りである。さらに、SKH06は段顎である。また、文様もSKM05は平城京6138型式や6284型式等、宇瓦は唐招提寺605Aの文様を模倣したと考えられる。

Ⅱ期の特徴として工房跡が異なるSKM05・SKH03等を除き、一本作り・一枚作りの技法が定着し、この時期の生産体制の主要な技法として採用される。しかし、一本作りはⅢ期（補修期）には引き継がれず、創建期で技法の伝播が途絶える。創建期の工人集団が解体されたか、工人が移動した可能性がある。

③Ⅲ期

Ⅲ期に位置づけられる鐙瓦はSKM10A・10B・12・14～16・23・24A・24Bである。宇瓦はSKH02・04・11A・11Bが挙げられる。基本的にはⅠ・Ⅱ期に採用された文様の系譜下にある型式である。SKM14は外区の文様構成は異なるが、尼寺のKB101の文様に類似していることから尼寺での位置づけから創建期から下った時期に遡ると考えられる。

技法は各型式の点数は少ないが、鐙瓦は接合式、宇瓦は一部桶巻作りに戻っている。創建期から一定期間経過しているため、創建時の造瓦体制は一度解体した可能性がある。その中でも特に一本作りの技法に関しては、その後の国分寺をはじめとする、讃岐国内の瓦生産に引き継がれなかったことから、工人が移動してしまった可能性がある。

Ⅲ期の特徴としては補修に伴う瓦の葺き替えと考えられ、必要に応じて取り換えたと考えられることから、型式は多いが点数は多くない。また、胎土は創建期のもの比べ粗めの粒子が入るが、基本的に精良なものが多い。焼成は灰色系のものが多い。

④Ⅳ期

この時期に位置づけられる鐙瓦はSKM07・08・09・17・20～21R、宇瓦はSKH05A・05B・08・09・12・13・17・18・20が挙げられる。前代（Ⅰ～Ⅲ期）から続く文様系譜は多くなく、Ⅳ期になり新たに作笵された瓦類が多い。その代表的な文様は鐙瓦SKM07・08・09、宇瓦SKH05A・05Bが挙げられる。これらの瓦類はⅣ期の中でも最も出土量が多く、この時期に再整備期の中心と考えられる。前代から続くと考えられる鐙瓦はSKM20であり、SKM10A等の花弁の輪郭がハートになっている型式の個体の系譜下にあると考えられる。その後、SKM19に続き瓦当径がより小型になり、男瓦部に釘を打ち込む孔が見られることから11世紀以降のものと推測される。宇瓦はSKH13でSKH02の中心飾りや下外区をアレンジし、

その他の部分を模倣したものと考えられる。

Ⅳ期の特徴としてはSKH05以外は基本的文様が崩れているものが多く、色調は灰～にぶい黄褐色系で軟質のものが多い。SKH17のように瓦当幅が狭くなる等、鐙瓦・宇瓦を通して新しい時期のものは小型化する傾向にあるのも特徴である。

4）各期の年代観について

①Ⅰ期

年代観は下限年代については厳密な検討を行えないが、『続日本紀』天平勝宝八歳（756）十二月二十日条に讃岐国等26国に聖武天皇一周忌に合わせ灌頂幡等を送るという記述があることから、この時期に金堂は完成、法会を行っていた可能性がある。また、Ⅱ期はSKH03・06の成立が天平宝字7年（763）以降に成立した考えられることを含めると、この年代以前に塔跡や金堂跡の造営は完了したと考えられる。出土瓦から見るとSKH01は大きくリメイクされているが、東大寺式の系譜を引いていると考えられ、東大寺式宇瓦が成立する天平勝宝年間頃にSKH01が成立したと推測される（岩永2001）。創建期に位置付けられるSKH01Aの年代観や『続日本紀』の記述が正しい場合と最初に建立した建物が金堂と仮定した場合、Ⅰ期の年代は僧房等の造営が天平宝字後半以降であること考慮すると天平勝宝年間～天平宝字年間前半と推測され、この時期には塔跡や金堂跡の造営は終えていたと推定される。

②Ⅱ期

SKH03、06が唐招提寺605Aの三彩瓦の文様を模倣したものと考えられる。605Aが、唐招提寺で葺かれた可能性がある建物は西室跡北側の影堂（開山堂）と考えられている（岡田ほか2017）。創建当初は開山堂として建立されたが、鑑真和上の死後、影堂（御影堂）となり鑑真和上像を安置したと考えられる。三彩瓦の成立は、上限年代は鑑真が亡くなった天平宝字7年（763）で、下限年代は廃棄状況から平安遷都以前に位置付けられる（岡田ほか2017）。金堂跡が天平勝宝八歳（756）には完成している可能性があり、その後、講堂造営を経て僧房を着手したと考えれることや、SKH03・06の成立が天平宝字7年（763）以降に開山堂から影堂に役割が変化し、それに伴って三彩瓦の605Aが成立すると考えられることから、SKH03・06は早くても天平宝字7年以降に讃岐国分寺で成立したと考えられる。国分寺の造営がⅠ期の塔から講堂等、間隔を開けず連続して造営を行った場合、Ⅱ期の年代は天平宝字7年以降～宝亀年間前後と推測される。Ⅱ期まで創建期に位置づけられ、この時期に築地塀等まで含めた主要伽藍の整備が完了したと考えられる。

③Ⅲ期

年代観は瓦の作りが創建期と比べやや雑になるものの、Ⅳ期の平安期のものと比べると文様は崩れておらず、焼成も良好であることから、創建期以降から9世紀代と推測される。しかし、下限年代が不明であることから、Ⅳ期と時期が被る可能性もある。

④Ⅳ期

周辺の生産地の焼成や胎土等を考慮すると9世紀～12世紀頃と考えられる。編年は細分できると考えられるが、小規模な補修と大規模な修理を行った時期である。SKH05がⅣ期の中で最も出土しており、この型式の瓦が葺かれた際に大規模な改修があったと考えられ、時期は10世紀代と考えらえる。また、縄斜系の叩き具で成形されている瓦類は綾川町ますえ畑窯跡の等で生産され、11世紀～12世紀と考えられる。その後の伽藍の様子は僧房基壇がSE6019に削平されていることから、井戸が埋没した13世紀前半以前には廃墟になったと考えられ、現本堂の建立（旧講堂跡）が鎌倉時代頃に建立された等の整備が行われ、中・近世瓦が使用されて、今日の伽藍の様子に至ったと考えられる。

今回の編年（案）はこれまでの発掘調査で出土した資料をもとに考察したが、今後の発掘調査の成果によっては再考察が必要であると考えられる。現状ではSKM01--SKH01A等が創建期に位置付けらると考えられるが、SKH25・46等の古式の郡系瓦と考えられる瓦類が出土することから、金堂跡等の中心伽藍に葺かれた可能性もある。

創建期瓦に平城京系瓦がもたらされた背景には具体的な見解は示せないが、東大寺や西大寺、唐招提寺等の平城京大寺の封戸・荘園が多く、讃岐国と平城京との関りが強いことも一因すると推測される。また、Ⅱ期に位置付けられる平城京からもたらされた瓦類（SKM05等）は讃岐国分寺僧房は大安寺大房・中房と同じく3間で大房と国分寺僧房の柱間がほぼ等しく関連性が高いことが既に指摘されており（岡田

2018)、遺構面から平城京からの関連性が見られる。僧房を造営するタイミングと尼寺の本格的な造営を開始した時期が重なったため、各工人の増員が必要であったため、この頃に建築工人と瓦工人が入ってきた可能性がある。

引用・参考文献

【瓦類】

岩戸晶子 2001「奈良時代の鬼面文鬼瓦・瓦葺技術からみた平城宮式鬼瓦・南都七大寺式鬼瓦の変遷」『史林』84 号 -3　史学研究会

岩永省三 2001「第Ⅳ章考察　4 屋瓦」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良文化財研究所

塩冶琢磨・垣見奈緒子 2013「紫雲出山遺跡・金鳥池窯跡」三豊市教育委員会

大塚勝純・黒川隆弘 1975『讃岐国分寺の瓦と塼』

大脇潔 1991「丸瓦の製作技術」『研究論集Ⅳ』奈良文化財研究所

岡田英男 2018「讃岐国分寺僧房の復原的考察」『特別史跡讃岐国分寺跡Ⅰ　遺構編』高松市教育員会

岡田雅彦ほか 2017『史跡唐招提寺旧境内』唐招提寺・橿原考古学研究所

香川県立ミュージアム　2017『讃岐びと、時代を動かす － 地方豪族が見た古代世界 － 』

国分寺町教育委員会 1984『特別史跡讃岐国分寺跡　昭和 58 年度発掘調査概報』

国分寺町教育委員会 1985『特別史跡讃岐国分寺跡　昭和 59 年度発掘調査概報』

国分寺町教育委員会 1986『特別史跡讃岐国分寺跡　昭和 60 年度発掘調査概報』

国分寺町教育委員会 1987『特別史跡讃岐国分寺跡　昭和 61 年度発掘調査概報』

国分寺町教育委員会 1991『特別史跡讃岐国分寺跡　平成 3 年度発掘調査概報』

国分寺町教育委員会 1996『特別史跡讃岐国分寺跡保存整備事業報告書』

小林謙一・佐川正敏 1990「平安時代～近世の軒丸瓦」『伊珂留我』10 小学館

佐藤竜馬 2003「第 4 章　第 2 節 瓦」『高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ』香川県教育委員会

妹尾周三 2017「讃岐国分尼寺の創建期軒瓦とその特徴について」『史跡讃岐国分尼寺跡 - 第 7 ～ 14 次確認調査』高松市教育委員会

高松市歴史資料館 1996『讃岐の古瓦展』

花谷浩・毛利光俊彦 1991「瓦塼類」『平城京発掘調査報告 13』奈良国立文化財研究所

法隆寺昭和資材帳編集委員会 1992『法隆寺の至宝』第 15 巻 － 昭和資材帳 －　小学館

松本和彦 2019『讃岐国府Ⅱ』香川県教育委員会

松本和彦 2003『高松城跡（丸の内地区）』香川県教育委員会

松本忠幸 2009「出土瓦から見た讃岐国分寺の創建」『仏教藝術』303、毎日新聞社

松本忠幸 2015「古代の讃岐国分寺・国分尼寺について」『仏教藝術』339、毎日新聞

森下英二 2016『丸山窯跡』香川県教育委員会

山崎信二 2000『中世瓦の研究』

山崎信二 2008『近世瓦の研究』

渡部明夫 2013『讃岐国分寺の考古学的研究』同成社

渡部明夫 2013a「讃岐国分寺に関連する古代の寺院・瓦」『讃岐国分寺の考古学的研究』同成社

渡部明夫 2013b「府中・山内瓦窯跡について - 讃岐国分寺 瓦屋の基礎的整理 -」『讃岐国分寺の考古学的研究』同成社

渡邊誠 2016「総括」『史跡讃岐国分尼寺跡 － 第 7 ～ 14 次確認調査 － 』高松市教育委員会

渡邊誠 2017「四国における近世瓦の生産と流通－高松藩における御用瓦師の成立－」『幕藩体制下の瓦』

渡邊誠 2018『特別史跡讃岐国分寺跡Ⅰ』遺構編　高松市教育委員会

渡邊誠 2019『特別史跡讃岐国分寺跡Ⅰ』遺物編①　高松市教育委員会

【土器類】

石井清司 1995「篠窯須恵器」『概説　中世の土器・陶磁器』

香川県・香川県教育委員会 2012『四国八十八ヶ所霊場第八十一番札所　白峯寺調査報告書』

片桐孝浩 1992「古代から中世にかけての土器様相」『中小河川大東川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　川津元結木遺跡』香川県教育委員会

古代の土器研究会 2003『古代の土器研究』平安時代の緑釉陶器―生産地の様相を中心に―

佐藤竜馬 1993「香川県十瓶山窯跡群における須恵器編年」『関西大学考古学研究室開設四拾周年記念　考古学論叢』関西大学考古学研究室開設四拾周年記念事業会

佐藤竜馬編 1995「楠井産土器の編年」『国分寺楠井遺跡』香川県教育委員会

佐藤竜馬編 2000a「高松平野と周辺地域における中世土器の編年」『空港跡地遺跡』香川県教育委員会

佐藤竜馬 2000b「「西村型土器椀」の系譜」『香川県埋蔵文化財センター紀要』Ⅷ　香川県埋蔵文化財センター

佐藤竜馬 2015「讃岐における古代～中世土器編年をめぐる基礎作業（1）9 世紀後葉～ 11 世紀前葉の供膳器種」『香川県埋蔵文化財センター』平成 26 年度　香川県埋蔵文化財センター

重根弘和「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集』

高橋照彦 2003「平安京近郊の緑釉陶器生産」『古代の土器研究』平安時代の緑釉陶器―生産地の様相を中心に―

太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡』ＸＶ

乗岡実 2001『備前焼大甕編年レクチャー資料』

乗岡実 2002「第Ⅴ章　調査成果の整理と展望　第 3 節近世備前焼擂鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡』

百瀬正恒・近江俊秀 1995「近畿」『概説　中世の土器・陶磁器』

山下峰司 1995「灰釉陶器・山茶碗」『概説　中世の土器・陶磁器』

渡辺辰雄・斉木正友・近藤三郎編 1973『大日本帝国陸海軍 ＜軍装と装備＞』

遺 物 観 察 表

土器

挿図番号	報告書番号	次	実測番号			(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	種類	器種	法量(cm)	手法の特徴 外面	手法の特徴 内面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
12	81001	80			P875	2T 溝 –	2T 溝 –	弥生土器	鉢	口径:– 底径:– 器高:[7.15]	横ナデ、指押さえ	ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]2.5Y7/2灰黄	普、白色砂粒を含む 有機質が炭化している	良	煤化
12	83171	84			P885	ED16 – 第1層	KD16 – 第1層	灰釉陶器	椀	口径:– 底径:(3.8) 器高:[1.35]	横ナデ、貼付高台	自然釉	[外]5Y7/1灰白 [内]7.5Y6/2灰オリーブ	精良	良好	
12	83172	83	19	5		J-1 – 第2層	J-1 – 第2層	土師質土器	焙烙	口径:– 底径:– 器高:[1.2]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR3/1黒褐 [内]10YR3/1黒褐～6/3にぶい黄橙	やや密、4mm以下の白色砂粒を含む	良	御厩系
12	83173	83			P986	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	土師質土器	焙烙	口径:– 底径:– 器高:[3.6]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR6/2灰黄褐 [内]10YR6/2灰黄褐	精良、1mm以下の白色砂粒・角閃石を含む	良好	御厩系
12	83174	83			P995	E2 – 第2層	E-2 – 第2層	土師質土器	擂鉢	口径:– 底径:– 器高:[3.3]	横ナデ、指押さえ	横ナデ、摺り目	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	普、1mm程度の白色砂粒を多量に含む	良	
12	83175	83			P1014	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	土師質土器	鉢	口径:(23.8) 底径:(20.6) 器高:7.7	横ナデ	横ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・雲母を含む	良	
12	83176	83			P1013	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	土師質土器	鉢	口径:(28.6) 底径:– 器高:[8.1]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR7/2にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・黒色砂粒・雲母を多量に含む	良好	
12	83177	83			P1012	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	土師質土器	火鉢?	口径:– 底径:– 器高:[5.6]	横ナデ、穿孔	横ナデ、指押さえ	[外]10YR6/3にぶい黄橙 [内]10YR6/3にぶい黄橙	精良、1mm程度の白色砂粒・雲母を含む	良好	煤化
12	83178	83			P1011	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	土師質土器	井側?	口径:– 底径:– 器高:[12.7]	横ナデ、指押さえ	横ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・赤褐色砂粒・雲母を多量に含む	良	
12	83179	83			P1010	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	土師質土器	井側?	口径:– 底径:– 器高:[8.3]	横ナデ、ヘラ描き斜格子文	横ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・赤褐色砂粒・雲母を多量に含む	良	
12	83180	83			P981	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	陶器	擂鉢	口径:– 底径:– 器高:[6.1]	横ナデ	横ナデ、摺り目	[外]5YR5/4にぶい赤褐 [内]5YR5/4にぶい赤褐	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良	備前焼(須恵器) 14C中頃
12	83181	83			P974	D3 – 第2層	D-3 – 第2層	陶器	擂鉢	口径:– 底径:– 器高:[2.6]	横ナデ	横ナデ、摺り目	[外]5YR5/3にぶい赤褐 [内]5YR5/3にぶい赤褐	精良	良好	備前焼 堺・明石系 14C後半
12	83182	83			P1002	E2 – 第2層	E-2 – 第2層	陶器	擂鉢	口径:– 底径:– 器高:[6.5]	横ナデ	横ナデ→摺り目	[外]7.5YR4/1褐灰 [内]7.5YR4/1褐灰	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	備前焼 堺・明石系 18C
12	83183	83			P988	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	施釉陶器	鉢	口径:(32.0) 底径:– 器高:[7.5]	施釉	施釉、露胎	[外]釉調:5G5/1 緑灰 [胎土]:2.5Y8/2灰白 [内]釉調:10YR4/6褐	普、1mm以下の白色砂粒を多量に含む	良好	瀬戸美濃系
12	83184	83			P990	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	陶器	蓋	頂径:– 口径:(8.6) 器高:[2.5]	施釉、櫛描状文様	横ナデ	[釉調]10YR4/6褐 [胎土]10YR8/3浅黄橙	精良	良好	急須
12	83185	83			P983	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	陶器	蓋	頂径:(5.3) 口径:– 器高:[2.8]	横ナデ、施釉	横ナデ、施釉	[釉調]5YR6/8橙 [胎土]5YR7/6橙	精良	良好	
12	83186	83			P989	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	施釉陶器	火入れ?	口径:– 底径:(6.8) 器高:[3.2]	施釉、底部:回転ヘラ切り	横ナデ	[釉調]2.5Y7/2灰黄 [胎土]2.5Y8/2灰白	精良	良好	
12	83187	83	19	8		J-2 – 第2層	J-2 – 第2層	陶器	椀	口径:– 底径:(5.3) 器高:[3.2]	施釉、染付、高台:無釉	施釉	[釉調]2.5Y8/2灰白 [胎土]2.5Y8/1灰白	精良、微細粒を含む	良好	京・信楽系 畳付:「小松 吉」
12	83188	83			P877	E2 – 第2層	E-2 – 第2層	施釉陶器	皿	口径:– 底径:(8.0) 器高:[3.0]	施釉、畳付:露胎	施釉、片彫り	[釉調]2.5Y7/4浅黄 [胎土]2.5Y8/2灰白	普	良好	瀬戸美濃系
12	83189	83			P982	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	仏飯器	口径:– 底径:3.55 器高:[4.1]	施釉、底部:露胎	施釉	[釉調]2.5GY7/1明オリーブ灰 [胎土]2.5Y8/1灰白	精良	良好	肥前系
12	83190	83			P998	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	椀	口径:– 底径:(5.0) 器高:[3.0]	施釉、高台内:露胎	施釉	[呉須]5PB3/1暗青灰 [釉調]10Y6/2オリーブ灰 [胎土]5Y8/1灰白	精良	良好	肥前系
12	83191	83			P996	J3 – 第2層	J-3 – 第2層	磁器	椀	口径:– 底径:– 器高:[4.6]	施釉	施釉	[釉調]2.5GY7/1明オリーブ灰 [胎土]10Y8/1灰白	精良	良好	肥前系
12	83192	83			P985	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	椀	口径:(9.2) 底径:(3.2) 器高:[5.1]	施釉(染付)	施釉(染付)	[釉調]N8/灰白 [胎土]N8/灰白	精良	良好	肥前系
12	83193	83			P987	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	椀	口径:– 底径:(5.4) 器高:[3.5]	施釉、畳付:露胎	施釉	[釉調]7.5GY8/1明緑灰 [呉須]青 [胎土]N8/灰白	精良	良好	肥前系 重ね焼き痕有
13	83194	83			P984	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	大皿or鉢	口径:– 底径:– 器高:[5.1]	染付→化粧土	染付→化粧土	[化粧土]N8/灰白 [染付]5PB4/1暗青灰 [胎土]N8/ 灰白	精良	良好	
13	83195	83			P1000	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	大皿or鉢	口径:– 底径:– 器高:[4.8]	施釉	施釉	[呉須]10G5/1緑灰 [胎土]N8/灰白	精良	良好	
13	83196	83			P999	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	皿	口径:– 底径:(8.2) 器高:[1.8]	施釉、一部露胎	施釉	[釉調]7.5GY8/1明緑灰 [胎土]10Y8/1灰白	精良	良好	肥前系 蛇の目高台
13	83197	83			P967	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	皿	口径:(14.4) 底径:(8.6) 器高:4.3	施釉、底部:露胎	施釉	[釉調]7.5Y8/1灰白 [胎土]N8/灰白	精良	良好	肥前系菊花皿 蛇の目高台
13	83198	83			P1001	H3 – 第2層	H-3 – 第2層	磁器	皿	口径:– 底径:6.8 器高:[2.1]	施釉	目痕有、施釉	[釉調]7.5Y7/1灰白 [胎土]N7/灰白	精良	良好	肥前系菊皿 蛇の目高台
13	83199	83			P997	E2 – 第2層	E-2 – 第2層	土製品	脚部	長さ:(8.0) 幅:(6.1) 厚さ:4.7	指押さえ	指押さえ	[外]N5/灰 [胎土]2.5Y8/1灰白	普、1～3mm程度の白色砂粒を多量に含む	良好	
13	83200	83			P1004	E2 – 第2層(礫層)	E-2 – 第2層(礫層)	陶器	壺	口径:– 底径:– 器高:[3.7]	横ナデ	横ナデ	[釉調]10YR3/2黒褐 [胎土]10YR7/2にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・赤褐色砂粒を含む	良	備前焼
13	83201	83			P957	A4 – 第3層	A-4 – 第3層	弥生土器	甕	口径:– 底径:– 器高:[4.7]	摩滅	摩滅	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/3浅黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	中期後葉
13	83202	83	18	22		J-3 – 第3層	J-3 – 第3層	土師質土器	杯or皿	口径:– 底径:– 器高:[3.0]	ナデ	ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]2.5Y8/1灰白	密、0.5mm以下の白色砂粒を含む	良	
13	83203	83	18	19		J-3 – 第3層	J-3 – 第3層	土師質土器	杯or皿	口径:(14.0) 底径:– 器高:[2.2]	横ナデ	ナデ	[外]7.5YR5/6明褐 [内]7.5YR6/6橙	密、1mm以下の白色砂粒を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	実測番号			(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	種類	器種	法量(cm)	手法の特徴 外面	手法の特徴 内面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
13	83204	83	18		24	J-3 - 第3層	J-3 - 第3層	土師質土器	椀	口径:(14.4) 底径:- 器高:[2.9]	ナデ	ナデ	[外]2.5YR7/6橙 [内]7.5YR8/3浅黄橙	密、0.5mm以下の白色砂粒を含む	良	黒斑有
13	83205	83	18		21	J-3 - 第3層	J-3 - 第3層	土師質土器	椀 (底部)	口径:- 底径:(10.0) 器高:[1.9]	ナデ	摩滅	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR6/3にぶい黄橙	やや密、2mm以下の白色砂粒を含む	良	焦げ付着
13	83206	83	18		25	J-3 - 第3層	J-3 - 第3層	土師質土器	足釜	口径:(23.2) 底径:- 器高:[4.7]	摩滅	板ナデ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	やや密、1mm以下の白色砂粒を含む	良	内耳あり
13	83207	83	P1009			A3 - 第3層	A-3 - 第3層	土師質土器	井側	口径:- 底径:- 器高:[9.5]	横ナデ、指押さえ	横ナデ	[外]10YR6/3にぶい黄橙 [内]10YR6/3にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒・雲母を多量に含む	良	
13	83208	83	P1007			A3 - 第3層	A-3 - 第3層	土師質土器	鉢or コンロ	口径:- 底径:(28.0) 器高:[3.3]	ミガキ、ナデ	横ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普、1mm未満の白色砂粒・雲母を含む	良	
13	83209	83			P956	A5 - 第3層	A-5 - 第3層	瓦質土器	井側or 土留め材	口径:- 底径:- 器高:[8.4]	ナデ	ナデ	[外]N4/灰 [内]N8/灰白	精良	良好	
13	83210	83			P871	A3 - 北壁第3層	A-3 - 北壁第3層	須恵器	小型 短頸壺	口径:(8.4) 底径:- 器高:[2.6]	横ナデ	横ナデ	[外]5Y4/1灰 [内]N6/灰	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
13	83211	83	18		27	J-3 - 第3層	J-3 - 第3層	須恵器	蓋	口径:(19.0) 底径:- 器高:[1.6]	ナデ	ナデ	[外]7.5Y8/1灰白 [内]5Y8/1灰白	密、1mm以下の白色砂粒を含む	良	
13	83212	83			P994	E2 - 第3層	E-2 - 第3層	須恵器	高台付 皿or鉢	口径:- 底径:- 器高:[6.3]	横ナデ	横ナデ	[外]N7/灰白 [内]N7/灰白	普、1mm程度の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良好	
13	83213	83			P980	E2 - 第3層	E-2 - 第3層	陶器	擂鉢	口径:- 底径:(12.4) 器高:[6.5]	ナデ、底部:未調整	ナデ→摺り目	[外]10YR4/2灰黄褐 [内]10YR4/2灰黄褐	精良、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	備前焼
13	83214	83			P979	C4 - 第3層	C-4 - 第3層	施釉陶器	椀	口径:- 底径:- 器高:[2.1]	施釉	施釉	[釉調]2.5Y6/2灰黄 [胎土]7.5YR7/4にぶい橙	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
13	83215	83			P992	J3 - 第3層	J-3 - 第3層	施釉陶器	椀	口径:- 底径:- 器高:[4.0]	施釉、口縁端部:露胎	施釉、口縁端部:露胎	[釉調]7.5YR7/1明褐灰 [胎土]7.5YR7/4にぶい橙	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	
13	83216	83			P993	J3 - 第3層	J-3 - 第3層	施釉陶器	鉢	口径:- 底径:- 器高:[5.4]	施釉、彫りによる施文	施釉	[釉調]10YR3/2黒褐 [胎土]5YR5/4にぶい赤褐	精良	良好	
13	83217	83			P870	J2 - 第3層	J-2 - 第3層	施釉陶器	鉢	口径:- 底径:- 器高:[2.6]	施釉(緑釉?)	施釉(黄釉?)	[外]2.5Y4/3オリーブ褐 [内]2.5Y7/6明黄褐、10YR4/3にぶい黄褐	精良	良好	
13	83218	83	P1008			A3 - 第3層	A-3 - 第3層	磁器	椀	口径:- 底径:(3.6) 器高:[2.8]	施釉、畳付:露胎	施釉	[釉調]7.5Y7/1灰白 [胎土]7.5YR5/4にぶい褐	精良	良好	肥前系
13	83219	83	P1006			A3 - 第3層	A-3 - 第3層	磁器	椀	口径:(10.2) 底径:- 器高:[4.5]	施釉、染付	施釉、染付	[呉須]5PB3/1暗青灰 [胎土]7.5Y8/1灰白	精良	良好	肥前系
13	83220	83	P1005			A3 - 第3層	A-3 - 第3層	磁器	椀	口径:(10.2) 底径:- 器高:[3.9]	施釉	施釉	[釉調]10Y8/1灰白 [胎土]N8/灰白	精良	良好	肥前系
13	83221	83	19		9	J-2 - 第3層	J-2 - 第3層	青磁	椀	口径:- 底径:- 器高:[5.3]	施釉	施釉	[釉調]5GY7/1明オリーブ灰 [胎土]10YR8/1灰白	精良、微細粒を含む	良好	肥前系
13	83222	83			P991	J3 - 第3層	J-3 - 第3層	磁器	椀	口径:- 底径:(4.4) 器高:[2.8]	施釉、高台:露胎	施釉、露胎	[釉調]7.5Y6/2灰オリーブ [胎土]7.5Y8/1灰白	精良	良好	
14	83223	83	13		11	B-2 - 第3層(礫層)	B-2 - 第3層(礫層)	土師質土器	皿	口径:(14.6) 底径:(8.5) 器高:3.3	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/4浅黄橙	密、赤色粒を含む	良	
14	83224	83			P325	E2 - 第3層　礫混入	E-2 - 第3層　礫混入	瓦器	椀	口径:- 底径:(5.0) 器高:[1.8]	ナデ?、貼付高台	ナデ?	[外]N5/灰 [内]10Y5/1灰	普、0.5mm以下の砂粒を含む	良	やや還元
14	83225	83	19		12	J-2 - 第4層	J-2 - 第4層	土師質土器	小皿	口径:(7.4) 底径:(6.1) 器高:1.15	回転ナデ	回転ナデ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/2灰白	やや密、1mm以下の白色砂粒等を含む	良	
14	83226	83	19		11	J-2 - 第4層	J-2 - 第4層	土師質土器	小皿	口径:(8.6) 底径:(6.6) 器高:1.3	回転ナデ	回転ナデ	[外]10YR8/2灰白～6/2灰黄褐 [内]10YR8/2灰白	やや密、1mm以下の砂粒を含む	やや良	
14	83227	83	19		13	J-2 - 第4層	J-2 - 第4層	土師質土器	脚台付杯	口径:- 底径:- 器高:[3.2]	ナデ	ナデ	[外]7.5YR8/3浅黄橙 [内]7.5YR8/2灰白	やや密、微細粒・赤色粒を含む	良	
14	83228	83	19		15	J-2 - 第4層	J-2 - 第4層	土師質土器	椀	口径:- 底径:- 器高:[1.4]	ナデ	ナデ	[外]10YR8/3浅黄橙～8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	やや密、微細粒を含む	良	
14	83229	83			P959	J2 - 第4層	J-2 - 第4層	土師質土器	土釜	口径:- 底径:- 器高:[4.3]	摩滅	摩滅	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	粗	不良	
14	83230	83			P969	E2 - 第4層	E-2 - 第4層	土師質土器	足釜	口径:- 底径:- 器高:[3.3]	摩滅	摩滅	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	普、1mm程度の白色砂粒・橙色砂粒を含む	良	
14	83231	83	19		14	J-2 - 第4層	J-2 - 第4層	土師質土器	足釜 (脚部)	長さ:(6.9) 幅:3.0 厚さ:3.1	ナデ、指頭ナデ		[外]7.5YR6/4にぶい橙 [内]-	やや密、4mm程度の白色砂粒等を含む	良	
14	83232	83	19		10	J-2 - 第4層	J-2 - 第4層	瓦器	椀	口径:- 底径:- 器高:[1.0]	ナデ、瓦質仕上がり	黒色化	[外]N5/灰 [内]N4/灰	やや密、微細粒を含む	良	
14	83233	83			P958	J3 - 第4層	J-3 - 第4層	須恵器	壺	口径:- 底径:- 器高:[12.4]	横ナデ	横ナデ	[外]2.5Y7/1灰白 [内]2.5Y7/1灰白	普、1mm程度の白色砂粒・黒色砂粒を多量に含む	良	十瓶山産
14	83234	83			P971	E2 - 第4層	E-2 - 第4層	陶器	椀	口径:- 底径:3.5 器高:[2.4]	施釉、露胎	施釉	[釉調]7.5Y6/2灰オリーブ [胎土]5YR5/3にぶい赤褐	精良	良好	肥前系 胎土目痕有
14	83235	83			P968	F2 - 第4層	F-2 - 第4層	陶器	椀or皿	口径:- 底径:4.7 器高:[1.7]	露胎、ケズリ、施釉	施釉	[釉調]10YR8/1灰白 [胎土]7.5YR6/2灰褐	精良	良好	肥前系
14	83236	83			P970	E2 - 第4層	E-2 - 第4層	土製品	鞴の羽口	長さ:(6.0) 幅:5.8 厚さ:[1.4]	板ナデ	絞り目、ナデ	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/6橙	普、1mm以下の白色砂粒・赤色砂粒を含む	良	被熱痕なし
14	83237	83			P963	C3 - 第5層	C-3 - 第5層	土師質土器	小皿	口径:6.8 底径:4.7 器高:2.0	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	[外]7.5YR7/3にぶい橙 [内]7.5YR7/3にぶい橙	普、1mm程度の白色砂粒・赤色砂粒を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	実測番号			(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	種類	器種	法量(cm)	手法の特徴 外面	手法の特徴 内面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
14	83238	83			P962	B3 – 第5層	B-3 – 第5層	土師質土器	擂鉢	口径:– 底径:– 器高:[3.6]	指押さえ、横ナデ	摺り目、ナデ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	粗、1～3mm程度の白色砂粒・赤褐色砂粒を含む	良	
14	83239	83			P965	AF15 SF 第5層	AF15 SA5801 第5層	須恵器	杯蓋	口径:(13.0) 底径:– 器高:4.3	横ナデ、底部:ケズリ	横ナデ	[外]N7/灰白 [内]N7/灰白	普、1mm以下の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良	
14	83240	83			P966	M2 – 第5層	M-2 – 第5層	黒色土器A	椀	口径:(15.0) 底径:(6.2) 器高:6.6	ミガキ	ヘラミガキ	[外]5Y8/1灰白 [内]5Y2/1黒	普、黒色砂粒・茶褐色砂粒を含む	良	
14	83241	83			P961	D2 – 第5層	D-2 – 第5層	瓦質土器	火鉢?	口径:– 底径:– 器高:[6.05]	縄目状タタキ、横ナデ、ミガキ	横ハケ、ナデ	[外]5Y3/1オリーブ黒 [内]10YR7/2にぶい黄橙	普、黒色砂粒・黄橙色砂粒・角閃石を含む	良	
14	83242	83			P960	C2 – 第5層(築地から落ちた瓦)	C-2 – 第5層(築地から落ちた瓦)	土師質土器	鉢?	口径:– 底径:– 器高:[8.9]	ナデ	ナデ	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR7/2にぶい黄橙	普、1mm以下の白色砂粒を少量含む	良	
14	83243	83	19		18	J-2 – 第6層	J-2 – 第6層	土師質土器	杯	口径:(16.2) 底径:(10.2) 器高:3.1	回転ナデ、ナデ、板ナデ	回転ナデ、ナデ、指頭圧	[外]2.5YR7/6橙～10YR7/2にぶい黄橙 [内]2.5Y8/2灰白	やや粗、5mm以下の白色砂粒・角閃石を含む	やや不良	灯明皿
14	83244	83	19		17	J-2 – 第6層	J-2 – 第6層	土師質土器	土釜	口径:(21.8) 底径:– 器高:[4.8]	ナデ、指頭圧	ナデ、指頭ナデ	[外]10YR6/3にぶい黄橙～7.5YR5/3にぶい褐 [内]7.5YR5/2灰褐	やや密、3mm以下の白色砂粒等を含む	良	
14	83245	83			P964	M2 – 第6層	M-2 – 第6層	瓦質土器	片口捏鉢	口径:– 底径:– 器高:[6.6]	横ナデ	横ナデ	[外]N4/灰 [内]N8/灰白	普、1mm程度の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良好	
14	83246	83	19		19	J-2 – 第12層上面	J-2 – 第12層上面	土師質土器	椀	口径:– 底径:(5.2) 器高:[1.6]	ナデ	ナデ	[外]2.5YR7/3淡赤橙～7.5YR8/3浅黄橙 [内]5YR7/2明褐灰～10YR4/1褐灰	やや密、2mm以下の白色砂粒等を含む	良	煤付着
14	83247	83			P975	イ-Y/C3 – 赤褐色灰色層	イ-Y/C-3 – 赤褐色灰色層	須恵器	椀	口径:– 底径:(5.3) 器高:[1.3]	横ナデ	摩滅	[外]2.5Y8/1灰白 [内]2.5Y8/1灰白	普、1mm程度の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良	
14	83248	83			P973	イ-Y/C3 – 赤褐色灰色層	イ-Y/C-3 – 赤褐色灰色層	瓦器	椀	口径:– 底径:– 器高:[2.3]	指押さえ	ヘラミガキ	[外]N6/灰 [内]7.5Y8/1灰白	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良	
14	83249	83			P972	イ-Y/C3 – 赤褐色灰色層	イ-Y/C-3 – 赤褐色灰色層	瓦質土器	片口鉢	口径:– 底径:– 器高:[7.0]	横ナデ	横ナデ	[外]7.5Y8/1灰白 [内]7.5Y8/1灰白	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良	
14	83250	83	13		16	A-2WE – 淡灰白粘質土(礫混入)	A-2WE – 淡灰白粘質土(礫混入)	土師質土器	杯	口径:13.3 底径:6.8 器高:3.9	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→板状圧痕	回転ナデ	[外]7.5YR7/6橙 [内]7.5YR8/4浅黄橙	密、赤色粒・黒色粒を含む	良	
14	83251	83	13		9	A-3NS – 淡灰色粘質土(礫混入)	A-3NS – 淡灰色粘質土(礫混入)	土師質土器	杯	口径:14.0 底径:6.2 器高:4.0	横ナデ、底部:ヘラ切り	横ナデ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	密、赤色粒・黒色粒を含む	良	
15	83252	83			仮01	J2 – –	J-2 – –	土師質土器	土鍋	口径:(45.0) 底径:– 器高:[16.0]	粗いハケ、指押さえ、格子目タタキ	ナデ、縦ハケ	[外]7.5YR5/3にぶい褐 [内]7.5YR5/3にぶい褐	やや密、1mm以下の石英・長石を含む	良	煤付着
15	83253	83			仮02	J2 土器溜まり –	J-2 土器溜まり –	土師質土器	土鍋	口径:(49.0) 底径:– 器高:[12.1]	ナデ、指押さえ、格子目タタキ	ナデ、指押さえ	[外]7.5YR6/3にぶい褐 [内]10YR7/3にぶい黄橙	やや密、1mm以下の石英・長石を含む	良	煤付着
15	83254	83	13		10	C-2 – –	C-2 – –	土師質土器	小皿	口径:8.4 底径:6.3 器高:1.45	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]5YR7/6橙 [内]5YR7/6橙	密、赤色粒を含む	良	
15	83255	83	13		8	C-2 – –	C-2 – –	土師質土器	小皿	口径:8.25 底径:6.3 器高:1.5	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り(いずれも摩滅気味)	回転ナデ(摩滅気味)	[外]2.5Y8/1灰白 [内]2.5Y8/2灰白	密、1mm以下の白色砂粒を含む	良	
15	83256	83	18		28	J-2-3 – –	J-2-3 – –	土師質土器	高台付杯	口径:– 底径:– 器高:[1.7]	ナデ	ナデ	[外]2.5YR6/8橙 [内]5YR7/6橙	密、1mm以下の白色砂粒を含む	良	
15	83257	83			P1003	B2 – –	B-2 – –	須恵器	壺	口径:(13.4) 底径:– 器高:[8.4]	横ナデ	横ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	精良、1mm程度の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良好	四耳壺?
16	84202	84			P892	EE13 – 灰褐色粘質土層	KE13 – 灰褐色粘質土層	須恵器	鉢	口径:– 底径:– 器高:[3.3]	横ナデ	横ナデ	[外]5Y7/1灰白 [内]5Y7/1灰白	精良、白色砂粒を少量含む	良好	篠産
16	84203	84			P890	EF15 – 灰色粘質土	KF15 – 灰色粘質土	陶器	擂鉢	口径:– 底径:(15.6) 器高:[6.1]	ケズリ、底部:摩滅	摺り目	[外]5YR5/4にぶい赤褐 [内]7.5YR6/3にぶい褐	普、2mm以下の白色砂粒を含む	良好	堺・明石系
16	84204	84			P891	EF15 – 灰色粘質土	KF15 – 灰色粘質土	陶器	擂鉢	口径:– 底径:(16.4) 器高:[10.1]	ナデ、底部:未調整	摺り目	[外]2.5YR6/6橙 [内]2.5YR6/4にぶい橙	普、1mm以下の白色砂粒を多量に含む	良好	堺・明石系
16	84205	84			P880	EF15 – 灰色粘質土層	KF15 – 灰色粘質土層	磁器	椀	口径:– 底径:(3.6) 器高:[3.3]	施釉、畳付:露胎	施釉	[釉調]N8/灰白 [胎土]灰白	精良	良好	肥前系
16	84206	84			P893	EF15 – 灰色粘質土	KF15 – 灰色粘質土	磁器	椀	口径:– 底径:(4.1) 器高:[3.2]	染付、施釉、畳付:露胎	目痕有	[釉調]2.5GY7/1明オリーブ灰 [胎土]N8/灰白	精良	良好	肥前系広東椀
17	84207	84			P855-1	EF15 – 灰色粘質土層	KF15 – 灰色粘質土層	瓦質土器	火鉢?	口径:(25.2) 底径:– 器高:[19.1]	ナデ→ミガキ	横ナデ、斜め方向の刷毛目	[外]5Y3/1オリーブ黒 [内]5Y7/1灰白	1mm以下の白色砂粒・黒色砂粒・雲母若しくは角閃石を含む	良	
17	84208	84			P855-3	EF15 – 灰色粘質土層	KF15 – 灰色粘質土層	瓦質土器	火鉢?	口径:(30.6) 底径:(30.8) 器高:27.5	縦方向のミガキ→横斜めのミガキ 底部:未調整	横ナデ、横方向の回転的な粗いハケ	[外]7.5Y3/1オリーブ黒 [内]2.5Y7/1灰白	1mm以下の白色砂粒・黒色砂粒、表面に雲母若しくは角閃石を含む	良	
17	84209	84			P855-2	EF15 – 灰色粘質土層	KF15 – 灰色粘質土層	瓦質土器	火鉢?	口径:– 底径:– 器高:[3.4]	横ナデ 底部:未調整	不明	[外]5Y4/1灰 [内]-	普、1～2mm程度の白色砂粒を多量に含む	良	煤付着
17	84210	84			P876	EJ13/ED16 – 最下層	KJ13/KD16 – 最下層	磁器	紅猪口	口径:– 底径:(3.0) 器高:[1.4]	施釉、畳付:露胎	施釉	[外]N8/灰白 [内]N8/灰白	精良	良好	肥前系
18	85718	85			P888	CI51 – 灰茶色粘質土層	HI11 – 灰茶色粘質土層	土師質土器	杯	口径:(9.0) 底径:– 器高:2.2	横ナデ	横ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
18	85719	85			P889	CI51 – 灰茶色粘質土層	HI11 – 灰茶色粘質土層	土師質土器	杯	口径:(10.0) 底径:(7.0) 器高:[2.7]	横ナデ、底部:ヘラ切り	横ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	煤化
18	85720	85			P887	CI51 – 灰茶色粘質土層	HI11 – 灰茶色粘質土層	土師質土器	杯	口径:(10.0) 底径:(6.8) 器高:[2.8]	横ナデ、底部:ナデ	横ナデ	[外]7.5YR8/3浅黄橙 [内]7.5YR8/3浅黄橙	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
18	85721	85			P886	CI51 – 灰茶色粘質土層	HI11 – 灰茶色粘質土層	土師質土器	杯	口径:(10.4) 底径:– 器高:[2.2]	横ナデ、底部:ヘラ切り	横ナデ	[外]5Y8/1灰白 [内]5Y8/1灰白	普、黒色砂粒・金雲母を含む	良好	灯明皿

挿図番号	報告書番号	次	実測番号			(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	種類	器種	法量(cm)	手法の特徴 外面	手法の特徴 内面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
18	85722	85			P917	DL09 – 黒褐色土層	DL09 – 黒褐色土層	施釉陶器	不明	口径:– 底径:(9.8) 器高:[4.1]	横ナデ、施釉、底部:回転糸切り	横ナデ	[外]2.5Y7/1灰白 [内]2.5Y7/1灰白	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
18	85723	85	11		17	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(6.8) 底径:(4.8) 器高:1.2	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ、板状圧痕	回転ナデ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/3浅黄橙	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良	
18	85724	85			P976	IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(9.6) 底径:– 器高:[1.4]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	精良、1～3mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良好	
18	85725	85	11		11	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(9.8) 底径:(5.2) 器高:[1.8]	回転ナデ、指押さえ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]7.5YR8/4浅黄橙～5YR8/4淡橙 [内]7.5YR8/4浅黄橙～5YR8/4淡橙	密、2mm以下の白色砂粒・茶色粒を含む	良	
18	85726	85	7		8	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(10.0) 底径:(6.2) 器高:1.9	回転ナデ、底部:ヘラ切り	回転ナデ	[外]2.5YR6/6橙 [内]5YR7/6橙	密、白色砂粒・赤色粒を含む	良	黒斑有
18	85727	85	11		21	IA09 – 第2層	IA09 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:10.1 底径:6.2 器高:1.9	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/2灰白	密、0.5mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良	
18	85728	85	7		12	IA00 – 第2層	IA00 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(14.2) 底径:(7.6) 器高:1.7	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	[外]2.5Y8/1灰白 [内]2.5Y8/1灰白	密、白色砂粒・赤色粒を含む	良	灯明皿
18	85729	85	10		8	IA00 – 第2層	IA00 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(10.4) 底径:5.0 器高:1.9	ナデ、指押さえ、底部:回転ヘラ切り→板状圧痕	回転ナデ	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]5YR7/4にぶい橙	密、微砂粒・赤色粒を含む	良	手捏ね
18	85730	85	7		14	DT03 – 第2層	DT03 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:10.3 底径:6.8 器高:1.9	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	[外]7.5YR8/3浅黄橙 [内]7.5YR8/1灰白	密、2mm以下の白色砂粒・金雲母を含む	良	煤化 灯明皿
18	85731	85	11		13	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(10.55) 底径:(6.9) 器高:1.85	回転ナデ、底部:回転ヘラケズリ、板状圧痕	回転ナデ	[外]7.5YR8/4浅黄橙 [内]7.5YR8/4浅黄橙	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒を少-含む	良好	煤化 灯明皿
18	85732	85	7		11	IA00 – 第2層	IA00 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(10.3) 底径:(7.2) 器高:[2.3]	回転ナデ	回転ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	密、2mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良好	
18	85733	85	9		6	DT00 – 第2層	DT00 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(10.6) 底径:(6.5) 器高:2.2	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	[外]5YR7/4にぶい橙 [内]10YR8/2灰白	密、2mm以下の赤色粒を含む	良好	
18	85734	85	11		7	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(10.6) 底径:5.9 器高:2.15	回転ナデ、底部:回転ヘラケズリ	回転ナデ	[外]7.5YR8/4浅黄橙 [内]7.5YR8/3浅黄橙	密、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
18	85735	85	11		18	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:10.5 底径:6.4 器高:2.2	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ、板状圧痕	回転ナデ	[外]5YR7/6橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	密、0.1mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良	
18	85736	85	11		3	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(11.4) 底径:(6.6) 器高:2.2	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→板状圧痕	回転ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良	煤化 灯明皿
18	85737	85	7		5	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:11.8 底径:6.4 器高:2.2	回転ナデ	回転ナデ	[外]7.5YR7/6橙 [内]7.5YR8/3浅黄橙	密、赤色粒・黒色チャートを含む	良	灯明皿 底部:粘土紐成形痕
18	85738	85	11		16	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:(10.4) 底径:6.7 器高:2.1	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]10YR6/4にぶい赤橙～N5/灰白 [内]10YR6/4にぶい赤橙～N5/灰白	密、2mm以下の白色砂粒・金雲母を含む。	良	黒斑有
18	85739	85	7		7	IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	土師質土器	小皿	長さ:(11.0) 幅:(6.8) 厚さ:2.6	回転ナデ、回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]7.5YR6/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	密、微砂粒・赤色粒を多量に含む	良	
18	85740	85	9		5	DT00 – 第2層	DT00 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:11.2 底径:8.1 器高:2.4	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→板状圧痕	回転ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	密、微砂粒・赤色粒を含む	良	
18	85741	85	11		4	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:11.8 底径:8.3 器高:2.3	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]7.5YR7/6橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	密、0.5mm以下の白色砂粒・1mm以下の赤色粒を含む	良	内面に付着物有 灯明皿
18	85742	85	11		2	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:11.3 底径:6.0 器高:2.6	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→板状圧痕	回転ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	やや密、1～2mm程度の赤色粒を含む	良	煤化
18	85743	85	7		17	DT03 – 第2層	DT03 – 第2層	土師質土器	小皿	口径:11.8 底径:7.6 器高:3.05	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]10YR8/1灰白 [内]10YR8/1灰白	密、白色砂粒・赤色粒・黒色粒を含む	良	黒斑有・煤化
18	85744	85			P977	IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	土師質土器	杯	口径:– 底径:– 器高:[2.8]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	精良	良好	
18	85745	85			P978	IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(9.4) 底径:– 器高:[2.3]	横ナデ	横ナデ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
18	85746	85	11		23	IC00 – 第2層	IC00 – 第2層	土師質土器	杯	口径:10.7 底径:6.8 器高:3.15	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り、板状圧痕	回転ナデ、ナデ	[外]2.5Y8/1灰白 [内]2.5Y8/1灰白	やや密、微細な砂粒を含む	良	
18	85747	85	7		15	DT00 – 第2層	DT00 – 第2層	土師質土器	杯	口径:10.3 底径:6.8 器高:3.0	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/3浅黄橙	密、2mm以下の白色砂粒を含む	良好	
18	85748	85	11		5	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(10.8) 底径:(6.3) 器高:3.5	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ、指押さえ	[外]5YR7/4にぶい橙～10YR5/1褐灰 [内]10YR4/1褐灰～5YR7/4にぶい橙	やや密、2mm以下の白色砂粒等を含む	良	煤化
18	85749	85	11		10	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(10.5) 底径:(7.8) 器高:[3.1]	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→工具ナデ	回転ナデ	[外]5YR7/4にぶい橙～10YR7/3にぶい橙 [内]5YR6/4にぶい橙～6/1褐灰	密、3mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良	
18	85750	85	7		6	HC13 – 第2層	HC13 – 第2層	土師質土器	杯	口径:10.8 底径:7.2 器高:3.1	回転ナデ、ヘラ切り、板状圧痕	回転ナデ	[外]5YR7/6橙 [内]5YR7/6橙	密	良好	
18	85751	85	11		1	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(11.6) 底径:(4.0) 器高:3.4	ナデ、指押さえ、底部:板ナデ	回転ナデ、ナデ	[外]7.5YR8/1灰白～10YR6/1褐灰 [内]10YR5/1褐灰～10YR8/2灰白	やや密、2mm以下の白色砂粒等を含む	良	煤化 灯明皿
18	85752	85	11		6	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(11.6) 底径:5.7 器高:2.8	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ、板状圧痕	回転ナデ	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR8/3浅黄橙	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良好	
18	85753	85	9		3	IA07 – 第2層	IA07 – 第2層	土師質土器	杯	口径:12.4 底径:7.7 器高:3.15	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→板状圧痕	回転ナデ	[外]5YR6/6橙 [内]2.5YR7/6橙	密、1mm以下の白色砂粒を含む	良	
18	85754	85	10		4	IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(12.8) 底径:(6.45) 器高:3.35	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]5YR7/6橙 [内]5YR6/8橙	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	実測番号			(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	種類	器種	法量(cm)	手法の特徴 外面	手法の特徴 内面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
18	85755	85	11	12		DT03 – 第2層	DT03 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(13.2) 底径:(6.5) 器高:3.7	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]2.5Y7/3浅黄 [内]10YR8/4浅黄橙	密、細粒砂、1mm程度の白色砂粒・角閃石を含む	良	
18	85756	85	10	3		IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	土師質土器	杯	口径:12.7 底径:6.4 器高:3.9	回転ナデ、ヘラケズリ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]5YR7/6橙 [内]7.5YR7/6橙	密、微砂粒を含む	良	黒斑有
18	85757	85	10	7		IA02/03 中央ピット 第2層	IA02/03 SP6060 第2層	土師質土器	杯	口径:(13.6) 底径:(7.0) 器高:2.9	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→板状圧痕	回転ナデ	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	密、2mm以下の白色砂粒・角閃石・赤色粒を含む	良好	
18	85758	85	7	16		DT03 – 第2層	DT03 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(13.7) 底径:(7.9) 器高:3.2	回転ナデ	回転ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	密、2mm以下の白色砂粒・赤色粒・黒色粒を含む	良好	黒斑有 灯明皿
18	85759	85	10	5		IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(14.1) 底径:(8.0) 器高:3.3	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→板状圧痕	回転ナデ、工具ナデ痕	[外]5YR7/4にぶい橙 [内]5YR6/4にぶい橙	密、2mm以下の白色砂粒・金雲母・角閃石・赤色粒を多く含む	良	灯明皿
18	85760	85	7	18		DT00 – 第2層	DT00 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(13.8) 底径:(5.0) 器高:4.0	回転ナデ、底部:ヘラ切り	回転ナデ	[外]10YR8/1灰白 [内]10YR8/1灰白	密、2mm以下の赤色粒を含む	良好	黒斑有 灯明皿
18	85761	85	7	9		HC17 – 第2層	HC17 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(14.9) 底径:(7.4) 器高:4.3	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	[外]2.5YR6/8橙 [内]5YR7/8橙	密、1mm以下の白色砂粒・金雲母を多く含む	良	円盤状高台
18	85762	85	9	8		DT03 – 第2層	DT03 – 第2層	土師質土器	杯	口径:15.6 底径:– 器高:3.85	回転ナデ、板状圧痕	回転ナデ	[外]7.5YR8/1灰白 [内]10YR8/2灰白	密、微砂粒を含む	良	灯明皿
18	85763	85	11	24		IA03 – 第2層	IA03 – 第2層	土師質土器	蓋?	天井径:4.2 口径:(8.8) 器高:2.25	回転ナデ	回転ナデ	[外]5YR8/3淡橙～7/3にぶい橙 [内]5YR8/4淡橙～2.5Y8/2灰白	密、1mm以下の白色砂粒等を含む	良	
18	85764	85	11	9		DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	土師質土器	台付杯	口径:(10.6) 底径:– 器高:[2.4]	回転ナデ、貼付高台	回転ナデ	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒・雲母を含む	良	内面に付着物有 皿底部に高台を貼り付ける為の溝2条有
18	85765	85	10	2		IA00 – 第2層	IA00 – 第2層	土師質土器	台付杯	口径:(10.8) 底径:(4.8) 器高:2.35	回転ナデ、貼付高台	回転ナデ	[外]5YR7/4にぶい橙 [内]5YR7/6橙	密、赤色粒を含む	良	
18	85766	85	11	14		DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	土師質土器	台付杯	口径:(11.8) 底径:(6.8) 器高:2.6	回転ナデ、貼付高台	回転ナデ	[外]7.5YR7/6橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	密、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
18	85767	85	9	4		IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	台付杯	口径:(14.8) 底径:(7.4) 器高:5.3	回転ナデ、貼付高台	回転ナデ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/1灰白	密、微砂粒・赤色粒を含む	良	内面に煤化
18	85768	85	10	1		IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	土師質土器	台付杯	口径:(17.0) 底径:– 器高:[3.9]	回転ナデ	回転ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良	
18	85769	85			P864	CJ52 – 第2層	HJ12 – 第2層	土師質土器	杯	口径:12.4 底径:5.9 器高:6.2	横ナデ、底部:静止糸切り	横ナデ	[外]10YR8/4浅黄橙 [内]10YR8/4浅黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・茶色粒を含む	良	
19	85770	85			P848	IB08 – 第2層	IB08 – 第2層	土師質土器	甕or短頸壺	口径:– 底径:– 器高:[5.1]	横ナデ、剥落	横ナデ、剥落	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	普、白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	
19	85771	85			P860	DB48 – 第2層	HL08 – 第2層	土師質土器	焙烙	口径:– 底径:– 器高:[3.5]	剥落	横ナデ	[外]10YR6/4にぶい黄橙 [内]10YR6/4にぶい黄橙	普、白色砂粒・角閃石を含む	良	
19	85772	85			P895	CQ17 – 第2層	CQ17 – 第2層	土師質土器	擂鉢	口径:(21.0) 底径:– 器高:[5.1]	横ナデ、指押さえ	横ナデ、摺り目	[外]7.5YR7/3にぶい橙 [内]7.5YR7/3にぶい橙	普、白色砂粒を含む	良好	17C～
19	85773	85	7	10		IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	土師質土器	甕	口径:(26.4) 底径:– 器高:[6.85]	回転ナデ、指押さえ→ハケ	回転ナデ、ナデ	[外]7.5YR7/3にぶい橙 [内]7.5YR5/1褐灰	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒を含む	良	
19	85774	85			P841	HB18 – 第2層	HB18 – 第2層	土師質土器	十能の取手	長さ:(9.7) 幅:3.6 厚み:3.4	ナデ	ナデ	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR7/2にぶい黄橙	精良、白色砂粒・茶褐色砂粒・雲母を含む	良好	
19	85775	85			P830	DT03 – 第2層	DT03 – 第2層	土師質土器	火鉢?	口径:– 底径:(28.0) 器高:[19.2]	指押さえ、ナデ、ケズリ	ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普、白色砂粒・赤茶色砂粒を含む	良	
19	85776	85			P850	DT05 – 第2層	DT05 – 第2層	土師質土器	高杯(脚部)	口径:– 底径:(8.4) 器高:5.4	横ナデ、穿孔、摩滅	横ナデ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	普、白色砂粒を含む	良	
19	85777	85			P844	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	須恵器	小型椀	口径:(8.8) 底径:(4.0) 器高:3.4	横ナデ	横ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	普、白色砂粒・黒色粒を含む	良	口縁部:煤付着 灯明皿
19	85778	85			P833	CR19 – 第2層	CR19 – 第2層	須恵器	杯	口径:(10.0) 底径:(5.6) 器高:3.55	横ナデ、底部:ナデ、剥落著しい	横ナデ	[外]2.5Y6/1黄灰 [内]2.5Y6/1黄灰	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良	
19	85779	85			P865	CH48 – 第2層	HH08 – 第2層	須恵器	鉢形土器	口径:– 底径:– 器高:[3.5]	横ナデ	横ナデ	[外]N5/灰 [内]N5/灰	精良	良好	
19	85780	85			P845	HA05 – 第2層	HA05 – 第2層	須恵器	壺	口径:– 底径:– 器高:[3.6]	自然釉	横ナデ	[外]N5/灰 [内]N5/灰	普、白色砂粒を含む	良好	多口瓶?
19	85781	85			P832	IA03 – 第2層	IA03 – 第2層	須恵器	壺	口径:– 底径:– 器高:[7.8]	格子目タタキ、横ナデ	指押さえ→横ナデ	[外]N3/暗灰 [内]N5/灰	密、白色粒を含む	良	多口瓶?
19	85782	85			P838	IA03 – 第2層	IA03 – 第2層	須恵器	硯?	口径:– 底径:– 器高:[2.0]	格子目タタキ、切込み	青海波文	[外]N4/灰 [内]N5/灰	普、白色砂粒を含む	良好	
19	85783	85			P840	CR16 – 第2層	CR16 – 第2層	須恵器	猿面硯	口径:– 底径:– 器高:–	ヘラ切り	青海波文	[外]7.5Y6/1灰 [内]7.5Y6/1灰	普、白色砂粒を含む	良好	
19	85784	85			P846	CS15 – 第2層	CS15 – 第2層	須恵器	風字硯	口径:– 底径:– 器高:–	ナデ	指押さえ、ナデ	[外]N4/灰 [内]N4/灰	普、白色砂粒を含む	良	
19	85785	85			P851	IB09 – 第2層	IB09 – 第2層	須恵器	猿面硯	口径:– 底径:– 器高:[0.8]	ケズリ	青海波文	[外]2.5Y5/1黄灰 [内]2.5Y5/1黄灰	普、白色砂粒・黒色砂粒を含む	良好	
19	85786	85	9	2		HA16 – 第2層	HA16 – 第2層	黒色土器A	椀	口径:(15.4) 底径:(6.2) 器高:5.55	回転ナデ、ヘラミガキ、高台貼付→ナデ	ミガキ、摩滅	[外]2.5Y8/1灰白 [内]N8/灰白	密、砂粒を殆ど含まない	良	
19	85787	85	11	15		DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	黒色土器A	椀	口径:(14.4) 底径:(6.5) 器高:6.6	回転ナデ	摩滅	[外]2.5YR7/3淡赤橙～10YR8/2灰白 [内]N4/灰～N3/暗灰	密、1mm以下の白色砂粒・角閃石を含む	良	
19	85788	85			P839	CS13 – 第2層	CS13 – 第2層	黒色土器A	耳皿	口径:– 底径:(5.2) 器高:[2.5]	横ナデ	横ナデ	[外]7.5YR7/3にぶい橙 [内]2.5Y2/1黒	普、白色砂粒・角閃石を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	実測番号		(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	種類	器種	法量(cm)	手法の特徴 外面	手法の特徴 内面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
19	85789	85		P874	IA03 – 第2層	IA03 – 第2層	黒色土器B	小皿	口径:(10.0) 底径:(7.6) 器高:1.0	横ナデ、指押さえ、底部:ヘラ切り	横ナデ	[外]N4/灰 [内]N4/灰	普、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	
20	85790	85		P861	CH53 – 第2層	HH13 – 第2層	瓦質土器	火鉢	口径:(33.0) 底径:– 器高:[12.3]	突帯、ヘラミガキ、ナデ	刷毛目、ナデ	[外]N2/黒 [内]–	普、白色砂粒・茶色砂粒を多量に含む	良	奈良火鉢の浅皿?
20	85791	85		P856	DI48 – 第2層	HS08 – 第2層	陶器	灯明皿	口径:(9.6) 底径:– 器高:[1.4]	ケズリ、化粧土	化粧土	[外]5YR4/6赤褐 [内]5YR6/4にぶい橙	普	良好	備前焼
20	85792	85		P894	CQ17 – 第2層	CQ17 – 第2層	陶器	徳利or瓶	口径:(5.6) 底径:– 器高:[2.8]	施釉	施釉	[釉調]白色 [胎土]5Y2/1黒	普、白色砂粒・黒色砂粒を含む	良好	
20	85793	85		P929	DP01 – 第2層	DP01 – 第2層	陶器	徳利	口径:– 底径:– 器高:[4.2]	横ナデ、カキメ	横ナデ	[外]7.5YR5/2灰褐 [内]7.5YR5/2灰褐	精良、白色砂粒・黒色砂粒を含む	良好	備前焼
20	85794	85		P836	CS15 – 第2層	CS15 – 第2層	陶器	壺	口径:– 底径:– 器高:[5.5]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR5/2灰黄褐 [内]10YR7/1灰白	普、白色砂粒を含む	良	備前焼 14C～ ⅢA
20	85795	85		P863	CJ52 – 第2層	HJ12 – 第2層	施釉陶器	椀or皿	口径:– 底径:(3.0) 器高:[1.3]	横ナデ	施釉	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	精良	良好	「寶」印 京・信楽系
20	85796	85		P853	IB07 – 第2層	IB07 – 第2層	施釉陶器	椀	口径:– 底径:4.8 器高:[4.45]	施釉	施釉	[釉調]5Y8/1灰白 [胎土]5Y8/1灰白	普	良好	
20	85797	85		P872	DS08 – 第2層	DS08 – 第2層	施釉陶器	椀	口径:– 底径:– 器高:[5.65]	施釉	横ナデ	[釉調]2.5GY8/1灰白 [胎土]2.5Y7/1灰白	普、黒色砂粒を含む	良好	85722と相似するが、接合しない
20	85798	85		P854	DT15 – 第2層	DT15 – 第2層	施釉陶器	椀	口径:(15.6) 底径:– 器高:[5.1]	施釉	施釉	[外]7.5Y7/1灰白 [内]5Y6/1灰	普	良好	
20	85799	85		P842	DS08 – 第2層	DS08 – 第2層	磁器	紅猪口	口径:(6.0) 底径:(4.3) 器高:2.8	施釉、一部露胎	施釉、一部文字あり	[外]N8/灰白 [内]N8/灰白	精良、白色砂粒・茶褐色砂粒・雲母を含む	良好	
20	85800	85		P896	CQ17 – 第2層	CQ17 – 第2層	磁器	椀	口径:– 底径:4.6 器高:[1.6]	施釉	施釉	[釉調]7.5GY8/1明緑灰 [胎土]7.5Y8/1灰白	精良	良好	肥前系
20	85801	85		P843	IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	磁器	椀	口径:(10.0) 底径:– 器高:[5.0]	施釉	施釉	[外]白色 [内]白色	精良	良好	
20	85802	85		P873	CS15 – 第2層	CS15 – 第2層	白磁	椀or鉢	口径:– 底径:– 器高:[3.3]	横ナデ、ケズリ、施釉	施釉	[釉調]5Y7/2灰白 [胎土]2.5Y7/2灰黄	普	良好	
20	85803	85		P852	CR18 – 第2層	CR18 – 第2層	緑釉陶器	椀	口径:(17.0) 底径:– 器高:[3.1]	施釉	施釉	[釉調]7.5Y7/3浅黄 [胎土]7.5Y8/1灰白	普、砂粒を含まない	良	軟陶 平安京近郊産
20	85804	85		P837	DQ05 – 第2層	DQ05 – 第2層	緑釉陶器	椀	口径:– 底径:(6.0) 器高:[1.25]	施釉	施釉	[釉調]7.5Y7/3浅黄 [胎土]10YR7/3にぶい黄橙	普	良好	平安京近郊産
20	85805	85		P847	CR19 – 第2層	CR19 – 第2層	土製品	支脚?	長さ:(7.6) 幅:(4.25) 厚さ:3.7	指押さえ	–	[外]10YR7/1灰白 [内]10YR7/1灰白	普、白色砂粒・茶色砂粒を含む	良好	
20	85806	85		P918	LA03 – 第2層	IA03 – 第2層	土製品	脚部?	長さ:– 幅:– 厚さ:3.0	ナデ	ナデ	[外]2.5Y8/1灰白 [内]2.5Y8/1灰白	精良、2mm程度の砂粒を多量に含む	良	
20	85807	85		P831	CR16 – 第2層	CR16 – 第2層	土製品	カマド	口径:– 底径:– 器高:[19.0]	ナデ	板状工具によるナデ	[外]2.5Y7/2灰黄 [内]2.5Y7/2灰黄	普、1mm程度の白色砂粒・茶色粒を含む	良	
20	85808	85	11	19	ZA05 畦 第2層	IA05 畦 第2層	黒色土器A	椀	口径:(14.6) 底径:7.2 器高:4.5	回転ヘラミガキ、摩滅、赤彩、底部:回転ナデ	摩滅	[外]2.5YR6/8橙 [内]黒色	密、0.5mm以下の白色砂粒・角閃石を含む	良	煤化
20	85809	85		P849	IA05 畦 第2層	IA05 – 第2層	須恵器	風字硯?	口径:– 底径:– 器高:–	ナデ?	ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	
20	85810	85	10	6	IA03 – (遺物)第2層 (ラベル)第3層	IA03 – 第2・3層	土師質土器	杯	口径:(14.7) 底径:6.8 器高:4.6	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	[外]5YR8/2灰白 [内]7.5YR8/2灰白	密、白色砂粒・茶褐色粒を多量に含む	良	
21	85811	85		P883	CH50 – 第3層	HH10 – 第3層	土師質土器	小皿	口径:(10.8) 底径:(6.6) 器高:[1.9]	横ナデ	横ナデ	[外]7.5YR7/6橙 [内]7.5YR7/6橙	普、白色砂粒・茶褐色粒を含む	良好	重ね焼き痕有
21	85812	85	11	22	IA03 – 第3層	IA03 – 第3層	土師質土器	台付杯	口径:(11.8) 底径:5.65 器高:3.45	回転ナデ、ナデ、貼付高台	回転ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR8/3浅黄橙	密、1mm以下の赤色粒を少量含む	良好	
21	85813	85		P882	CH48 – 第3層	HH08 – 第3層	土師質土器	捏鉢	口径:– 底径:– 器高:[2.7]	横ナデ、指押さえ	横ナデ	[外]7.5YR7/2明褐灰 [内]7.5YR7/2明褐灰	普、白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	
21	85814	85		P881	CG44 – 第3層	HG04 – 第3層	土師質土器	取手付鍋	口径:– 底径:– 器高:[4.4]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/3浅黄橙	普、白色砂粒・茶色砂粒を僅かに含む	良好	煤化
21	85815	85		P862	CF45 – 第3層	HF05 – 第3層	須恵器	壺	口径:– 底径:– 器高:[7.1]	横ナデ	横ナデ	[外]N4/灰 [内]10YR5/2灰黄褐	普、白色砂粒を含む	良好	
21	85816	85		P857	CH48 – 第3層	HH08 – 第3層	陶器	丸椀	口径:– 底径:3.1 器高:[1.6]	施釉、高台:露胎	施釉、貫入著しい	[釉調]5Y8/3淡黄 [胎土]2.5Y8/2灰白	精良、砂粒を含まない	良好	京・信楽系
21	85817	85		P859	CH48 – 第3層	HH08 – 第3層	磁器	椀	口径:– 底径:– 器高:[3.8]	呉須	呉須	[外]2.5GY8/1灰白 [内]2.5GY8/1灰白	精良	良好	
21	85818	85		P858	CH48 – 第3層	HH08 – 第3層	磁器	皿	口径:(13.2) 底径:– 器高:[1.6]	施釉	施釉	[外]2.5Y7/2灰黄 [内]2.5Y7/2灰黄	精良	良好	
21	85819	85		P868	CF44 – 第3層	HF04 – 第3層	磁器	皿	口径:– 底径:(4.0) 器高:[1.2]	施釉	施釉	[釉調]N8/灰白 [胎土]5Y8/1灰白	精良	良好	削り出し高台
21	85820	85		P869	CF44 – 第3層	HF04 – 第3層	土製品	脚部	口径:– 底径:– 器高:[3.9]	指押さえ	指押さえ	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	普、1mm以下の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	
21	85821	85		P884	CG45 – 第3層	HG05 – 第3層	陶器	円盤形土製品	長幅:(4.15) 厚さ:[0.9]	摺り面	–	[外]7.5YR7/2明褐灰 [内]–	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良	備前焼擂鉢からの転用品
21	85822	85		P879	DA48 – 第4層	HK08 – 第4層	須恵器	不明	口径:(13.2) 底径:– 器高:[6.5]	横ナデ	横ナデ	[外]N4/灰 [内]N4/灰	普、1mm程度の白色砂粒を多量に含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	実測番号			(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	種類	器種	法量(cm)	手法の特徴 外面	手法の特徴 内面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
21	85823	85			P867	CG49 – 地山直上	HG09 – 地山直上	須恵器	杯	口径:(13.2) 底径:(7.8) 器高:3.6	横ナデ、底部:ヘラ切り→ナデ	横ナデ	[外]7.5Y6/1灰 [内]7.5Y6/1灰	普、白色砂粒・茶色砂粒を含む	良好	火襷有
21	85824	85			P866	CG48 – 地山直上	HG08 – 地山直上	須恵器	杯	口径:– 底径:(8.0) 器高:[3.3]	横ナデ	横ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	精良、白色砂粒を含む	良好	
22	86381	86			P908	JK03 – 黒褐色土層	JK03 – 黒褐色土層	須恵器	蓋	口径:(17.2) 底径:– 器高:[1.2]	横ナデ	横ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	精良、白色砂粒を少量含む	良好	
22	86382	86			P909	JK03 – 黒褐色土層	JK03 – 黒褐色土層	須恵器	杯	口径:(8.0) 底径:(5.0) 器高:3.5	横ナデ	横ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
22	86383	86			P913	JK03 – 黒褐色土層	JK03 – 黒褐色土層	須恵器	杯	口径:– 底径:(11.0) 器高:[2.1]	横ナデ、底部:ヘラ切り	横ナデ	[外]5Y7/1灰白 [内]5Y7/1灰白	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	火襷有
22	86384	86			P914	JK03 – 黒褐色土層	JK03 – 黒褐色土層	須恵器	杯	口径:– 底径:(9.6) 器高:[2.0]	横ナデ、削り出し高台?	横ナデ	[外]灰白色 [内]灰白色	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
22	86385	86			P912	JK03 – 黒褐色土層	JK03 – 黒褐色土層	須恵器	杯	口径:– 底径:(10.8) 器高:[1.6]	横ナデ、底部:ヘラ切り	横ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	普、2mm以下の白色砂粒を含む	良好	
22	86386	86			P910	JK03 – 黒褐色土層	JK03 – 黒褐色土層	須恵器	皿or盤	口径:– 底径:(17.7) 器高:[1.7]	横ナデ	横ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
22	86387	86			P911	JK03 – 黒褐色土層	JK03 – 黒褐色土層	土師質土器	赤彩皿	口径:(17.0) 底径:– 器高:[1.4]	横ナデ、赤彩	横ナデ、赤彩	[釉調]7.5YR5/8明褐 [胎土]7.5YR7/4にぶい橙	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	畿内系?
22	86388	86			P915	JM03 – 第2層	JM03 – 第2層	須恵器	杯	口径:– 底径:(8.5) 器高:[2.4]	横ナデ、貼付高台	横ナデ	[外]灰白色 [内]灰白色	普、白色砂粒・黒色砂粒を多量に含む	良好	
22	86389	86			P919	ZZ 僧房跡 –	ZZ 僧房跡 –	須恵器	猿面硯	口径:– 底径:– 器高:–	ケズリ	自然釉	[外]N5/灰 [内]N5/灰	普、1mm程度の白色砂粒を僅かに含む	良	
22	86390	86			P933	JD02 – 第2層	JD02 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(10.2) 底径:(6.4) 器高:2.2	横ナデ、底部:ナデ	横ナデ	[外]2.5Y8/1灰白 [内]2.5Y8/1灰白	精良	良好	
22	86391	86			P942	EQ01 – 第2層	EQ01 – 第2層	土師質土器	杯	口径:(10.6) 底径:– 器高:[2.0]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	
22	86392	86			P934	JD02 – 第2層	JD02 – 第2層	土師質土器	小型甕or鉢	口径:(11.1) 底径:– 器高:[4.1]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/3浅黄橙	普、1mm程度の白色砂粒を多量に含む	良	
22	86393	86			P928	DP01 – 第2層	DP01 – 第2層	土師質土器	鉢?	口径:– 底径:– 器高:[7.35]	縦ハケ	横ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を多量に含む	良	
22	86394	86			P935	JD01 – 第2層	JD01 – 第2層	土師質土器	擂鉢	口径:– 底径:– 器高:[4.6]	ナデ	摺り目、横ハケ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	普、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	
22	86395	86			P932	JA03 – 第2層	JA03 – 第2層	須恵器	鉢	口径:(18.0) 底径:(10.2) 器高:8.0	横ナデ、底部:未調整	横ナデ	[外]2.5Y5/1黄灰 [内]2.5Y5/1黄灰	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良	
22	86396	86			P936	DR16 – 第2層	DR16 – 第2層	黒色土器B	杯?	口径:– 底径:– 器高:[1.05]	ミガキ	ミガキ	[外]2.5Y2/1黒 [内]2.5Y2/1黒	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	
22	86397	86			P926	DR17 – 第2層	DR17 – 第2層	陶器	灯明皿	口径:(8.2) 底径:– 器高:[1.2]	横ナデ、ケズリ	横ナデ	[外]10YR4/2灰黄褐 [内]10YR4/2灰黄褐	精良	良好	大谷焼
22	86398	86			P931	DR19 – 第2層	DR19 – 第2層	陶器	徳利	口径:– 底径:– 器高:[3.5]	自然釉	横ナデ	[外]7.5YR6/2灰褐 [内]7.5YR6/2灰褐	普、白色砂粒・茶色砂粒を含む	良好	備前焼
22	86399	86			P927	DR17 – 第2層	DR17 – 第2層	施釉陶器	椀	口径:– 底径:(5.0) 器高:[2.4]	施釉、畳付:露胎	施釉	[釉調]2.5GY6/1オリーブ灰 [胎土]N5/灰	精良	良好	肥前系
22	86400	86			P938	DP13 – 第3層(暗褐色土層)	DP13 – 第3層(暗褐色土層)	土師質土器	甕or鍋(取手)	口径:– 底径:– 器高:[4.9]	ナデ	ナデ	[外]10YR7/4にぶい黄橙 [内]10YR7/4にぶい黄橙	粗、1mm程度の白色砂粒を多量に含む	良	
22	86401	86			P878	DP13 – 第3層(暗褐色土層)	A-5 – 第3層	黒色土器A	椀	口径:– 底径:(7.0) 器高:[1.7]	横ナデ、底部:ヘラ切り	横ナデ	[外]7.5Y8/1灰白 [内]7.5Y2/1黒	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良	
22	86402	86			P941	DP13 – 第3層(暗褐色土層)	DP13 – 第3層(暗褐色土層)	磁器	反端椀	口径:– 底径:– 器高:[2.3]	施釉	施釉	[外]釉調:5GY6/1オリーブ灰、2.5Y4/2暗灰黄 [内]釉調:緑色 [胎土]2.5Y7/2灰黄	精良	良好	
22	86403	86			P940	DO02 – 第3層(灰色粘質土層)	DO02 – 第3層(灰色粘質土層)	土師質土器	捏鉢	口径:– 底径:– 器高:[2.0]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR6/6明黄褐 [内]10YR6/6明黄褐	普、1mm程度の白色砂粒・角閃石を多量に含む	良	
22	86404	86	7		13	OS06 – 第2層	OS06 – 第2層	土師質土器	杯	口径:12.0 底径:6.8 器高:3.8	回転ナデ、底部:回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	[外]7.5YR8/2灰白 [内]7.5YR8/3浅黄橙	密、白色砂粒・赤色砂粒・角閃石を含む	良	
22	86405	86			P901	OR05 – 第2層(灰褐色土層)	OR05 – 第2層(灰褐色土層)	陶器	徳利	口径:– 底径:– 器高:[3.5]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR3/1黒褐 [内]10YR5/1褐灰	精良、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	備前焼
22	86406	86			P899	OR05 – 第2層(灰褐色土層)	OR05 – 第2層(灰褐色土層)	施釉陶器	火入れ	口径:– 底径:(10.6) 器高:[2.6]	施釉、高台ぎわ～高台内:露胎	露胎	[釉調]5Y5/3灰オリーブ [胎土]2.5Y7/2灰黄	精良	良好	
22	86407	86			P900	OR05 – 第2層(灰褐色土層)	OR05 – 第2層(灰褐色土層)	磁器	皿	口径:(12.0) 底径:(7.4) 器高:2.7	施釉、高台内:釉剥ぎ	施釉、釉剥ぎ、施文	[釉調]10Y8/1灰白 [胎土]10GY8/1明緑灰	精良	良好	肥前系
22	86408	86			P939	OR03 – 第4層(整地層)	OR03 – 第4層(整地層)	土師質土器	焙烙	口径:– 底径:– 器高:[1.6]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR6/3にぶい黄橙 [内]10YR6/3にぶい黄橙	普、1mm以下の白色砂粒・橙色砂粒を多量に含む	良	
23	88001	88			P905	山渋 南北Tr –	山渋 南北Tr –	土師質土器	鉢型土器	口径:– 底径:– 器高:[2.9]	横ナデ、板状工具ナデ	ナデ	[外]10YR5/1褐灰 [内]10YR5/1褐灰	普、黒色砂粒・茶褐色砂粒を含む	良	煤化
23	88002	88			P904	山渋 南北Tr –	山渋 南北Tr –	土師質土器	土鍋	口径:– 底径:– 器高:[4.9]	横ナデ、指押さえ	横ナデ、ハケ→ナデ	[外]10YR5/3にぶい黄褐 [内]10YR5/3にぶい黄褐	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良	
23	88003	88			P903	山渋 南北Tr –	山渋 南北Tr –	土師質土器	足釜	口径:– 底径:– 器高:[3.0]	縦ハケ、横ナデ	横ハケ	[外]10YR6/4にぶい黄橙 [内]10YR6/4にぶい黄橙	普、1mmm程度の白色砂粒・黒色砂粒を多量に含む	良好	煤化
23	91013	91			P937	BS05 – 第2層	BS05 – 第2層	陶器	壺	口径:(11.8) 底径:– 器高:[3.9]	横ナデ	横ナデ	[外]7.5YR6/3にぶい褐 [内]7.5YR6/3にぶい褐	精良	良好	備前焼 14C初頭？

挿図番号	報告書番号	次	実測番号		(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	種類	器種	法量(cm)	手法の特徴 外面	手法の特徴 内面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
23	91014	91		P924	BM00 – 第3層	BM00 – 第3層	白磁	皿	口径:(11.8) 底径:– 器高:[2.4]	施釉、露胎	施釉、露胎	[釉調]淡泊青 [胎土]7.5Y8/1灰白	精良	良好	
23	91015	91		P898	BL00 – –	BL00 – –	須恵器	高杯	口径:– 底径:– 器高:[7.3]	横ナデ	横ナデ、自然釉	[外]5Y7/1灰白 [内]5Y7/1灰白	精良、黒色粒を含む	良好	古墳時代
23	91016	91		P921	BQ02 – –	BQ02 – –	陶器	壺	口径:– 底径:– 器高:[5.7]	横ナデ	横ナデ	[外]2.5Y5/1黄灰 [内]2.5Y5/1黄灰	普、1～2mm程度の白色砂粒を多量に含む	良好	備前焼
23	91017	91		P907	BQ01 – –	BQ01 – –	陶器	擂鉢	口径:– 底径:– 器高:4.3]	横ナデ	横ナデ、摺り目	[外]5YR6/1褐灰 [内]5YR6/1褐灰	普、1mm程度の白色砂粒を多量に含む	良好	備前焼 17C前半～
23	91018	91		P906	BQ01 – –	BQ01 – –	陶器	鉢	口径:– 底径:– 器高:[1.0]	施釉	三彩手	[釉調]2.5Y4/3オリーブ褐 [胎土]2.5Y6/1黄灰	精良	良好	瀬戸美濃系
23	91019	91		P923	BM00 – –	BM00 – –	陶器	灯明皿	口径:(8.0) 底径:(3.0) 器高:1.2	横ナデ、ケズリ	横ナデ	[外]2.5YR5/6明赤褐 [内]5YR4/8赤褐	精良	良好	備前焼
23	91020	91		P920	BQ02 – –	BQ02 – –	陶器	椀	口径:(9.8) 底径:– 器高:[4.8]	施釉	施釉	[釉調]2.5Y7/3浅黄 [胎土]2.5Y8/3淡黄	普、1mm以下の黒色砂粒を含む	良好	京・信楽系
23	91021	91		P897	BL00 – –	BL00 – –	陶器	椀	口径:– 底径:– 器高:[3.9]	施釉	施釉	[釉調]2.5Y7/3浅黄 [胎土]2.5Y8/2灰白	普、白色砂粒を含む	良好	京・信楽系
23	91022	91		P925	BL00 – –	BL00 – –	磁器	仏飯器	口径:(9.2) 底径:5.3 器高:6.0	施釉、畳付:露胎	施釉	[釉調]N7/灰白 [胎土]N8/灰白	精良	良好	肥前系
23	91023	91		P922	BM00 – –	BM00 – –	緑釉陶器?	椀	口径:– 底径:– 器高:–	削り出し	ナデ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	精良	良好	平安京近郊産?
23	91024	91		P916	– – –	– – –	土師質土器	甕or鍋(取手)	口径:– 底径:– 器高:[2.9]	指押さえ	剥落、黒色化	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	普、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を多量に含む	良好	
23	91025	91		P945	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	土師質土器	焙烙	口径:– 底径:– 器高:[2.7]	横ナデ、指押さえ	横ナデ	[外]2.5Y5/1黄灰 [内]2.5Y5/1黄灰	精良	良好	
23	91026	91		P944	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	土師質土器	鉢	口径:– 底径:– 器高:[6.8]	横ナデ	横ナデ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を多量に含む	良	
23	91027	91		P954	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	土師質土器	鉢	口径:– 底径:– 器高:[6.5]	指押さえ、波状文	横ハケ	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	
23	91028	91		P943	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	土師質土器	植木鉢	口径:(28.0) 底径:– 器高:[9.6]	ナデ	横ナデ	[外]10YR6/3にぶい黄橙 [内]10YR6/3にぶい黄橙	普、1mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石を含む	良	
23	91029	91		P946	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	土師質土器	皿	口径:– 底径:– 器高:3.2	ナデ、底部:摩滅	ナデ	[外]10YR6/4にぶい黄橙 [内]10YR6/4にぶい黄橙	普、2mm以下の石英・長石・1mm程度の白色粒・茶色粒・金雲母・角閃石を含む	良	
23	91030	91		P955	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	土師質土器	井側?	口径:– 底径:– 器高:[10.0]	横ナデ	横ナデ	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良	
23	91031	91		P953	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	瓦質土器	植木鉢	口径:– 底径:(20.8) 器高:[5.0]	ミガキ	刷毛状工具によるナデ、横ナデ	[外]5Y3/1オリーブ黒 [内]10YR6/3にぶい黄橙	普、白色砂粒・黒色砂粒・雲母・角閃石を多量に含む	良	
23	91032	91		P952	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	陶器	甕	口径:– 底径:– 器高:[8.5]	施釉	施釉	[外]釉調:7.5YR3/2黒褐 [胎土]5Y6/1灰 [内]釉調:5Y6/2灰オリーブ	普、1mm程度の白色砂粒を多量に含む	良好	瀬戸美濃系
24	91033	91		P948	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	陶器	鉢	口径:(22.2) 底径:– 器高:[7.6]	施釉(黒白の二色)	施釉(黒一色)	[外]釉調:2.5Y2/1黒 [胎土]10YR4/3赤褐 [内]釉調:2.5Y4/3オリーブ褐	精良	良好	瀬戸美濃系
24	91034	91		P947	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	陶器	急須	口径:– 底径:6.4 器高:[5.7]	施釉、露胎、ヘラケズリ	施釉	[胎土]5Y6/4オリーブ黄 [調整]5Y7/2灰白	精良	良好	
24	91035	91		P949	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	陶器	灯明皿	口径:10.2 底径:4.0 器高:2.1	回転ケズリ	施釉	[釉調]2.5GY7/1明オリーブ灰 [胎土]2.5Y7/3浅黄	精良	良好	煤化 京・信楽系 墨書「カモ」
24	91036	91		P951	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	陶器	灯明皿	口径:(10.4) 底径:(3.5) 器高:2.55	横ナデ	施釉	[外]2.5Y7/2灰黄 [内]2.5Y5/2暗灰黄	精良	良好	京・信楽系
24	91037	91		P950	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	南端築地試掘 – 灰褐色粘質土層	磁器	皿	口径:(11.0) 底径:– 器高:[2.7]	施釉	施文、施釉	[釉調]2.5GY7/1明オリーブ灰 [胎土]N8/灰白	精良	良好	付着物有
20	S9	85		P835	IA03 – 第2層	IA03 – 第2層	石製品	スクレイパー?	長さ:(9.1) 幅:6.2 厚さ:0.6	–	–	重量:70.3	石材:サヌカイト		
22	S10	86		P930	DQ19 – 第2層	DQ19 – 第2層	磨製石器	石庖丁	長さ:[4.7] 幅:[3.8] 厚さ:0.75	–	–	重量:19.9	石材:サヌカイト		穿孔有
22	S11	86		P902	OR05 – 第2層(灰褐色土層)	OR05 – 第2層(灰褐色土層)	石製品	砥石?	長さ:(5.4) 幅:(3.25) 厚さ:0.85	–	–	重量:24.5	石材:不明		
24	S12	不明		P834	– – –	– – –	石製品	不明	長さ:4.1 幅:3.3 厚さ:3.0	–	–	重量:46.6	石材:砂岩？		

鐙瓦

挿図番号	報告書番号	次	(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	形式	法量(cm)	手法の特徴 凹面	手法の特徴 凸面	手法の特徴 側面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
25	1	85	DS06 – 第2層	DS06 – 第2層	SKM01	長辺:[7.5] 広端幅(短辺):[16.5] 狭端幅:– 瓦当径:[16.4] 瓦当厚:[5.9] 男瓦厚:–	–	ナデ	–	接合式	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	密、0.5～3mmの石英・長石を含む	良	割れ口に布目痕
25	2	84	CJ53 南北溝 灰色粘質土	HJ13 SD5915 灰色粘質土	SKM01	長辺:[3.2] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:16.3 瓦当厚:[3.0] 男瓦厚:–	粗いナデ、ナデ	ナデ	–	横置型一本作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、3mm以下の白色粒・黒色粒を含む	良好	笵傷あり、ノコクズ
25	3	85	HK05 鐘楼南 –	HK05 鐘楼南 –	SKM01	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:16.5 瓦当厚:4.0 男瓦厚:–	–	–	–	一本作り	[凹]暗灰 [凸]暗灰	緻密、1mm以下の白色粒を含む	良好	
25	4	86	NJ18 回廊北雨落溝 –	NJ18 SD6132 –	SKM01	長辺:[7.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:16.5 瓦当厚:5.0 男瓦厚:–	ナデ	ナデ、ハケ	–	接合式	[凹]N5/灰 [凸]N4/灰	粗、5mm以下の石英・長石・小石を多量含む	良	
25	5	84	CG45 – 第3層	HG05 – 第3層	SKM02A	長辺:[15.5] 広端幅(短辺):[12.1] 狭端幅:– 瓦当径:[12.9] 瓦当厚:2.8 男瓦厚:[2.3]	布目痕、縦方向のナデ	縦方向の粗いナデ	–	接合式	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、3mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良	
25	6	不明	不明	不明 – –	SKM02A	長辺:[13.5] 広端幅(短辺):[13.8] 狭端幅:– 瓦当径:[9.7] 瓦当厚:3.9 男瓦厚:3.5	ナデ	縦方向の粗いナデ	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N5/灰	普、2mm以下の石英・赤色粒・黒色粒を含む	良好	
25	7	84	EI13 – 第1層	KI13 – 第1層	SKM02A	長辺:[11.1] 広端幅(短辺):[17.1] 狭端幅:– 瓦当径:17.0 瓦当厚:4.0 男瓦厚:2.2	ナデ	ナデ	–	接合式	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	やや粗、5mm以下の石英・長石・小石を含む	良	
25	8	85	IB07 – –	IB07 – –	SKM02A	長辺:[8.7] 広端幅(短辺):[16.2] 狭端幅:– 瓦当径:[16.0] 瓦当厚:3.5 男瓦厚:–	ナデ、板ナデ	ナデ、板ナデ	ケズリ1度	接合式	[凹凸]N2/黒 [胎土]N7/灰白	やや粗、5mm以下の石英・長石・小石を含む	良	
25	9	85	HC18 – 第2層	HC18 – 第2層	SKM03A	長辺:[5.0] 広端幅(短辺):[17.3] 狭端幅:– 瓦当径:17.5 瓦当厚:4.5 男瓦厚:–	ナデ	横方向のナデ、縦方向の板ナデ	–	積上式横置型一本作り	[凹凸]N3/暗灰 [胎土]N8/灰白	やや粗、5mm以下の石英・長石・10mm以下の小石を含む	良	ノコクズ、枷型あり
25	10	84	CJ46 – 第3層	HJ06 – 第3層	SKM03A	長辺:[9.5] 広端幅(短辺):[15.2] 狭端幅:– 瓦当径:[14.0] 瓦当厚:4.6 男瓦厚:–	ナデ、板ナデ	板ナデ	–	横置型一本作り	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、5mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	中房笵傷あり、ノコクズ
26	11	85	DQ01 – 第2層	DQ01 – 第2層	SKM03A	長辺:[9.6] 広端幅(短辺):15.9 狭端幅:– 瓦当径:17.4 瓦当厚:3.3 男瓦厚:–	不定方向のナデ、横ナデ（接合溝）、布目痕	縦方向のナデ	–	横置型一本作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、3mm以下の石英・長石を含む	良	笵傷あり
26	12	86	BD01 – 第2層	BD01 – 第2層	SKM03A	長辺:[23.5] 広端幅(短辺):[15.1] 狭端幅:– 瓦当径:17.5 瓦当厚:4.5 男瓦厚:2.0	布目痕	ナデ	ケズリ1度	一本作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、1～5mmの石英・長石を含む	良	枷型の木目
26	13	83	AE15 SF北東隅 –	AE15 SA5801北東隅 –	SKM03A	長辺:38.0 広端幅(短辺):15.7 狭端幅:14.5 瓦当径:17.0 瓦当厚:4.5 男瓦厚:2.2	布目痕、接合のナデ	板ナデ?	ケズリ	横置型一本作り	[凹]N6/灰 [凸]N5/灰	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	ノコクズ、笵傷あり、灰被り
26	14	85	DR05 – –	DR05 – –	SKM04	長辺:[20.5] 広端幅(短辺):18.2 狭端幅:– 瓦当径:18.2 瓦当厚:[6.0] 男瓦厚:[2.3]	布目痕、粗いナデ、ナデ	ナデ	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普	良好	笵傷あり、瓦当部と女瓦部の接着面に横方向のケズリ
26	15	83	AE15 SF北東隅 –	AE15 SA5801北東隅 –	SKM04	長辺:[9.9] 広端幅(短辺):17.1 狭端幅:– 瓦当径:17.0 瓦当厚:3.2 男瓦厚:–	ナデ	–	–	接合式	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、0.5～1.5mmの石英・長石を含む	良	
26	16	86	DR13 – 第2層	DR13 – 第2層	SKM04	長辺:[3.8] 広端幅(短辺):18.3 狭端幅:– 瓦当径:18.2 瓦当厚:[3.3] 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]10Y7/1灰白 [凸]10Y7/1灰白	普、4mm以下の長石を含む	良	枷型あり、笵傷なし、ノコクズ
27	17	84	DB48 – 第3層	HL08 – 第3層	SKM05	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:15.5 瓦当厚:4.5 男瓦厚:–	–	–	–	一本作り？	[凹]暗灰 [凸]暗灰	緻密、1mm以下の白色粒を含む	良好	灰被り
27	18	不明	注記なし	不明 – –	SKM05	長辺:[19.8] 広端幅(短辺):15.2 狭端幅:– 瓦当径:15.0 瓦当厚:5.3 男瓦厚:[1.1]	布目痕	ナデ、調整1度	ケズリ1度	接合式	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、0.5～4mmの石英・長石を含む	良	灰被り
27	19	85	ID00 SK 暗褐色土	ID00 SK 暗褐色土	SKM06	長辺:[21.7] 広端幅(短辺):15.1 狭端幅:– 瓦当径:16.6 瓦当厚:4.2 男瓦厚:[1.4]	横方向のナデ、布目痕、縦方向の粗いナデ	縦方向の粗いナデ	ケズリ1度	横置型一本作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、2mm以下の石英・長石を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	(整理前)	(整理後)	形式	法量(cm)	手法の特徴			技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
			取り上げ位置	取り上げ位置			凹面	凸面	側面					
27	20	85	HB13 東雨落溝 –	HB13 SD6002 –	SKM06	長辺:[7.3] 広端幅(短辺):16.8 狭端幅:– 瓦当径:16.8 瓦当厚:3.2 男瓦厚:[3.2]	ナデ、板ナデ	ナデ、板ナデ	–	横置型一本作り（積上式？）	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、3mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良好	
27	21	86	JD00 SK 暗褐色土	JD00 SK6120 暗褐色土	SKM06	長辺:[21.8] 広端幅(短辺):[16.7] 狭端幅:– 瓦当径: 瓦当厚:2.5 男瓦厚:2.5	布目痕、縦方向のハケ？、ナデ	横方向のナデ、ミガキ	–	一本作り	[凹凸]N4/灰 [胎土]N7/灰白	やや粗、3mm以下の石英・長石・5～10mmの小石を含む	良	
27	22	85	CQ19 SK 暗褐色土	CQ19 SK6006 暗褐色土	SKM06	長辺:[6.0] 広端幅(短辺):[16.6] 狭端幅:– 瓦当径:[15.8] 瓦当厚:[3.3] 男瓦厚:[3.6]	横ナデ	ナデ	ナデ	横置型一本作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、4mm以下の砂粒を含む	良好	
27	23	84	DA49 – 第2層	HK09 – 第2層	SKM07	長辺:[8.0] 広端幅(短辺):[15.8] 狭端幅:– 瓦当径:[16.2] 瓦当厚:[5.3] 男瓦厚:–	ナデ	ナデ	–	接合式	[凹]10YR8/2灰白 [凸]10YR8/1灰白	普	良好	珠文笵傷あり、接合痕あり
27	24	85	HA17 – 第2層	HA17 – 第2層	SKM08	長辺:[4.8] 広端幅(短辺):[14.5] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:3.0 男瓦厚:–	–	–	–	接合式	[凹]N3/暗灰 [凸]N3/暗灰	密、1～4mmの石英・長石を含む	良	笵傷多い
28	25	不明	不明	不明 – –	SKM09	長辺:[8.0] 広端幅(短辺):[17.6] 狭端幅:– 瓦当径:17.0 瓦当厚:3.7 男瓦厚:–	横方向のナデ、縦方向の板ナデ？	布目痕、横方向の(粗い)ナデ、指頭圧痕	–	接合式？	[凹凸]N4/灰 [胎土]N6/灰	粗、5mm以下の石英・長石・赤色粒・雲母・小石を含む	良	
28	26	86	DR17 – 第2層	DR17 – 第2層	SKM10A	長辺:[7.4] 広端幅(短辺):[18.0] 狭端幅:– 瓦当径:17.8 瓦当厚:3.7 男瓦厚:–	–	–	–	接合式	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、4mm以下の石英・長石を含む	良	枷型あり
28	27	84	DA53 – 第2層	HK13 – 第2層	SKM10B	長辺:[4.0] 広端幅(短辺):[13.5] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:2.5 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、5mm以下の石英・長石を含む	良	
28	28	84	CE53 – 第3層	HE13 – 第3層	SKM11	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:–	–	–	–	接合式	[凹凸]2.5Y7/1灰白 [胎土]2.5Y8/1灰白	粗、4mm以下の石英・長石・赤色粒・雲母?を含む	良	
28	29	85	DR02 – 第2層	DR02 – 第2層	SKM12	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:3.5 男瓦厚:–	–	–	–	接合式	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	やや粗、2mm以下の白色粒・赤色粒を含む	良	
28	30	84	FB13 – 第1層	KL13 – 第1層	SKM13	長辺:[5.9] 広端幅(短辺):[11.6] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:2.5 男瓦厚:–	ナデ、板ナデ	ナデ	–	接合式	[凹凸]10YR8/3浅黄橙 [胎土]2.5Y8/1灰白	粗、5mm以下の石英・長石・小石を含む	良	
28	31	85	IB02 – 第2層	IB02 – 第2層	SKM14	長辺:[5.8] 広端幅(短辺):[16.9] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:3.4 男瓦厚:–	指ナデ	–	–	接合式	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、1～4mmの石英・長石を含む	良	
28	32	91	RM13 回廊雨落溝 –	RM13 SD3008 –	SKM15	長辺:[4.4] 広端幅(短辺):[17.3] 狭端幅:– 瓦当径:17.4 瓦当厚:3.4 男瓦厚:–	ナデ	ナデ、指頭圧痕	–	接合式？	[凹凸]N5/灰 [胎土]5Y8/1灰白	やや粗、3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
28	33	85	DS04 – 第2層	DS04 – 第2層	SKM16	長辺:[2.1] 広端幅(短辺):16.0 狭端幅:– 瓦当径:16.0 瓦当厚:2.8 男瓦厚:–	ナデ	ケズリ	–	縦置型一本作り	[凹]10YR7/3にぶい黄橙 [凸]10YR7/3にぶい黄橙	密、1～3.5mmの石英・長石・赤色粒を含む	良	瓦当内面に男瓦接合痕あり 消失
28	34	85	CR13 – 第2層	CR13 – 第2層	SKM16	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[9.6] 瓦当厚:[2.5] 男瓦厚:–	–	–	–	縦置型一本作り	[凹]5YR7/4にぶい橙 [凸]5YR7/4にぶい橙	普、1～5mmの石英・長石を含む	良	
29	35	85	HB13 SE 灰色粘土	HB13 SE6019 灰色粘土	SKM17	長辺:[14.2] 広端幅(短辺):[17.4] 狭端幅:– 瓦当径:17.5 瓦当厚:3.2 男瓦厚:2.9	布目痕、糸切り痕、ナデ	ナデ、板ナデ?	–	接合式	[凹凸]N4/灰～N7/灰白 [胎土]5Y8/1灰白～N7/灰白	粗、5mm以下の石英・長石・赤色粒・雲母?・小石を含む	良	
29	36	85	DT03 – 第2層	DT03 – 第2層	SKM18	長辺:[4.1] 広端幅(短辺):[11.5] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:4.0 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、1mm以下の白色粒を含む	良好	
29	37	80	PR13 不明 第2層	PR13 不明 第2層	SKM19	長辺:[2.3] 広端幅(短辺):[14.1] 狭端幅:– 瓦当径:14.0 瓦当厚:2.8 男瓦厚:–	ナデ	ナデ、指頭圧痕	–	接合式	[凹]5B3/1暗青灰 [凸]5B6/1青灰	やや粗、3mm以下の石英・長石・雲母を含む	良	瓦当裏面が丸い
29	38	85	IB03 – 第2層	IB03 – 第2層	SKM20	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[7.7] 瓦当厚:[3.6] 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、0.5～2mmの石英・長石を含む	良	瓦当裏面が丸い

挿図番号	報告書番号	次	(整理前)	(整理後)	形式	法量(cm)	手法の特徴			技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
			取り上げ位置	取り上げ位置			凹面	凸面	側面					
29	39	85	HB18 – 第2層	HB18 – 第2層	SKM20	長辺:– 広端幅(短辺):[13.6] 狭端幅:– 瓦当径:15.5 瓦当厚:3.0 男瓦厚:–	–	–	–	接合式	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	密、1～4mmの石英・長石を含む	良	瓦当裏面が丸い
29	40	85	HC18 – 第2層	HC18 – 第2層	SKM21A	長辺:[3.3] 広端幅(短辺):[10.9] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:1.8 男瓦厚:–	–	–	–	接合式	[凹]5Y7/1灰白 [凸]N8/灰白	密、4mm以下の石英・長石を含む	良	瓦当裏面が丸い
29	41	86	JD02 – 第2層	JD02 – 第2層	SKM21R	長辺:[14.4] 広端幅(短辺):[12.7] 狭端幅:– 瓦当径:13.5 瓦当厚:3.7 男瓦厚:1.7	布目痕、抜取紐痕、ナデ	ナデ	ケズリ1度	接合式	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	密、1～4mmの石英・長石を含む	良	瓦当裏面が丸い 男瓦が粘土紐作りか？
29	42	85	HC18 南雨落溝 –	HC18 SD6002 –	SKM22	長辺:[4.5] 広端幅(短辺):[11.8] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:3.0 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]7.5YR6/6橙 [凸]7.5YR6/6橙	やや粗、2mmの白色粒・黒色粒・赤色粒を含む	良	
30	43	86	JD00 – 第2層	JD00 – 第2層	SKM23	長辺:[6.0] 広端幅(短辺):[13.5] 狭端幅:– 瓦当径:15.0 瓦当厚:2.0 男瓦厚:–	–	–	–	接合式	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	やや粗、2mm以下の白色粒・赤色粒を含む	良	
30	44	86	ID00 SK 暗褐色土	JD00 SK6120 暗褐色土	SKM24A	長辺:– 広端幅(短辺):[15.3] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:2.7 男瓦厚:–	ナデ	ナデ	–	接合式？	[凹凸]N8/灰白～N6/灰白 [胎土]10YR8/2灰白	粗、5mm前後の石英・長石・赤色粒を含む	良	瓦当は粘土塊を使用
30	45	86	JM02 南北溝 –	JM02 SD6102 –	SKM24B	長辺:– 広端幅(短辺):[7.3] 狭端幅:– 瓦当径:16.0 瓦当厚:2.6 男瓦厚:–	ナデ	ナデ	–	接合式	[凹凸]N6/灰 [胎土]7.5YR7/4にぶい橙～2.5Y8/1灰白	やや粗、5mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
30	46	85	IA03 – 第2層	IA03 – 第2層	SKM25	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:2.0 男瓦厚:–	–	–	–	接合式	[凹]2.5Y8/3淡黄 [凸]2.5Y8/3淡黄	密、1～3mmの石英・長石・赤色粒を含む	良	
30	47	不明	不明	不明 – –	SKM26	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]不明 [凸]不明	不明	不明	
30	48	85	DE06 – 灰褐色粘質土	DE06 – 灰褐色粘質土	SKM27	長辺:[7.5] 広端幅(短辺):[13.0] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:4.0 男瓦厚:1.7	布目痕	–	–	接合式	[凹]7.5YR8/1灰白 [凸]7.5YR8/1灰白	やや密、2mm以下の白色粒を含む	良	
30	49	84	CF25 SD 灰褐色粘質土	GF05 SD 灰褐色粘質土	SKM28	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[14.5] 瓦当厚:[3.0] 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、3mm以下の石英・4mm以下の赤色粒を含む	良	
30	50	86	NK18 – 第3層	NK18 – 第3層	SKM29	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:–	横ナデ	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]–	精良、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	笵傷有
30	51	84	DA46 – 第2層	HK06 – 第2層	SKM30	長辺:[17.2] 広端幅(短辺):[15.5] 狭端幅:– 瓦当径:15.5 瓦当厚:1.4 男瓦厚:2.2	粗いナデ	縦方向のナデ	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	やや粗、4～5mmの石英・長石・10mm以下の小石を含む	良	釘穴1箇所
30	52	83	E2 – 第2層	E-2 – 第2層	SKM31	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[17.4] 瓦当厚:3.5 男瓦厚:–	ナデ	ナデ	–	–	[凹凸]7.5YR2/1黒 [胎土]7.5YR7/4にぶい橙	やや粗、1～2mm程度の白色砂粒を多量に含む	良	S58概報–遺物6 12～13C?
31	53	85	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	SKM32	長辺:– 広端幅(短辺):17.0 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:2.2 男瓦厚:–	ナデ	–	–	–	[凹]7.5Y5/1灰 [凸]–	普、3mm以下の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:珠文13ケ、三巴文(右巻)
31	54	不明	– – –	– – –	SKM32	長辺:[5.4] 広端幅(短辺):[9.5] 狭端幅:– 瓦当径:[10.0] 瓦当厚:2.3 男瓦厚:–	ナデ、指押さえ	–	–	接合式	[凹]2.5Y6/2灰黄 [凸]2.5Y6/2灰黄	普、3mm以下の長石・赤色粒を含む	良	接合痕あり
31	55	85	IB07 – 第2層	IB07 – 第2層	SKM33	長辺:[7.5] 広端幅(短辺):13.0 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:2.3 男瓦厚:2.4	ナデ	ナデ	–	–	[凹]N5/灰 [凸]–	普、5mm以下の白色砂粒・赤色砂粒を含む	良	瓦当文様:珠文25ケ、三巴文(右巻)
31	56	85	DT07 – 第2層	DT07 – 第2層	SKM34	長辺:– 広端幅(短辺):12.5 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:–	ナデ	ナデ	–	–	[凹]10Y6/1灰 [凸]–	普、3mm以下の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:珠文17ケ、三巴文(右巻)
31	57	85	IB03 – 第2層	IB03 – 第2層	SKM35	長辺:– 広端幅(短辺):10.1 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:–	ナデ	ナデ	–	–	[凹]5Y5/1灰 [凸]–	普、1～3mm程度の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:珠文20ケ、三巴文(右巻) 58/59/60と同一型式

挿図番号	報告書番号	次	(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	形式	法量(cm)	手法の特徴 凹面	手法の特徴 凸面	手法の特徴 側面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
31	58	85	IB07 – 第2層	IB07 – 第2層	SKM35	長辺:[9.2] 広端幅(短辺):8.3 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:1.9	布目痕→工具痕、ナデ	ミガキ、ナデ	–	–	[凹]N7/灰白 [凸]N4/灰～N6/灰	やや粗、3～7mm程度の白色砂粒・角閃石を含む	良	瓦当文様:珠文17ケ、三巴文(右巻)57/59/60と同一型式
31	59	85	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	SKM35	長辺:[15.5] 広端幅(短辺):11.8 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:1.95	布目痕、ナデ	板ナデ、ナデ	–	–	[凹]N6/灰 [凸]–	普、3mm以下の白色砂粒、8mm以下の礫を含む	良	瓦当文様:珠文21ケ、三巴文(右巻)57/58/60と同一型式
32	60	85	DT06 – 第2層	DT06 – 第2層	SKM35	長辺:[10.4] 広端幅(短辺):12.0 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:2.5	布目痕、糸切り痕、指押さえ	ナデ	–	–	[凹]N6/灰 [凸]–	普、4mm以下の砂粒を含む	良	瓦当文様:珠文14ケ、三巴文(右巻)57/58/59と同一型式
32	61	85	IB04 – 畦第2層上層	IB04 – 畦第2層上層	SKM36	長辺:[9.0] 広端幅(短辺):10.6 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:2.0	布目痕、ナデ	板ナデ	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N5/灰	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:珠文7ケ、三巴文(右巻)中・近世移行期
32	62	85	IA04 – 第2層	IA04 – 第2層	SKM37	長辺:[2.4] 広端幅(短辺):[7.0] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:–	–	ナデ	–	接合式	[凹]2.5Y8/3淡黄 [凸]–	軟、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	瓦当文様:三巴文江戸期
32	63	85	HA16 – 第2層	HA16 – 第2層	SKM38	長辺:[2.6] 広端幅(短辺):12.7 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:2.5	ナデ、板ナデ	ナデ	–	–	[凹]N5/灰 [凸]–	普、4mm以下の白色砂粒、10mm以下の礫を含む	良	瓦当文様:珠文9ケ、三巴文(右巻)
32	64	80	3T – 第2層	3T – 第2層	SKM39	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:1.5 男瓦厚:–	キラ粉	ナデ、キラ粉	–	–	[凹]2.5Y2/1黒 [凸]–	密、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	瓦当文様:巴文19C
32	65	86	DE06 – 灰褐色粘土層	DE06 – 灰褐色粘土層	SKM40	長辺:[10.4] 広端幅(短辺):6.2 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 男瓦厚:1.9	縦方向の板ナデ、ナデ	横ナデ、模骨状痕跡、キラ粉	–	–	[凹]N3/ 暗灰～5Y7/1 灰白 [凸]–	やや粗、5mm程度の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:珠文6ケ、三巴文(左巻)19C～幕末？
32	66	85	CP17 – 第2層	CP17 – 第2層	SKM41	長辺:[11.9] 広端幅(短辺):12.0 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:1.5 男瓦厚:–	キラ粉	ナデ	–	–	[凹]N4/灰 [凸]–	普、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	瓦当文様:巴文、木目有
32	67	85	IB03 – 第2層	IB03 – 第2層	SKM42	長辺:[3.6] 広端幅(短辺):[8.8] 狭端幅:– 瓦当径:[8.5] 瓦当厚:[1.5] 男瓦厚:–	ナデ	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N5/灰	密、1～2mm程度の白色砂粒・黒色粒を含む	良好	
32	68	85	HB18 – 第2層	HB18 – 第2層	SKM43	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[7.0] 瓦当厚:2.5 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、1mm以下の白色砂粒・黒色粒を含む	良好	
32	69	不明	– – –	– – –	SKM44	長辺:[4.7] 広端幅(短辺):[5.7] 狭端幅:– 瓦当径:[7.9] 瓦当厚:2.0 男瓦厚:–	摩滅	–	–	–	[凹]10YR6/3にぶい黄橙 [凸]5Y5/1灰	密、1mm以下の白色砂粒・赤色粒・黒色粒を含む	不良	
32	70	85	IC02 – 第2層	IC02 – 第2層	SKM45	長辺:[7.7] 広端幅(短辺):[7.0] 狭端幅:– 瓦当径:[5.0] 瓦当厚:[1.7] 男瓦厚:2.1	ナデ	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、2mm以下の石英・長石を含む	良	
32	71	84	DA48 – 第2層	HK08 – 第2層	SKM46	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[6.5] 瓦当厚:1.5 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]5Y6/1灰 [凸]2.5Y6/1黄灰	密、1mm以下の石英・長石を含む	良	
32	72	83	J3 – 第2層	J-3 – 第2層	SKM47	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[9.5] 瓦当厚:1.3 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]2.5Y7/2灰黄 [凸]2.5Y7/1灰白	やや粗、4mm以下の石英・長石・茶色砂粒を含む	軟質	瓦当文様:菊丸文
32	73	83	J3 – 第2層	J-3 – 第2層	SKM47	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[5.5] 瓦当厚:1.6 男瓦厚:–	–	–			[凹]2.5Y7/2灰黄 [凸]2.5Y7/1灰白	やや粗、4mm以下の石英・長石・茶色砂粒を含む	軟質	瓦当文様:菊丸文
32	74	86	DN09 – 黒褐色土層	DN09 – 黒褐色土層	SKM48	長辺:[9.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:1.8 男瓦厚:1.8	タタキ、ナデ、キラ粉	ナデ、キラ粉	–	–	[凹]N5/灰 [凸]–	普、2mm以下の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:菊花文、花弁8葉
32	75	91	BQ01 – –	BQ01 – –	SKM49	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:1.8 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]–	密、1mm程度の白色砂粒を含む	良好	瓦当文様:菊丸文
32	76	85	ZZ 僧房跡 –	ZZ 僧房跡 –	SKM50	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:[6.3] 瓦当厚:1.4 男瓦厚:–	–	–	–	–	[凹]7.5YR8/2灰白 [凸]7.5YR8/2灰白	密、2mm以下の石英・長石をわずかに含む	軟質	

宇瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	形式	法量(cm)	顎	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
39	77	不明	不明	不明 – –	SKH01A	長辺:[4.8] 広端幅(短辺):[14.8] 狭端幅:– 瓦当径:[6.3] 瓦当厚:– 女瓦厚:[3.9]		ナデ、ハケ目？	ナデ	ケズリ1度	–	–	一枚作り	[凹]N7/灰白 [凸]N6/灰	普、2mm以下の白色粒・黒色粒を含む	良好	灰被り、上部外区周縁をケズリとる
39	78	不明	不明	不明 – –	SKH01A	長辺:[7.1] 広端幅(短辺):[19.2] 狭端幅:– 瓦当径:[6.0] 瓦当厚:– 女瓦厚:[3.4]	曲線	ヘラケズリ、布目痕、粘土紐痕？	ナデ	ケズリ2度	–	–	粘土紐？	[凹]N5/灰 [凸]N6/灰	普、3mm以下の白色粒・長石を含む	良好	
39	79	85	IC01 雨落溝 –	IC01 SD6002 –	SKH01A	長辺:[17.8] 広端幅(短辺):[10.1] 狭端幅:– 瓦当径:[4.9] 瓦当厚:– 女瓦厚:[3.5]	直線	粗いナデ、布目痕、調整2度	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N4/灰	普、2mm以下の石英・長石を含む	良好	成形台？の痕跡
39	80	85	IC04 雨落溝 –	IC04 SD6002 –	SKH01A	長辺:[17.0] 広端幅(短辺):[8.3] 狭端幅:– 瓦当径:[5.6] 瓦当厚:– 女瓦厚:3.5	直線	ナデ、調整1度、模骨痕	布目痕、ナデ	ケズリ2度	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、4mm以下の長石を含む	良好	
39	81	85	HB18 – 第2層	HB18 – 第2層	SKH01A	長辺:[25.5] 広端幅(短辺):27.5 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.0 女瓦厚:3.1	直線	布目痕、ナデ、調整1度	ケズリ、ナデ	ケズリ1度	–	–	粘土板一枚作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、1～4mmの石英・長石を含む	良	凸面:工具痕あり
39	82	85	HC17 – 第2層	HC17 – 第2層	SKH01A	長辺:33.5 広端幅(短辺):28.0 狭端幅:26.5 瓦当径:– 瓦当厚:6.0 女瓦厚:3.3	曲線	布目痕、ナデ、調整1度、朱付着	ナデ	ケズリ1度	–	未調整	粘土板一枚作り	[凹]5Y5/1灰 [凸]5Y5/1灰	密、1mm以下の石英・長石を含む	良	彫り直しあり 軒出6.0cm
40	83	85	HB19 – 第2層	HB19 – 第2層	SKH01B	長辺:[20.5] 広端幅(短辺):[13.0] 狭端幅:– 瓦当径:[6.5] 瓦当厚:– 女瓦厚:[3.4]	曲線	ナデ、調整1度、糸切り痕、布目痕	ナデ	–	–	–	粘土板	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、7mm以下の石英・長石を含む	良	
40	84	85	HC14 – 第2層	HC14 – 第2層	SKH01B	長辺:[28.4] 広端幅(短辺):[11.6] 狭端幅:– 瓦当径:[7.3] 瓦当厚:– 女瓦厚:[3.6]		布目痕、糸切り痕	ナデ	–	–	–	–	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、0.5～4mmの石英・長石を含む	良	
40	85	83	BE13 SF –	BE13 SF –	SKH01B	長辺:32.9 広端幅(短辺):[26.2] 狭端幅:[16.1] 瓦当径:6.0 瓦当厚:– 女瓦厚:3.5	曲線	布目痕、ナデ、布端痕	布目痕、糸切り痕	ケズリ1度	–	ケズリ1度	一本作り	[凹]N4/灰 [凸]N4/灰	普、1～4mmの石英・長石を含む	良	
41	86	84	CF44 – 第3層	HF04 – 第3層	SKH01B	長辺:32.1 広端幅(短辺):[24.3] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.5 女瓦厚:3.0	曲線	布目痕、糸切り痕、調整1度	糸切り痕、ヘラケズリ	–	–	未調整	粘土板一枚作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、1mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良	打ちかえあり、凸面に糸切りが残っており、叩き具を使用していない可能性があり、簡略化した作りか
41	87	85	HC17 – 第2層	HC17 – 第2層	SKH01B	長辺:[13.6] 広端幅(短辺):[14.0] 狭端幅:– 瓦当径:6.0 瓦当厚:– 女瓦厚:[3.2]	曲線	横方向のナデ、布目痕、糸切り痕、灰被り	粗いナデ	ケズリ1度	調整1度	–	粘土板	[凹]N6/灰 [凸]N5/灰	普、2mm以下の白色粒・長石を含む	良好	
41	88	86	DQ12 – 第2層	DQ12 – 第2層	SKH01B	長辺:[10.6] 広端幅(短辺):10.2 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:[6.0]		布目痕、ハケ目	摩滅	–	–	–	–	[凹]10Y6/1灰 [凸]–	密、0.5～4mm程度の砂粒を含む	良	
41	89	86	JD02 – 第2層	JD02 – 第2層	SKH01B	長辺:32.8 広端幅(短辺):25.5 狭端幅:– 瓦当径:6.1 瓦当厚:– 女瓦厚:2.7	曲線	布目痕、糸切り痕、調整1度、布端痕	ナデ	ケズリ2度	ケズリ1度	–	粘土板一枚作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、10mm以下の石英・4mm以下の長石を含む	良	軒出 6cm
42	90	84	DA48 南北SD 灰茶色粘質土	HK08 SD5912 灰茶色粘質土	SKH01C	長辺:[14.6] 広端幅(短辺):[15.5] 狭端幅:– 瓦当径:[7.2] 瓦当厚:– 女瓦厚:[4.3]		布目痕、糸切り痕	ナデ、平行叩き痕（平行6に類似か）	–	–	–	–	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、1～7mmの石英・長石を含む	良	
42	91	85	HC13 – 第3層	HC13 – 第3層	SKH01C	長辺:[25.2] 広端幅(短辺):[11.8] 狭端幅:– 瓦当径:[5.8] 瓦当厚:– 女瓦厚:4.0	直線	糸切り痕、ナデ、指押さえ	ナデ	ケズリ1度、調整1度か2度	–	–	–	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5Y8/1灰白	普、5mm以下の砂粒を含む	良好	接合痕あり
42	92	91	WC11 南築地 第2層	WC11 SD3010 第2層	SKH01C	長辺:[14.5] 広端幅(短辺):[13.3] 狭端幅:– 瓦当径:6.0 瓦当厚:– 女瓦厚:[5.0]	曲線	横方向の粗いナデ、端部縦方向のナデ、朱付着	縦方向の粗いナデ、端部は横方向のナデ	ケズリ1度、調整1度	調整1度	–	–	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、3mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良	軒出 7cm
42	93	91	RM13 回廊雨落溝 –	RM13 SD3008 –	SKH01C	長辺:[18.0] 広端幅(短辺):[13.9] 狭端幅:– 瓦当径:6.3 瓦当厚:– 女瓦厚:[5.1]		布目痕、工具痕？、朱付着	ケズリ	ケズリ2度	–	–	–	[凹]7.5Y6/1灰 [凸]7.5Y6/1灰	普、3mm以下の石英・赤色粒・2mm以下の長石を含む	良	軒出 6cm、接合痕あり
42	94	84	EI13 SD 最下層	KI13 SD5901 最下層	SKH01C	長辺:[19.5] 広端幅(短辺):26.8 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.0 女瓦厚:3.5	曲線	布目痕、糸切り痕、調整1度	ナデ	ケズリ1度、未調整、分割線	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、1～2mmの石英・長石を含む	良好	

挿図番号	報告書番号	次	(整理前)	(整理後)	形式	法量(cm)	顎	手法の特徴					技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
			取り上げ位置	取り上げ位置				凹面	凸面	側面	広端面	狭端面					
42	95	85	CR16 SA 灰色粘土	CR16 SA 灰色粘土	SKH01C	長辺:[15.5] 広端幅(短辺):[22.0] 狭端幅:– 瓦当径:5.6 瓦当厚:– 女瓦厚:5	直線	糸切り痕、布目痕、調整1度	布目痕、平行叩き痕、ナデ	ケズリ2度	–	–	粘土板一枚作り	[凹]7.5YR6/3にぶい褐 [凸]7.5YR6/3にぶい褐	普、3mm以下の長石を含む	良	
42	96	86	DN01 – 第2層	DN01 – 第2層	SKH01C	長辺:[24.0] 広端幅(短辺):[26.0] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:5.9 女瓦厚:2.6	曲線	布目痕、糸切り痕、ナデ、粘土板合わせ目痕	ナデ	ケズリ1度、調整1度	調整1度	–	粘土板桶巻作り	[凹]5Y5/1灰 [凸]5Y5/1灰	普、4mm以下の長石・6mm以下の砂粒を含む	良好	ノコクズ、笵傷なし
43	97	不明	不明	不明 – –	SKH01C	長辺:41.2 広端幅(短辺):25.8 狭端幅:25.0 瓦当径:26.1 瓦当厚:6.0 女瓦厚:3.9	直線	布目痕、糸切り痕、調整1度	ナデ、板ナデ	ケズリ2度	–	–	粘土板	[凹]N2/黒 [凸]N5/灰	やや粗、4mm以下の石英・長石・雲母?・小石を含む	良	
43	98	85	IA01 – 第2層	IA01 – 第2層	SKH01C	長辺:[31.5] 広端幅(短辺):27.2 狭端幅:– 瓦当径:[6.0] 瓦当厚:– 女瓦厚:3.3	曲線	ナデ、調整1度、模骨痕、布目痕	ナデ、朱付着	ケズリ1度	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	密、8mmの長石を含む	良好	灰被り、軒出 8cm
44	99	83	BE02 SF –	BE02 SA5801 –	SKH01C	長辺:[17.5] 広端幅(短辺):24.5 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:5.5 女瓦厚:3.5	曲線	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子目叩き痕（格子Bに類似か）	–	–	–	粘土板	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5Y8/1灰白	密、1～3mmの石英・長石を含む	良	
44	100	86	JB03 – 第2層	JB03 – 第2層	SKH01D	長辺:[7.5] 広端幅(短辺):[12.0] 狭端幅:– 瓦当径:[12.0] 瓦当厚:5.5 女瓦厚:–	直線	ナデ	ナデ	–	–	–	–	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	密、3mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良好	
44	101	84	CH49 – 第2層	HH09 – 第2層	SKH02	長辺:[24.2] 広端幅(短辺):[17.3] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.3 女瓦厚:2.9	曲線	布目痕、糸切り痕	ナデ、整形台痕？	ケズリ2度	–	–	–	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5YR8/4淡橙	密、1～4mmの石英・長石・赤色粒を含む	良	二次焼成
44	102	85	IB03 – 第2層	IB03 – 第2層	SKH03	長辺:[11.8] 広端幅(短辺):[13.5] 狭端幅:– 瓦当径:5.8 瓦当厚:– 女瓦厚:[3.6]	直線?	ナデ	ナデ	ナデ	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、0.5～3mmの石英・長石を含む	良	灰被り
44	103	85	HB13 SE 灰色粘土	HB13 SE6019 灰色粘土	SKH03	長辺:[18.1] 広端幅(短辺):[13.6] 狭端幅:– 瓦当径:[5.9] 瓦当厚:– 女瓦厚:[3.1]	曲線	ナデ、調整1度	ナデ、ヘラケズリ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]5YR6/1褐灰 [凸]5YR6/1褐灰	密、0.5～2mmの石英・長石を含む	良	
45	104	不明	読み取り不可 読み取り不可 第2層	不明 不明 第2層	SKH03	長辺:38.8 広端幅(短辺):27.5 狭端幅:26.3 瓦当径:6.1 瓦当厚:– 女瓦厚:2.8		ナデ、調整1度、模骨痕、布目痕、糸切り、指押さえ	指押さえ、ナデ	ケズリ2度	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、1.7mm以下の砂粒を含む	良好	灰被り
46	105	84	CE53 – 第2層	HE13 – 第2層	SKH04	長辺:[19.8] 広端幅(短辺):[18.1] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.5 女瓦厚:3.5	曲線	布目痕、ケズリ、調整1度	ナデ	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、1～3mmの石英・長石を含む	良	凹面・側面にケズリ順の痕跡あり
46	106	85	IB02 – 第2層	IB02 – 第2層	SKH04	長辺:[18.0] 広端幅(短辺):[16.7] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.0 女瓦厚:3.1	曲線	布目痕、糸切り痕、粘土板合わせ目痕	ナデ	ケズリ1度	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、2mm以下の石英・長石を含む	良	
46	107	83	CI48 SD 灰茶色粘土質	HI08 SD5909 灰茶色粘土質	SKH05A	長辺:[2.5] 広端幅(短辺):29.0 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.5 女瓦厚:–	–	布目痕、調整1度	ヘラケズリ	–	–	–	–	[凹]7.5YR8/3浅黄橙 [凸]7.5YR8/3浅黄橙	密、3mm以下の石英・長石を含む	良	破損部に指頭圧痕、珠文に笵傷あり
46	108	86	OR01 瓦溜り溝 –	OR01 瓦溜り溝 平安中期	SKH05B	長辺:[19.2] 広端幅(短辺):[19.5] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.5 女瓦厚:2.7	曲線	布目痕、糸切り痕、調整1度	ヘラケズリ調整	ケズリ1度	–	–	–	[凹]10YR8/2灰白 [凸]10YR8/2灰白	密、3.5mm以下の石英・2.5mm以下の長石を含む	良	顎貼り付け
46	109	不明	不明	不明 – –	SKH06	長辺:[16.8] 広端幅(短辺):[19.0] 狭端幅:– 瓦当径:[8.5] 瓦当厚:[6.2] 女瓦厚:[5.4]	段顎	ナデ、布目痕、調整1度	ナデ	–	–	–	–	[凹]N8/灰白 [凸]N8/灰白	普、5mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	灰被り、接合痕あり
46	110	85	DS06 – 第2層	DS06 – 第2層	SKH06	長辺:[17.3] 広端幅(短辺):[20.7] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:8.0 女瓦厚:3.5	段顎	布目痕、ケズリ	縄叩き痕（縄縦系）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、2mm以下の石英・長石を含む	良	灰被り
47	111	84	ED14 SD 礫層	KD14 SD5901 礫層	SKH07	長辺:[16.0] 広端幅(短辺):[16.0] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.7 女瓦厚:4.3	曲線	布目痕、糸切り痕	縄叩き痕、ナデ調整	ケズリ1度	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	密、1mm程度の石英・長石を含む	良	
47	112	85	DQ08 – 第2層	DQ08 – 第2層	SKH08	長辺:[6.4] 広端幅(短辺):[7.6] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:[4.6] 女瓦厚:[2.8]	無	布目痕	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]10YR7/2にぶい黄橙 [凸]10YR7/2にぶい黄橙	普、3mm以下の長石を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	形式	法量(cm)	顎	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
47	113	84	FB16 – 灰色粘質土	KL16 – 灰色粘質土	SKH08	長辺:[14.2] 広端幅(短辺):[29.0] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:4.5 女瓦厚:4.0	直線?	布目痕、糸切り痕	ナデ	ケズリ2度	–	–	–	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	密、2mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
47	114	86	DK13 SKT 暗褐色土	DK13 SK6124 暗褐色土	SKH09	長辺:[13.1] 広端幅(短辺):[18.2] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:5.5 女瓦厚:3.3	曲線	布目痕、糸切り痕	ヘラケズリ	ケズリ1度、調整1度	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、0.5～2mmの石英・長石を含む	良	
47	115	86	DQ12 – 第2層	DQ12 – 第2層	SKH10	長辺:[12.3] 広端幅(短辺):27.6 狭端幅:– 瓦当径:27.2 瓦当厚:6.5 女瓦厚:–	曲線	布目痕、糸切り痕	指ナデ、ケズリ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、1mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良	笵傷多数
47	116	84	DB48 – 第2層	HL08 – 第2層	SKH11A	長辺:[3.6] 広端幅(短辺):[9.2] 狭端幅:– 瓦当径:[8.3] 瓦当厚:[6.3] 女瓦厚:–		–	–	–	–	–	桶巻作り？	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	やや密、2mm以下の白色粒を含む	良	
47	117	84	DA45 – –	HK05 – –	SKH11B	長辺:[7.3] 広端幅(短辺):[5.3] 狭端幅:– 瓦当径:[4.6] 瓦当厚:[4.8] 女瓦厚:–		–	–	–	–	–	–	[凹]7.5YR7/4にぶい橙 [凸]7.5YR7/4にぶい橙	普、4mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
47	118	85	HC18 – 第2層	HC18 – 第2層	SKH12	長辺:[21.2] 広端幅(短辺):[26.8] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:5.0 女瓦厚:3.0	曲線?	布目痕、糸切り痕、調整1度	ナデ	ケズリ1度	–	–	粘土板	[凹]7.5YR6/1褐灰 [凸]7.5YR6/1褐灰	密、0.5～2mmの石英・長石を含む	良	
48	119	85	DS03 – 第2層	DS03 – 第2層	SKH13	長辺:[13.0] 広端幅(短辺):[29.8] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.0 女瓦厚:4.2	曲線	布目痕、ケズリ	ナデ、朱付着	ケズリ1度	–	–	–	[凹]2.5Y7/2灰黄 [凸]2.5Y7/2灰黄	密、1～6mmの石英・長石を含む	良	軒出3.5cm
48	120	85	HB13 SE 灰色粘土	HB13 SE6019 灰色粘土	SKH14	長辺:[13.2] 広端幅(短辺):[16.8] 狭端幅:– 瓦当径:[10.8] 瓦当厚:[3.6] 女瓦厚:3.1	曲線	布目痕	ナデ	–	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	やや密、2mm以下の白色粒を含む	不良	
48	121	85	HB13 SE 灰色粘土	HB13 SE6019 灰色粘土	SKH15	長辺:[12.0] 広端幅(短辺):[11.5] 狭端幅:– 瓦当径:[11.5] 瓦当厚:5.0 女瓦厚:4.2	直線	ナデ	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N3/暗灰 [凸]N3/暗灰	やや密、1mm以下の白色粒を含む	良好	顎貼り付け
48	122	85	CR17 – 第2層	CR17 – 第2層	SKH16	長辺:[18.9] 広端幅(短辺):27.9 狭端幅:– 瓦当径:28.0 瓦当厚:5.5 女瓦厚:3.8	曲線	布目痕、糸切り痕、ナデ、調整1度	ナデ	ケズリ1度	–	–	折り曲げ式一枚作り？	[凹]N4/灰 [凸]N4/灰	普、2mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良	
48	123	86	DP12 SK 灰褐色土	DP12 SK6119 灰褐色土	SKH17	長辺:[18.8] 広端幅(短辺):24.9 狭端幅:– 瓦当径:22.0 瓦当厚:4.5～6.5 女瓦厚:3.8	曲線?	布目痕、糸切り痕、布がかり痕	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	密、1mm以下の石英・長石を含む	良	
48	124	85	IB03 – 第2層	IB03 – 第2層	SKH18	長辺:[24.0] 広端幅(短辺):24.0 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:5.5 女瓦厚:3.8	直線	布目痕	板ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]7.5YR7/4にぶい橙 [凸]7.5YR7/4にぶい橙	普、3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
48	125	86	DQ14 SK 暗褐色土	DQ14 SK6112 暗褐色土	SKH18	長辺:[12.4] 広端幅(短辺):[14.8] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:4.7 女瓦厚:–	直線	ナデ	格子叩き痕	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	粗、1～6mmの石英・長石を含む	良	
49	126	85	DT03 – 第2層	DT03 – 第2層	SKH19	長辺:[27.0] 広端幅(短辺):25.0 狭端幅:– 瓦当径:25.0 瓦当厚:5.7 女瓦厚:2.1	曲線	布目痕	ナデ、縄叩き痕（縄斜系？）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	やや密、2mm以下の白色粒を含む	良	
49	127	85	DS00 – 第2層	DS00 – 第2層	SKH20	長辺:[15.4] 広端幅(短辺):[11.0] 狭端幅:– 瓦当径:[10.7] 瓦当厚:5.3 女瓦厚:2.2	曲線	布目痕	縄叩き痕（縄斜系）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N8/灰白 [凸]N8/灰白	普、1mm以下の石英・長石を含む	良	
49	128	85	IA07 – 第2層	IA07 – 第2層	SKH21	長辺:27.0 広端幅(短辺):21.0 狭端幅:20.0 瓦当径:– 瓦当厚:5.0 女瓦厚:3.1		布目痕、糸切り痕	糸切り痕、板ナデ	–	–	–	–	[凹]5PB5/1青灰 [凸]5PB5/1青灰	密、0.5～1mm以下の石英・長石を含む	良	
49	129	85	IB07 – 第2層	IB07 – 第2層	SKH22	長辺:[23.0] 広端幅(短辺):19.2 狭端幅:– 瓦当径:19.1 瓦当厚:4.3 女瓦厚:1.9		布目痕、ナデ	糸切痕	ケズリ1度	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	密、1mm以下の白色粒を含む	良好	
49	130	85	CS13 – 第2層	CS13 – 第2層	SKH23	長辺:[15.5] 広端幅(短辺):22.7 狭端幅:– 瓦当径:22.8 瓦当厚:4.9 女瓦厚:1.8		布目痕、ナデ	ナデ、糸切痕	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、1mm以下の白色粒を含む	良好	

挿図番号	報告書番号	次	(整理前)	(整理後)	形式	法量(cm)	顎	手法の特徴					技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
			取り上げ位置	取り上げ位置				凹面	凸面	側面	広端面	狭端面					
49	131	不明	不明	不明 – –	SKH24	長辺:[18.4] 広端幅(短辺):[18.7] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:5.0 女瓦厚:3.3	曲線	布目痕、糸切り痕	縄叩き痕（縄縦系）	未調整	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、1～2mmの石英・長石を含む	良	顎部:付け足し
49	132	86	ID19 – 第2層	ID19 – 第2層	SKH25	長辺:[17.6] 広端幅(短辺):[16.5] 狭端幅:– 瓦当径:[11.9] 瓦当厚:4.0 女瓦厚:3.2	直線	布目痕、ナデ	縄叩き痕	ケズリ2度	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	やや密、2mm以下の白色粒を含む	良	
50	133	85	DS02 – 第2層	DS02 – 第2層	SKH26	長辺:[12.5] 広端幅(短辺):[8.2] 狭端幅:– 瓦当径:[5.5] 瓦当厚:[4.0] 女瓦厚:3.1		布目痕	–	–	–	–	–	[凹]5YR8/2灰白 [凸]5YR8/2灰白	やや粗、2mm以下の白色粒、赤色粒を含む	良	
50	134	不明	不明	不明 – –	SKH27	長辺:[7.9] 広端幅(短辺):[9.6] 狭端幅:– 瓦当径:[9.6] 瓦当厚:4.5 女瓦厚:3.6	直線?	布目痕	縄叩き痕	–	–	–	–	[凹]7.5YR8/1灰白 [凸]7.5YR8/1灰白	やや粗、2mm以下の白色粒・赤色粒を含む	良	
50	135	85	DR07 SD 第1層	DR07 SD6002 第1層	SKH28	長辺:[9.0] 広端幅(短辺):[10.5] 狭端幅:– 瓦当径:[9.0] 瓦当厚:4.0 女瓦厚:2.2		ナデ	摩滅	ケズリ1度	–	–	–	[凹]7.5YR8/1灰白 [凸]7.5YR8/1灰白	やや粗、2mm以下の白色粒・赤色粒を含む	良	
50	136	85	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	SKH29	長辺:[9.0] 広端幅(短辺):[12.0] 狭端幅:– 瓦当径:[12.0] 瓦当厚:5.0 女瓦厚:4.0	直線	ナデ	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/2灰黄	昔、4mm以下の石英・長石を含む	良	
50	137	86	DR14 SK 灰褐色土	DR14 SK6114 灰褐色土	SKH30	長辺:[7.5] 広端幅(短辺):[7.2] 狭端幅:– 瓦当径:[6.7] 瓦当厚:4.3 女瓦厚:3.7	直線?	布目痕、調整1度	縄叩き痕？	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、1mm以下の白色粒を含む	良	
50	138	88	JR00～02 東西トレンチ –	JR00～02 東西トレンチ –	SKH31	長辺:[7.7] 広端幅(短辺):[4.8] 狭端幅:– 瓦当径:[4.5] 瓦当厚:[5.0] 女瓦厚:3.0		布目痕	ナデ（摩滅）	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	粗、4mm以下の石英・長石を含む	良	市報告第102集第7-21
50	139	91	BQ01 – –	BQ01 – –	SKH32	長辺:[14.7] 広端幅(短辺):[12.8] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:[5.3]		ケズリ	板ナデ	–	–	–	–	[凹]2.5Y5/1黄灰 [凸]–	昔、3mm以下の砂粒を含む	良	瓦当文様:扁行唐草文
50	140	85	DT06 – 第2層	DT06 – 第2層	SKH33	長辺:[8.2] 広端幅(短辺):25.2 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:2.2		布目痕→ナデ	ケズリ 瓦当: ハナレ砂	–	–	–	–	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]–	密、0.5mm以下の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:宝珠文
50	141	85	IB04 – 畦第2層上層	IB04 – 畦第2層上層	SKH34	長辺:[14.8] 広端幅(短辺):[18.2] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:2.2		布目痕	ナデ	–	–	–	–	[凹凸]N6/灰 [胎土]5Y7/1灰白	昔、1～2mm程度の白色砂粒を含む	良	
50	142	85	IB07 – 第2層	IB07 – 第2層	SKH35	長辺:[13.3] 広端幅(短辺):18.2 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:1.7		布目痕、糸切り痕、ケズリ	ナデ	–	–	–	–	[凹]7.5Y4/1灰 [凸]–	密、1mm程度の白色砂粒を含む	良	
50	143	不明	– – –	– – –	SKH36	長辺:[8.7] 広端幅(短辺):12.2 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:2.6		布目痕→ナデ	ナデ	–	–	–	–	[凹]N4/灰 [凸]–	密、0.5～2mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	瓦当文様:宝珠文 中世末?近世初?
50	144	不明	ZZ 僧房跡 –	ZZ 僧房跡 –	SKH37	長辺:[9.5] 広端幅(短辺):[9.5] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:2.2		ナデ	ナデ	–	–	–	–	[凹]2.5Y5/1黄灰 [凸]–	密、砂粒を殆ど含まない	良	
51	145	85	IC02 – 第2層	IC02 – 第2層	SKH38	長辺:[6.1] 広端幅(短辺):10.0 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:2.6		布目痕	ナデ、指ナデ	–	–	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]–	昔、1mm程度の白色砂粒を含む	良	
51	146	85	HB13 SE中 –	HB13 SE6019 –	SKH39	長辺:[11.0] 広端幅(短辺):[13.2] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:3.3		ナデ	ナデ、工具痕有	–	–	–	–	[凹]5Y5/1灰 [凸]–	昔、0.5～3mm程度の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:花菱文?
51	147	85	K16 南部駐車場下土器溜まり(ヒューム管近く) –	K-16 南部駐車場下土器溜まり(ヒューム管近く) –	SKH40	長辺:[4.7] 広端幅(短辺):12.8 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:1.5		ナデ、キラ粉	ナデ	–	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]–	密、砂粒を含む	良	瓦当文様:宝珠文
51	148	85	K16 南部駐車場下土器溜まり(ヒューム管近く) –	K-16 南部駐車場下土器溜まり(ヒューム管近く) –	SKH40	長辺:[9.4] 広端幅(短辺):13.8 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:– 女瓦厚:[2.0]		ナデ	ナデ	–	–	–	–	[凹]N7/灰白 [凸]–	密、1mm程度の白色砂粒・黒色砂粒、3mm程度の円礫を含む	良	瓦当文様:宝珠文 凹面に付着物有 接合痕有

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	形式	法量(cm)	顎	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
51	149	85	DR07 SD 灰色粘質土	DR07 SD 灰色粘質土	SKH40	長辺:[5.2] 広端幅(短辺):[14.3] 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:2.1		ナデ	ナデ	-	-	-	-	[凹]N6/灰 [凸]-	やや密、1mm以下の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:宝珠文
51	150	84	DB49 - 第2層	HJ09 - 第2層	SKH41	長辺:[12.7] 広端幅(短辺):14.7 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:1.7		ナデ	ナデ	-	-	-	-	[凹]N5/灰 [凸]-	密、0.1～3mm程度の砂粒を含む	良	瓦当文様:十字文 17C前～後
51	151	85	K16 南部駐車場下土器溜まり(ヒューム管近く) -	K-16 南部駐車場下土器溜まり(ヒューム管近く) -	SKH42	長辺:[12.7] 広端幅(短辺):24.5 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:1.55		ナデ	板状工具によるナデ	-	-	-	-	[凹]5Y8/1灰白 [凸]-	密、1mm程度の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:花文 17C前半
51	152	85	CR15 - 第2層	CR15 - 第2層	SKH43	長辺:[12.3] 広端幅(短辺):[15.1] 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:2.3		板ナデ	粗い板ナデ	-	-	-	-	[凹]N5/灰 [凸]N4/灰	粗	良好	近世初?
51	152	85	CR15 - 焼壁混土 第2層	CR15 - 焼壁混土 第2層	SKH43	長辺:[9.4] 広端幅(短辺):17 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:2		ナデ、布目痕?	ナデ	-	-	-	-	[凹]N5/灰 [凸]-	密、2mm以下の白色砂粒を含む	良好	瓦当文様:花文 17世紀初頭?
51	153	84	CI48 - 第2層	HI08 - 第2層	SKH44	長辺:[3.8] 広端幅(短辺):13.6 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:1.5		板ナデ	ナデ、板ナデ、キラ粉	-	-	-	-	[凹]N4/灰 [凸]N6/灰	密、1mm程度の黒色砂粒を含む	良好	瓦当文様:半裁花菱文
51	154	85	DT07 SD 灰色粘質土	DT07 SD6003 灰色粘質土	SKH45	長辺:[4.3] 広端幅(短辺):[10.4] 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:2.0		ナデ	摩滅	-	-	-	-	[凹]N5/灰 [凸]-	普、4mm以下の砂粒を含む	良	
51	155	85	IB07 - 第2層	IB07 - 第2層	SKH45	長辺:[8.1] 広端幅(短辺):[11.7] 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:1.6		ナデ	横ナデ	-	-	-	-	[凹]5Y6/1灰 [凸]-	粗、2mm程度の赤色粒、4mm程度の白色砂粒を含む	良	
52	156	14	- 旧講堂東10m カレキサンの盛土	- 旧講堂東10m カレキサンの盛土	SKH46	長辺:- 広端幅(短辺):- 狭端幅:- 瓦当径:4.5 瓦当厚:- 女瓦厚:3.8	曲線	布目痕、模骨痕、調整1度	ナデ、斜格子叩き痕	ケズリ2度	-	-	樋巻き作り	[凹]暗灰 [凸]暗灰	密、1mm以下の白色粒を含む	良	
52	157	不明	ZZ - -	ZZ - -	SKH47	長辺:[3.6] 広端幅(短辺):8.9 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:1.5		板ナデ、キラ粉	板ナデ、ナデ	-	-	-	-	[凹]N4/灰 [凸]-	密	良好	瓦当文様:花文
52	158	不明	OR04 - 第3層	OR04 - 第3層	SKH48	長辺:[18.5] 広端幅(短辺):[15.2] 狭端幅:- 瓦当径:[14.0] 瓦当厚:4.8 女瓦厚:2.7		布目痕→縦方向のナデ	縄叩き痕（縄斜）	ケズリ1度	-	-	-	[凹]10YR6/1褐灰 [凸]7.5YR6/1褐灰	密、3mm以下の白色粒・1mm以下の赤色粒・黒色粒を含む	やや軟質	平安時代末
52	159	85	OR15 撹乱層 第2層	OR15 撹乱 第2層	SKH49	長辺:[5.7] 広端幅(短辺):[14.5] 狭端幅:- 瓦当径:[12.5] 瓦当厚:5.2 女瓦厚:2.3		布目痕、ナデ	縦方向のナデ	-	-	-	-	[凹]N6/灰 [凸]N5/灰	密、1mm以下の砂粒を含む	良	離れ砂付着
52	160	不明	- - -	- - -	SKH50	長辺:[4.8] 広端幅(短辺):[12.5] 狭端幅:- 瓦当径:[12.5] 瓦当厚:6.3 女瓦厚:-		布目痕	-	ケズリ1度	-	-	-	[凹]N7/灰白 [凸]N6/灰	普、3mm以下の石英・長石を含む	良	
52	161	不明	ZZ - -	ZZ - -	SKH51	長辺:[3.3] 広端幅(短辺):[4.5] 狭端幅:- 瓦当径:[4.5] 瓦当厚:[4.0] 女瓦厚:-		布目痕	-	ナデ	-	-	-	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	密、1mm以下の砂粒を含む	良	
52	162	不明	- - -	- - -	SKH52	長辺:[3.7] 広端幅(短辺):[7.3] 狭端幅:- 瓦当径:[7.6] 瓦当厚:[4.0] 女瓦厚:-		ナデ	-	-	-	-	-	[凹]N4/灰 [胎土]5Y7/1灰白	普、3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
52	163	83	E2 - 第6層	E-2 - 第6層	SKH53	長辺:[5.0] 広端幅(短辺):[8.8] 狭端幅:- 瓦当径:[8.7] 瓦当厚:3.2 女瓦厚:1.5		摩滅	-	-	-	-	-	[凹]5Y7/1灰白 [凸]7.5Y5/1灰	普、4mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
52	164	85	DS06 - 第2層	DS06 - 第2層	SKH54	長辺:[8.3] 広端幅(短辺):[10.5] 狭端幅:- 瓦当径:[3.7] 瓦当厚:4.6 女瓦厚:4.1		ナデ	ナデ	-	-	-	-	[凹]10YR6/1褐灰 [凸]10YR6/1褐灰	普、3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
52	165	不明	- - -	不明 - -	SKH55	長辺:[3.7] 広端幅(短辺):17.3 狭端幅:- 瓦当径:- 瓦当厚:- 女瓦厚:-		ナデ	ナデ	-	-	-	-	[凹]5Y8/1灰白 [凸]-	密、0.1～3mm程度の砂粒を含む	良	滴水瓦 近世初

男瓦

挿図番号	報告書番号	次	(整理前) 取り上げ位置	(整理後) 取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
57	166	85	PQ06 – 第2層	PQ06 – 第2層	長辺:[22.1] 広端幅(短辺):– 狭端幅:12.5 男瓦厚:2.0 玉縁長:3.5 連結面高:1.5	布目痕、糸切り痕	ナデ、指押さえ	ケズリ1度	–	–	粘土板	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、4.5mm以下の石英・長石を含む	良好	技法D 玉縁形a
57	167	85	DS07 – 第2層	DS07 – 第2層	長辺:[16.3] 広端幅(短辺):[12.7] 狭端幅:[12.5] 男瓦厚:[2.5] 玉縁長:5.0 連結面高:1.7	布目痕、糸切り痕、ケズリ1度、調整1度	ナデ、ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普	良好	玉縁形b 粘土板2枚重ね、接合痕あり
57	168	84	DA46 – 第3層	HK06 – 第3層	長辺:33.0 広端幅(短辺):12.7 狭端幅:– 男瓦厚:2.5 玉縁長:5.5 連結面高:–	糸切り→布目痕、ヘラ切り、綴じ紐痕	縄叩き→ナデ	–	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]–	普、1～4mm程度の白色砂粒を含む	良	
58	169	85	IC02 – 第2層	IC02 – 第2層	長辺:[22.1] 広端幅(短辺):13.0 狭端幅:– 男瓦厚:2.1 玉縁長:[3.6] 連結面高:1.7	布目痕、調整1度、離れ砂	ナデ	ケズリ1度	–	ケズリ	–	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、4mm以下の石英・長石を含む	良好	玉縁形b 玉縁中世 孔2ヶ所
58	170	85	HC18 – 第2層	HC18 – 第2層	長辺:34.5 広端幅(短辺):15.0 狭端幅:13.0 男瓦厚:1.9 玉縁長:4.0 連結面高:1.8	布目痕、布かがり痕、調整1度	ナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	–	桶巻作り	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、2mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	
59	171	85	IB02 – 第2層	IB02 – 第2層	長辺:27.2 広端幅(短辺):17.5 狭端幅:13.0 男瓦厚:1.8 玉縁長:4.0 連結面高:1.3	布目痕、糸切り痕、調整1度	粗いナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土板	[凹]N4/灰 [凸]N4/灰	普、0.4～5mmの石英・長石を含む	良	
59	172	84	CH48 – 第2層	HH08 – 第2層	長辺:34.4 広端幅(短辺):17.2 狭端幅:13.5 男瓦厚:3.3 玉縁長:3.5 連結面高:–	糸切り→布目痕	縄叩き痕、縦方向ナデ	–	–	–	–	[凹]10YR8/3浅黄橙 [凸]–	やや密、1～2mm程度の白色砂粒・赤色粒を含む	不良	付着物有
60	173	85	IC02 – 第2層	IC02 – 第2層	長辺:31.0 広端幅(短辺):16.3 狭端幅:13.5 男瓦厚:2.2 玉縁長:4.5 連結面高:1.5	布目痕、粘土板合わせ目痕、糸切り痕、調整1度	横方向のナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板桶巻作り	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、4mm以下の石英を含む	良好	
60	174	84	CG46 – 第3層	HG06 – 第3層	長辺:33.0 広端幅(短辺):14.0 狭端幅:13.5 男瓦厚:2.7 玉縁長:5.5 連結面高:–	糸切り、ヘラ切り→布目痕	縄叩き痕、ナデ	–	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]–	やや密、1～2mm程度の白色砂粒を含む	良	
61	175	85	HC18 – 第2層	HC18 – 第2層	長辺:[19.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:14.0 男瓦厚:2.5 玉縁長:4.0 連結面高:1.5	布目痕	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、0.5～4mmの石英・長石を含む	良	技法D?
61	176	86	DP01 – 第2層	DP01 – 第2層	長辺:[26.5] 広端幅(短辺):[15.9] 狭端幅:14.0 男瓦厚:1.5 玉縁長:4.0 連結面高:–	布目痕	縄叩き痕、ナデ	–	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]–	普、0.5mm以下の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	
62	177	91	BQ01 – –	BQ01 – –	長辺:33.8 広端幅(短辺):15.0 狭端幅:14.0 男瓦厚:3.0 玉縁長:4.0 連結面高:–	糸切り→布目痕	縄叩き痕、ナデ	–	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]–	普、1～4mm程度の白色砂粒・黒色粒を含む	良	
62	178	84	CI53 – 第2層	HI13 – 第2層	長辺:[12.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:14.0 男瓦厚:1.7 玉縁長:4.5 連結面高:1.5	布目痕	ナデ	ケズリ	–	–	–	[凹]7.5YR8/1灰白 [凸]7.5YR8/1灰白	普、0.3～1mmの長石を含む	良	
62	179	84	CJ53 – 第2層	HJ13 – 第2層	長辺:[18.3] 広端幅(短辺):14.0 狭端幅:14.0 男瓦厚:2.4 玉縁長:4.5 連結面高:1.6	糸切り痕、布目痕	ナデ	ケズリ1度	–	–	粘土板	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、5mm以下の長石・赤色粒を含む	良好	
63	180	84	CE52 – 第2層	HE12 – 第2層	長辺:[14.6] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[14.0] 男瓦厚:2.1 玉縁長:4.5 連結面高:1.4	布目痕、接合痕	ナデ	分割痕無調整	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、10mm以下の小石を含む	良好	技法C
63	181	85	IA09 馬道排水口 –	IA09 馬道排水口 –	長辺:[17.4] 広端幅(短辺):– 狭端幅:14.0 男瓦厚:2.5 玉縁長:4.5 連結面高:2.0	布目痕、ナデ、指押さえ	ナデ	無調整	–	布目痕　端部:無調整	粘土板桶巻作り	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、4mm以下の長石を含む	良好	技法A
63	182	85	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	長辺:31.0 広端幅(短辺):[14.0] 狭端幅:14.0 男瓦厚:2.0 玉縁長:5.0 連結面高:1.6	布目痕、布目継足し痕、布われ痕、糸切り痕、調整1度	ナデ	無調整、分割痕	無調整	–	粘土板桶巻作り	[凹]10Y6/1灰 [凸]10Y6/1灰	普、3mm以下の長石を含む	良好	
64	183	84	DA49 – 第2層	HK09 – 第2層	長辺:[26.7] 広端幅(短辺):– 狭端幅:14.0 男瓦厚:2.1 玉縁長:5.5 連結面高:1.5	布目痕	ナデ	ケズリ	–	ケズリ1度	–	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]2.5Y8/2灰白	普、0.3～2mmの石英・長石を含む	良	
64	184	85	IA02 – 第2層	IA02 – 第2層	長辺:34.1 広端幅(短辺):16.5 狭端幅:14.5 男瓦厚:2.5 玉縁長:3.5 連結面高:–	布目痕、ケズリ	縄叩き痕、ナデ、ヘラ切り	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]–	やや密、1～2mm程度の白色砂粒を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
65	185	85	IB04 – 第2層	IB04 – 第2層	長辺:[15.0] 広端幅(短辺):[15.1] 狭端幅:14.5 男瓦厚:1.6 玉縁長:5.0 連結面高:1.5	布目痕	ナデ、凹線	ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	[凹]10YR7/1灰白 [凸]10YR7/1灰白	普、1～5mmの石英・長石を含む	良	技法A
65	186	85	CD17 – 第2層	CD17 – 第2層	長辺:[12.7] 広端幅(短辺):– 狭端幅:15.0 男瓦厚:3.2 玉縁長:4.0 連結面高:1.7	布目痕	ナデ、指押さえ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	
65	187	84	CJ48 – 第2層	HJ08 – 第2層	長辺:[32.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:15.0 男瓦厚:2.2 玉縁長:4.0 連結面高:1.5	布目痕、糸切り痕、粘土板合わせ目	横方向のナデ、灰被り	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土板桶巻作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、6mm以下の長石を含む	良好	
66	188	86	DR19 SK 暗褐色土	DR19 SK6117 暗褐色土	長辺:31.8 広端幅(短辺):– 狭端幅:15.0 男瓦厚:1.5 玉縁長:5.0 連結面高:1.2	布目痕、分割線（未遂）、ナデ、調整1度	ナデ	ケズリ複数	ケズリ1度	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、1～3mmの石英・長石を含む	良	
66	189	83	A3 – 第5層	A–3 – 第5層	長辺:32.0 広端幅(短辺):18.0 狭端幅:15.0 男瓦厚:1.7 玉縁長:6.0 連結面高:1.7	布目痕、粘土板合わせ目痕	ナデ	ケズリ	無調整	ケズリ	粘土板桶巻作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、6mm以下の石英・長石を含む	良好	
67	190	84	EB16 – 第2層	KB16 – 第2層	長辺:[15.5] 広端幅(短辺):[11.7] 狭端幅:15.0 男瓦厚:2.6 玉縁長:7.0 連結面高:1.5	布目痕、糸切り痕、ナデ、調整1度	ナデ	ケズリ	ケズリ1度、調整1度	–	粘土板	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]2.5Y8/2灰白	普、1～4mmの長石を含む	良	技法A
67	191	85	HC16 – 第2層	HC16 – 第2層	長辺:[23.4] 広端幅(短辺):– 狭端幅:15.5 男瓦厚:2.0 玉縁長:3.0 連結面高:1.6	布目痕、布合わせ目痕	ナデ	ケズリ	–	ケズリ1度	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、0.5～2mmの石英・長石を含む	良	
68	192	83	BA16 SF 第5層	BA16 SF 第5層	長辺:32.3 広端幅(短辺):15.5 狭端幅:15.5 男瓦厚:1.8 玉縁長:4.5 連結面高:1.7	布目痕、布かがり痕	縄叩き痕、ナデ	ケズリ1度、調整1度	ケズリ1度	–	粘土板	[凹]7.5YR7/4にぶい橙 [凸]7.5YR7/4にぶい橙	普、4mm以下の長石・角閃石を含む	良	
68	193	91	– – –	– – –	長辺:33.6 広端幅(短辺):17.0 狭端幅:15.5 男瓦厚:3.8 玉縁長:5.5 連結面高:–	糸切り→布目痕、ヘラ切り	縄叩き→ナデ	–	–	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]–	やや密、1～2mm程度の白色砂粒を含む	良	
69	194	83	B3 ツイジ 第5層	B–3 SA5801 第5層	長辺:32.3 広端幅(短辺):[17.0] 狭端幅:15.5 男瓦厚:2.0 玉縁長:5.5 連結面高:1.5	布目痕、糸切り痕、布かがり痕、粘土板合わせ目痕	ナデ	ケズリ1度	端部:無調整	–	粘土板桶巻作り	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、3mm以下の長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	
69	195	83	A3 ツイジ 第5層	A–3 SA5801 第5層	長辺:32.7 広端幅(短辺):16.5 狭端幅:15.5 男瓦厚:1.9 玉縁長:6.0 連結面高:1.6	布目痕、布がかり痕	ナデ、灰被り	ケズリ	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板桶巻作り	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、0.3～2mmの石英・長石を含む	良	
70	196	86	DQ10 – 暗褐色粘質土	DQ10 – 暗褐色粘質土	長辺:[35.9] 広端幅(短辺):16.4 狭端幅:15.5 男瓦厚:2.2 玉縁長:7.5 連結面高:1.6	ナデ、布目痕	ナデ	ケズリ1度、布目痕	–	–	横置型一本作り	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、2.5mm以下の長石を含む	良好	一本作り鐙瓦 側面布目痕 瓦当部欠損
70	197	84	CH48 – 第3層	HH08 – 第3層	長辺:33.1 広端幅(短辺):17.2 狭端幅:16.0 男瓦厚:3.4 玉縁長:4.0 連結面高:–	布目痕、糸切り痕、綴じ紐痕有	縄叩き→ナデ	–	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]–	やや密、1～2mm程度の白色砂粒を含む	良	
71	198	84	EC14 SD 底 粘質土	KC14 SD5901 底 粘質土	長辺:[20.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:16.0 男瓦厚:1.8 玉縁長:5.0 連結面高:1.7	布目痕	ナデ	ケズリ、分割線	–	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、0.5～2mmの石英・長石を含む	良	凸面側から分割線
71	199	86	DR14 – 第2層	DR14 – 第2層	長辺:31.5 広端幅(短辺):[16.0] 狭端幅:16.0 男瓦厚:2.3 玉縁長:5.0 連結面高:1.7	布目痕、粘土板合わせ目痕、調整1度	ナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	–	桶巻作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、2mm以下の砂粒を含む	良好	
72	200	85	DT08 – 第2層	DT08 – 第2層	長辺:[32.7] 広端幅(短辺):– 狭端幅:16.0 男瓦厚:1.6 玉縁長:5.0 連結面高:1.5	布目痕	縄叩き→ナデ、接合痕	無調整、分割痕	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板桶巻作り	[凹]5Y6/1灰 [凸]5Y6/1灰	普、8mm以下の石英・長石を含む	良好	接合A
72	201	84	CE52 – 第3層	HE12 – 第3層	長辺:[24.0] 広端幅(短辺):[10.0] 狭端幅:16.0 男瓦厚:1.4 玉縁長:5.0 連結面高:1.5	布目痕、ナデ	縄叩き→ナデ	無調整、分割痕	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、4mm以下の長石・27mmの砂礫を含む	良好	技法A
73	202	83	A3 ツイジ –	A–3 SA5801 –	長辺:32.0 広端幅(短辺):17.5 狭端幅:16.0 男瓦厚:1.7 玉縁長:5.0 連結面高:1.7	布目痕、布端痕	ナデ、灰被り	ケズリ	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、0.5～2mmの石英・長石を含む	良	
73	203	84	EC14 SD 底 粘質土	KC14 SD5901 底 粘質土	長辺:[27.3] 広端幅(短辺):[16.0] 狭端幅:16.0 男瓦厚:2.2 玉縁長:5.5 連結面高:1.5	布目痕、布かがり痕	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、5mm以下の石英・4mm以下の長石を含む	良好	

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
74	204	83	A3 – 第5層	A-3 – 第5層	長辺:33.6 広端幅(短辺):18.9 狭端幅:16.0 男瓦厚:3.2 玉縁長:5.5 連結面高:–	糸切り→布目痕	ナデ	–	–	–	–	[凹]N7/灰白 [凸]–	やや密、1～4mm程度の白色砂粒・黒色粒を含む	良	
74	205	83	A3 – 第5層	A-3 – 第5層	長辺:33.6 広端幅(短辺):18.3 狭端幅:16.0 男瓦厚:3.4 玉縁長:5.5 連結面高:–	糸切り→布目痕、面取り、綴じ紐痕	縄叩き→ナデ	–	–	–	–	[凹]10YR7/2にぶい黄橙 [凸]–	やや密、2mm以下の白色砂粒、4mm以下の赤色粒を含む	不良	
75	206	83	AF16 SF 第5層	AF16 SA5801 第5層	長辺:30.2 広端幅(短辺):17.6 狭端幅:17.0 男瓦厚:2.9 玉縁長:5.0 連結面高:–	糸切り→布目痕	横ナデ	–	–	–	–	[凹]10YR7/3にぶい黄橙 [凸]–	やや密	良	付着物有
75	207	84	CE48 – 第2層	HE08 – 第2層	長辺:33.3 広端幅(短辺):[15.3] 狭端幅:17.5 男瓦厚:1.6 玉縁長:6.0 連結面高:2.0	布目痕	ナデ	ケズリ1度	–	ケズリ1度	–	[凹]10YR8/1灰白 [凸]10YR8/1灰白	普、4mm以下の長石・赤色粒を含む	良	技法A
75	208	86	JA03 – 第2層	JA03 – 第2層	長辺:[9.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[6.8] 男瓦厚:[2.9] 玉縁長:3.5 連結面高:1.5	布目痕	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、2mm以下の長石・赤色粒を含む	良好	技法D
76	209	86	DQ12 – 第2層	DQ12 – 第2層	長辺:[23.5] 広端幅(短辺):[14.1] 狭端幅:[12.1] 男瓦厚:[1.3] 玉縁長:4.0 連結面高:1.2	布目痕	ナデ	無調整、分割線	–	–	粘土板桶巻作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、0.5～3mmの石英・長石を含む	良	灰被り
76	210	86	DM01 – 第2層	DM01 – 第2層	長辺:31.4 広端幅(短辺):[13.0] 狭端幅:[11.5] 男瓦厚:1.3 玉縁長:4.0 連結面高:1.7	布目痕、調整1度	横方向のナデ	ケズリ2度	無調整	横方向のナデ	–	[凹]N4/灰 [凸]N4/灰	普、2mm以下の石英・長石を含む	良	
76	211	84	DB52 SK 灰茶褐色粘質土	HL12 SK5917 灰茶褐色粘質土	長辺:[4.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 男瓦厚:2.4 玉縁長:7.0 連結面高:1.5	布目痕	ナデ	ケズリ	–	–	一本作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、0.5～3mmの長石を含む	良	技法D
76	212	85	OR15 – かく乱層	OR15 – かく乱層	長辺:[14.8] 広端幅(短辺):– 狭端幅:20.1 男瓦厚:2.9 玉縁長:[1.4] 連結面高:1.9	布目痕、縦方向の粗いナデ、横方向の粗いナデ	ナデ	ケズリ	–	ケズリ	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、4mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良	大
77	213	85	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	長辺:31.9 広端幅(短辺):15.2 狭端幅:– 男瓦厚:2.1 玉縁長:– 連結面高:–	布目痕	横ナデ	–	–	–	粘土紐桶巻き（一木）作り	[凹]10YR7/2にぶい黄橙 [凸]–	やや密、1mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を含む	不良	行基A
77	214	85	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	長辺:30.8 広端幅(短辺):13.1 狭端幅:– 男瓦厚:1.9 玉縁長:– 連結面高:–	布目痕、糸切り痕、ナデ	ナデ	–	–	–	粘土紐桶巻き（一木）作り	[凹]N6/灰 [凸]–	やや密、1～2mm程度の黒色砂粒を含む	良	行基A
78	215	86	DQ10 – 第2層	DQ10 – 第2層	長辺:[31.3] 広端幅(短辺):14.7 狭端幅:13.0 男瓦厚:2.7 玉縁長:– 連結面高:–	布目痕、糸切り痕	ナデ、縄縦系縄叩き痕	ケズリ1度	無調整	ケズリ1度	粘土板	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、5mm以下の石英・長石を含む	良	行基B 凸部両端に削って段をつけたような痕がある
78	216	83	B3 築地 第5層	B-3 SA5801 第5層	長辺:34.4 広端幅(短辺):15.2 狭端幅:– 男瓦厚:1.7 玉縁長:– 連結面高:–	糸切り→布目痕	縄叩き→ナデ	–	–	–	–	[凹]10YR6/4にぶい黄橙 [凸]–	普、1～5mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良	行基C
79	217	85	PQ09 – 第3層	PQ09 – 第3層	長辺:33.4 広端幅(短辺):17.1 狭端幅:– 男瓦厚:2.4 玉縁長:– 連結面高:–	糸切り→布目痕	横ナデ	–	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]–	やや密、1～3mm程度の白色砂粒を含む	良	行基C
79	218	85	BQ01 – –	BQ01 – –	長辺:[24.0] 広端幅(短辺):[15.5] 狭端幅:[15.0] 男瓦厚:2.0 玉縁長:– 連結面高:–	布目痕、布かがり痕、糸切り痕	ヘラケズリ、ナデ、横方向のナデ	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板	[凹]10YR8/4浅黄橙 [凸]10YR8/4浅黄橙	普、7mm以下の長石・3mm以下の赤色粒を含む	良好	行基C 凸面ヘラ書き
79	219	85	HA16 – 第2層	HA16 – 第2層	長辺:[10.6] 広端幅(短辺):[7.35] 狭端幅:– 男瓦厚:2.1 玉縁長:– 連結面高:–	布目痕	格子叩き痕（正格子A）	ケズリ1度	–	–	粘土紐桶巻作り	[凹]7.5YR8/2灰白 [凸]7.5YR8/2灰白	普、6mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	行基式
79	220	84	EE13 SD 溝底	KE13 SD5901 溝底	長辺:[16.4] 広端幅(短辺):[7.6] 狭端幅:– 男瓦厚:2.0 玉縁長:– 連結面高:–	布目痕	平行叩き痕（平行K）	ヘラミガキ	ケズリ1度	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、3mm以下の長石を含む	良	行基式

女瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
80	221	86	JA03 – 第2層	JA03 – 第2層	長辺:[9.7] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:1.8	布目痕	格子叩き痕（正格子A）	ケズリ	–	–	粘土紐作り	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
80	222	85	HA16 – 第2層	HA16 – 第2層	長辺:[10.5] 広端幅(短辺):[10.2] 狭端幅:– 女瓦厚:2.4	布目痕、模骨痕、調整1度	格子叩き痕（正格子A）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土紐桶巻作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、4.5mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	
80	223	85	DT07 – 第2層	DT07 – 第2層	長辺:[10.6] 広端幅(短辺):[7.2] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕	格子叩き痕（正格子A）	未調整、分割痕	ケズリ1度	–	粘土板桶巻作り	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、4mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	
80	224	86	DQ11 – 第2層	DQ11 – 第2層	長辺:[15.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[10.5] 女瓦厚:2.2	布目痕	格子叩き痕（正格子A）→ナデ	ケズリ	–	ケズリ	粘土紐作り	[凹]2.5Y7/2灰黄 [凸]2.5Y7/2灰黄	普、1mm程度の石英・長石を含む	良好	
80	225	84	DB48 – 第2層	HL08 – 第2層	長辺:[21.1] 広端幅(短辺):[19.2] 狭端幅:– 女瓦厚:2.4	布目痕、調整1度、指押さえ	格子叩き痕（正格子A）	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土紐作り？	[凹]10YR8/2灰白 [凸]10YR8/2灰白	普、5mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	
80	226	85	DS03 – 第2層	DS03 – 第2層	長辺:[18.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:2.8	布目痕→ナデ、調整1度	格子叩き痕（正格子B）→ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、5mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良好	
80	227	85	DS08 – 第2層	DS08 – 第2層	長辺:[18.2] 広端幅(短辺):[13.9] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	糸切り痕、指押さえ、布目痕、調整1度	格子叩き痕（正格子B）、板ナデ、指押さえ	–	ケズリ1度	–	粘土板	[凹]10YR7/1灰白 [凸]10YR7/1灰白	普、1mm以下の長石・赤色粒を含む	良好	
80	228	84	EF13 SD 礫層	KF13 SD5901 礫層	長辺:[14.3] 広端幅(短辺):[16.5] 狭端幅:[15.0] 女瓦厚:2.4	布目痕	格子叩き痕（正格子B）	ケズリ	ケズリ1度	–	粘土塊充填法？	[凹]7.5Y6/1灰 [凸]7.5Y6/1灰	普、1～9mmの石英・長石を含む	良	
81	229	84	CG45 – 第3層	HG05 – 第3層	長辺:[8.8] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:2.6	布目痕→ナデ、調整1度	格子叩き痕（正格子B）	布目痕、ケズリ1度	–	–	一枚作り	[凹]10YR8/3浅黄橙 [凸]10YR8/3浅黄橙	普、2mm以下の石英・長石を含む	良好	
81	230	不明	ZZ – –	ZZ – –	長辺:[27.7] 広端幅(短辺):[18.2] 狭端幅:– 女瓦厚:2.5	布目痕、指押さえ、ナデ	格子叩き痕（正格子B）	ケズリ1度	–	調整1度、ケズリ1度	粘土紐	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]2.5Y8/2灰白	普、2.5mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒・雲母？を含む	良好	
81	231	84	DA49 – 第2層	HK09 – 第2層	長辺:[22.0] 広端幅(短辺):[9.5] 狭端幅:[15.0] 女瓦厚:2.4	布目痕、調整1度	格子叩き痕（正格子B）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	[凹]7.5Y6/1灰 [凸]7.5Y6/1灰	普、4mm以下の長石を含む	良好	
81	232	84	DA47 – 第3層	HK07 – 第3層	長辺:[16.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[11.5] 女瓦厚:2.3	布目痕、ケズリ1度	格子叩き痕（正格子C）	ケズリ1度	–	ケズリ1度	–	[凹]10YR8/3浅黄橙 [凸]10YR8/3浅黄橙	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
81	233	86	DM9 – 黒褐色土	DM09 – 黒褐色土	長辺:[14.9] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:2.5	布目痕、糸切り痕、調整1度	斜格子叩き痕（正格子C）	ケズリ2度	ケズリ1度	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
81	234	86	DN00 – 第2層	DN00 – 第2層	長辺:[18.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[12.5] 女瓦厚:2.4	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（正格子C）	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板作り	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、3mm以下の長石・2mm以下の砂粒を含む	良	
82	235	85	IA05 – 第2層	IA05 – 第2層	長辺:[18.2] 広端幅(短辺):[8.9] 狭端幅:– 女瓦厚:2.0	布目痕、ナデ、調整1度	格子叩き痕（正格子D）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、2mm以下の石英・長石を含む	良好	
82	236	84	CE50 – 2層	HE10 – 2層	長辺:[7.5] 広端幅(短辺):[11.0] 狭端幅:– 女瓦厚:2.3	布目痕、ナデ	格子叩き痕（正格子D）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	密、0.3～2mmの長石を含む	良	
82	237	84	CJ49 DB49 – 第2層	HJ09 HL09 – 第2層	長辺:[23.4] 広端幅(短辺):[14.5] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	未調整	格子叩き痕（正格子D）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]7.5Y5/1灰 [凸]7.5Y5/1灰	普、2mm以下の石英・長石を含む	良	
82	238	84	CJ49 南北SD 灰茶色粘質土	HJ09 SD5912 灰茶色粘質土	長辺:[10.8] 広端幅(短辺):[9.5] 狭端幅:– 女瓦厚:2.2	布目痕、調整1度	格子叩き痕（正格子E）	–	ケズリ1度	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、3mm以下の長石・砂粒を含む	良好	
82	239	84	EC13 – 灰色粘質土	KC13 – 灰色粘質土	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:2.4	布目痕	格子叩き痕（正格子F）	–	–	–	–	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	密、1mm以下の白色粒を含む	良	
82	240	91	WC11 – 第2層	WC11 – 第2層	長辺:[21.7] 広端幅(短辺):[14.8] 狭端幅:[13.6] 女瓦厚:2.1	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（正格子G）、ナデ	ケズリ	ケズリ1度	–	粘土板	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、1～6mmの石英・長石を含む	良	
82	241	84	CJ48 – 第2層	HJ08 – 第2層	長辺:[10.0] 広端幅(短辺):[4.7] 狭端幅:– 女瓦厚:2.3	布目痕	格子叩き痕（正格子H）	–	ケズリ1度	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、6mm以下の砂粒を含む	良好	
83	242	85	IC03 – 第2層	IC03 – 第2層	長辺:[27.7] 広端幅(短辺):[8.8] 狭端幅:– 女瓦厚:2.5	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（正格子I）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土板	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、2mm以下の砂粒を含む	良	
83	243	89	ER07 – 第2層	ER07 – 第2層	長辺:[8.8] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:1.7	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（正格子J）	ケズリ1度	–	–	粘土板	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、2mm以下の石英・長石を含む	良好	
83	244	不明	ZZ – –	ZZ – –	長辺:[11.2] 広端幅(短辺):[10.4] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	糸切り痕→布目痕	格子叩き痕（正格子J）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	[凹]10YR7/3にぶい黄橙 [凸]10YR7/3にぶい黄橙	粗、4mm以下の長石を含む	良	
83	245	85	HB13 SE中 –	HB13 SE6019 –	長辺:[15.2] 広端幅(短辺):[13.3] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕、調整1度	格子叩き痕（正格子K）、布目痕	ケズリ1度	ケズリ1度	–	一枚作り	[凹]7.5Y6/1灰 [凸]7.5Y6/1灰	普、2mm以下の石英・長石を含む	良好	
83	246	86	DQ18 – 第2層	DQ18 – 第2層	長辺:[18.0] 広端幅(短辺):21.3 狭端幅:20.7 女瓦厚:1.4	布目痕、糸切り痕	格子叩き痕（正格子L）、ナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、0.3～2mmの長石を含む	良	
84	247	86	DP12 – 第2層灰褐色土	DP12 – 第2層灰褐色土	長辺:[15.8] 広端幅(短辺):[17.1] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕、糸切り痕	糸切り痕、格子叩き痕（正格子L）	–	ケズリ2度	–	粘土板	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、2mm以下の長石・赤色粒を含む	良好	
84	248	84	EJ13 SD 最下層	KJ13 SD5901 最下層	長辺:[18.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[10.0] 女瓦厚:2.9	ナデ、布目痕、粘土板合わせ目痕	格子叩き痕（正格子M）、ナデ	ケズリ2度	–	ケズリ	一枚作り	[凹]10YR7/4にぶい黄橙 [凸]10YR7/4にぶい黄橙	普、3mm以下の石英・5mm以下の長石を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
84	249	不明	不明	不明 – –	長辺:[10.5] 広端幅(短辺):[11.3] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	ナデ	格子叩き痕（正格子N）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	[凹]10YR7/3にぶい黄橙 [凸]10YR7/3にぶい黄橙	普、3mm以下の長石・砂粒を含む	良好	
84	250	85	DQ03 – 第2層	DQ03 – 第2層	長辺:[24.7] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[8.0] 女瓦厚:2.2	布目痕	格子叩き痕（正格子O）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	[凹]7.5YR7/4にぶい橙 [凸]7.5YR7/4にぶい橙	普、0.5～6mmの石英・長石を含む	良	
84	251	85	IB06 – 第2層	IB06 – 第2層	長辺:[20.0] 広端幅(短辺):[15.5] 狭端幅:[10.4] 女瓦厚:2.1	縦方向のナデ、調整1度	格子叩き痕（斜格子A）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]2.5Y8/2灰白	普、0.5～2mmの長石を含む	良	
84	252	86	DE04 – 灰茶褐色粘質土	DE04 – 灰茶褐色粘質土	長辺:[9.6] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:1.9	ナデ	格子叩き痕（斜格子B）	–	–	–	–	[凹]2.5Y8/3淡黄 [凸]2.5Y8/3淡黄	普、2mm以下の石英・長石を含む	良好	叩き具に傷あり
85	253	85	HC14 – 第2層	HC14 – 第2層	長辺:[12.8] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:1.6	ナデ	格子叩き痕（斜格子B）	–	–	–	–	[凹]10YR7/2にぶい黄橙 [凸]10YR7/2にぶい黄橙	普、8mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良好	叩き具に傷あり
85	254	85	DQ03 – 第2層	DQ03 – 第2層	長辺:[20.9] 広端幅(短辺):[13.6] 狭端幅:– 女瓦厚:1.8	未調整	格子叩き痕（斜格子B）	–	ケズリ1度	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	粗、3mm以下の長石を含む	良	
85	255	83	E2 SD 底 第4層	E-2 SD5802 底 第4層	長辺:[18.1] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[16.3] 女瓦厚:2.7	ナデ、ケズリ	格子叩き痕（斜格子C）	ケズリ2度	–	ケズリ1度	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、5mm以下の石英・長石を含む	良好	
85	256	84	EH13 SD 礫層	KH13 SD5901 礫層	長辺:[15.4] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:1.8	布目痕	格子叩き痕（斜格子C）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、3mm以下の石英・長石を含む	良	
85	257	84	EE13 SD 底 粘土	KE13 SD5901 底 粘土	長辺:[27.7] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕	格子叩き痕（斜格子C）	調整、ケズリ1度	–	布目痕	粘土板一枚作り	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、4mm以下の長石を含む	良	
86	258	84	EE13 – 灰褐色粘質土	KE13 – 灰褐色粘質土	長辺:32.0 広端幅(短辺):24.6 狭端幅:20.9 女瓦厚:2.6	布目痕、糸切り痕	格子叩き痕（斜格子C）、粗いナデ	ケズリ	ケズリ1度	ケズリ1度	–	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]2.5Y8/2灰白	普、1～6mmの長石を含む	良	
86	259	84	CH47 – 第3層	HH07 – 第3層	長辺:[10.4] 広端幅(短辺):[10.2] 狭端幅:– 女瓦厚:2.0	摩滅	格子叩き痕（斜格子D）	–	–	–	–	[凹]5YR7/4にぶい橙 [凸]5YR7/4にぶい橙	普、4mm以下の石英・長石を含む	良	
86	260	83	E3 – 第3層	E-3 – 第3層	長辺:[20.7] 広端幅(短辺):[11.0] 狭端幅:– 女瓦厚:2.5	布目痕	格子叩き痕（斜格子E）	ケズリ1度	未調整	–	–	[凹]7.5Y4/1灰 [凸]7.5Y4/1灰	普、4mm以下の長石・5mm以下の赤色粒を含む	良好	粘土付着痕あり
86	261	84	DA53 – 第2層	HK13 – 第2層	長辺:[15.0] 広端幅(短辺):[6.7] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕、糸切り痕	格子叩き痕（斜格子E）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土板	[凹]5Y4/1灰 [凸]5Y4/1灰	普、4mm以下の長石・7mm以下の赤色粒を含む	良	
86	262	86	DQ12 – 第2層	DQ12 – 第2層	長辺:[15.4] 広端幅(短辺):[11.7] 狭端幅:[11.1] 女瓦厚:3.1	布目痕、調整1度	格子叩き痕（斜格子F）	ケズリ1度	–	布目痕、ナデ	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、5mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良好	
87	263	84	EE14 – 灰色粘質土	KE14 – 灰色粘質土	長辺:[17.0] 広端幅(短辺):[9.1] 狭端幅:– 女瓦厚:2.0	布目痕	格子叩き痕（斜格子F）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]10YR7/2にぶい黄橙 [凸]10YR7/2にぶい黄橙	普、3.5mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
87	264	84	CE48 – 第2層	HE08 – 第2層	長辺:[8.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	ナデ	格子叩き痕（斜格子G）	–	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、3mm以下の長石・6mm以下の砂粒を含む	良好	格子に傷あり
87	265	85	DQ14 – 第2層	DQ14 – 第2層	長辺:[19.5] 広端幅(短辺):[17.1] 狭端幅:– 女瓦厚:2.2	ナデ	格子叩き痕（斜格子G）、ナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、0.5～8mmの長石・赤色粒を含む	良	
87	266	86	JC03 – 第2層	JC03 – 第2層	長辺:[13.1] 広端幅(短辺):[13.5] 狭端幅:– 女瓦厚:2.8	ナデ、指押さえ	格子叩き痕（長格子A）、ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、3mm以下の長石・赤色粒を含む	良好	
87	267	86	ZZ – –	ZZ – –	長辺:[30.5] 広端幅(短辺):[19.2] 狭端幅:– 女瓦厚:2.5	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（長格子A）、ナデ	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5Y8/1灰白	普、4mm以下の長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	
88	268	86	JD00 – 第2層・黒褐色土	JD00 – 第2層・黒褐色土	長辺:33.5 広端幅(短辺):28.4 狭端幅:26.0 女瓦厚:2.1	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（長格子A）、ナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、5mm以下の石英・長石を含む	良好	
89	269	86	JA03 – 第2層	JA03 – 第2層	長辺:32.5 広端幅(短辺):[17.0] 狭端幅:[14.5] 女瓦厚:2.9	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（長格子A）、ナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板桶巻作り	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、4mm以下の長石・2mm以下の砂粒を含む	良好	
88	270	不明	ZZ – –	ZZ – –	長辺:[13.2] 広端幅(短辺):[9.6] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕→ナデ	格子叩き痕（長格子B）	–	ケズリ1度	–	–	[凹]7.5Y8/1灰白 [凸]7.5Y8/1灰白	普、2mm以下の石英・長石を含む	良好	
88	271	86	OR02 – 第2層	OR02 – 第2層	長辺:[7.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:1.4	布目痕	格子叩き痕（長格子C）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5Y8/1灰白	普、3mm以下の長石・砂粒を含む	良	
88	272	85	DQ04 畦 第2層	DQ04 畦 第2層	長辺:[10.2] 広端幅(短辺):[8.5] 狭端幅:[7.5] 女瓦厚:1.9	ナデ	格子叩き痕（長格子C）	ケズリ1度	–	未調整	–	[凹]5Y6/1灰 [凸]5Y6/1灰	普、2mm以下の長石を含む	良好	
88	273	86	OR05 – 第2層灰褐色土	OR05 – 第2層灰褐色土	長辺:[9.3] 広端幅(短辺):[10.0] 狭端幅:– 女瓦厚:1.7	布目痕、ナデ	格子叩き痕（長格子C）	–	ケズリ、布目痕	–	一枚作り	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、1～5mmの長石を含む	良	
89	274	84	CJ48 SD 灰褐色粘質土	HJ08 SD5908・5909 灰褐色粘質土	長辺:[23.0] 広端幅(短辺):[24.5] 狭端幅:23.5 女瓦厚:2.4	布目痕、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（長格子D）	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板	[凹]10YR7/3にぶい黄橙 [凸]10YR7/3にぶい黄橙	普、5mm以下の長石を含む	良好	
90	275	86	EQ00 – 第2層	EQ00 – 第2層	長辺:[21.9] 広端幅(短辺):[21.6] 狭端幅:– 女瓦厚:1.9	布目痕、糸切り痕	格子叩き痕（長格子D）、ナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土板	[凹]10YR8/4浅黄橙 [凸]10YR8/4浅黄橙	普、0.5～3mmの石英・長石を含む	良	
90	276	84	EF13 SD 礫層	KF13 SD5901 礫層	長辺:[13.6] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:2.0	布目痕	格子叩き痕（長格子E）、ナデ	–	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、3mm以下の長石を含む	良好	

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
90	277	84	CG45 – 第3層	HG05 – 第3層	長辺:[14.1] 広端幅(短辺):[13.4] 狭端幅:– 女瓦厚:1.9	ナデ→布目痕、調整1度	糸切り痕、格子叩き痕（長格子F）	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、2mm以下の石英・長石を含む	良	
90	278	84	CG45 – 第3層	HG05 – 第3層	長辺:[11.2] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[11.0] 女瓦厚:2.2	ナデ、糸切り痕、調整1度	格子叩き痕（長格子F）	ケズリ2度	–	ケズリ1度	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、2mm以下の石英・長石を含む	良好	
90	279	86	DO12 瓦溜り –	DO12 SX6141 –	長辺:[13.8] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[15.5] 女瓦厚:2.8	布目痕、ナデ	格子叩き痕（長格子F）、ナデ、調整1度	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、6.5mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	
90	280	84	EH14 SD 黄褐色砂質	KH14 SD5901 黄褐色砂質	長辺:[21.4] 広端幅(短辺):[13.6] 狭端幅:– 女瓦厚:1.9	斜格子目タタキ痕、糸切り痕	格子叩き痕（長格子G）	ケズリ1度	ケズリ	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、4mm以下の石英・長石を含む	良好	
90	281	85	HC17 – 第2層	HC17 – 第2層	長辺:[10.1] 広端幅(短辺):[13.0] 狭端幅:– 女瓦厚:2.4	布目痕、糸切り痕、模骨痕？、調整1度	板ナデ、格子叩き痕（長格子G）	–	ケズリ1度	–	粘土板桶巻作り？	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、3.5mm以下の長石・赤色粒・金雲母？を含む	良好	
91	282	80	1T拡 – 第4層・地山直上	1T拡 – 第4層・地山直上	長辺:[15.5] 広端幅(短辺):[18.3] 狭端幅:– 女瓦厚:1.5	布目痕、布継足し痕	格子叩き痕（長格子H）	未調整	ケズリ1度	–	–	[凹]5Y7/2灰白 [凸]5Y7/2灰白	普、2mm以下の長石を含む	良好	
91	283	85	DP08 – 第3層	DP08 – 第3層	長辺:[5.3] 広端幅(短辺):[9.0] 狭端幅:– 女瓦厚:1.9	布目痕、ナデ	平行叩き痕（平行A）	–	ケズリ1度	–	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、1mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
91	284	84	EJ13 SD 最下層	KJ13 SD5901 最下層	長辺:[10.5] 広端幅(短辺):[13.5] 狭端幅:[13.5] 女瓦厚:2.3	布目痕、模骨痕	平行叩き痕（平行B）、布目痕、粘土板合わせ目痕	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板桶巻作り	[凹]2.5Y6/1黄灰 [凸]2.5Y6/1黄灰	普、5mm以下の石英・2mm以下の長石を含む	良	
91	285	不明	不明	不明 – –	長辺:[17.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[25.0] 女瓦厚:2.4	布目痕、糸切り痕、調整1度	平行叩き痕（平行B）	ケズリ1度	–	ケズリ1度、調整1度	粘土板	[凹]10YR7/2にぶい黄橙 [凸]10YR7/2にぶい黄橙	普、3mm以下の長石を含む	良	
92	286	83	AE15 築地 –	AE15 SA5801 –	長辺:34.0 広端幅(短辺):25.0 狭端幅:[14.0] 女瓦厚:2.7	摩滅	平行叩き痕（平行C）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]10YR8/3浅黄橙 [凸]10YR8/3浅黄橙	粗、3mm以下の長石を含む	不良	
92	287	83	AE15 築地 –	AE15 SA5801 –	長辺:34.8 広端幅(短辺):[15.5] 狭端幅:25.0 女瓦厚:2.3	布目痕、糸切り痕、調整1度	平行叩き痕（平行C）、ナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板作り	[凹]2.5Y7/2灰黄 [凸]2.5Y7/2灰黄	密、0.5～4mmの長石を含む	良	
93	288	不明	不明	不明 – –	長辺:[12.5] 広端幅(短辺):[25.5] 狭端幅:23.5 女瓦厚:2.6	布目痕、糸切り痕、調整1度	平行叩き痕（平行D）	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板一枚作り	[凹]2.5Y7/2灰黄 [凸]2.5Y7/2灰黄	普、4mm以下の長石を含む	良	
93	289	84	CE52 – 3層	HE12 – 3層	長辺:[16.8] 広端幅(短辺):[14.1] 狭端幅:– 女瓦厚:2.0	布目痕、調整1度	平行叩き痕（平行E）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土紐作り	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、2mm以下の長石を含む	良	
93	290	86	CQ09 SK 黄褐色土	CQ09 SK 黄褐色土	長辺:[18.1] 広端幅(短辺):24.4 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕、糸切り痕、調整1度	平行叩き痕（平行E）	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	密、2mm以下の石英・長石を含む	良	
94	291	不明	不明	不明 – –	長辺:33.5 広端幅(短辺):[25.2] 狭端幅:[16.0] 女瓦厚:2.4	布目痕、糸切り痕、ナデ	平行叩き痕（平行F）、ナデ	ケズリ1度、調整1度	ケズリ1度	ケズリ1度	–	[凹]10YR8/3浅黄橙 [凸]2.5Y8/1灰白	普、1～5mmの石英・長石を含む	良	
94	292	83	不明	– – –	長辺:32.5 広端幅(短辺):28.0 狭端幅:[18.5] 女瓦厚:2.4	布目痕、糸切り痕、調整1度	平行叩き痕（平行G）	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板一枚作り	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、5mm以下の長石を含む	良好	
95	293	85	DR05 – –	DR05 – –	長辺:[14.2] 広端幅(短辺):[19.3] 狭端幅:[13.5] 女瓦厚:2.0	糸切り痕、布目痕、調整1度	ナデ、平行叩き痕（平行G）	ケズリ1度	–	ケズリ1度	粘土板	[凹]5Y6/1灰 [凸]5Y6/1灰	普、1～5mmの長石を含む	良	
95	294	86	DO01 – 第2層	DO01 – 第2層	長辺:[8.5] 広端幅(短辺):[7.9] 狭端幅:– 女瓦厚:1.8	布目痕、調整	平行叩き痕（平行H）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	粗、4mm以下の長石を含む	良	
95	295	不明	不明	不明 – –	長辺:34.3 広端幅(短辺):23.3 狭端幅:– 女瓦厚:2.9	布目痕、糸切り痕、調整1度	平行叩き痕（平行H）	ケズリ1度	ケズリ1度	ヘラケズリ	粘土板	[凹]7.5Y8/1灰白 [凸]7.5Y8/1灰白	普、2mm以下の長石を含む	良	
96	296	85	HA19 – 第2層	HA19 – 第2層	長辺:[12.6] 広端幅(短辺):[11.0] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕、粘土紐痕？	平行叩き痕（平行I）	–	–	–	粘土紐作り？	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、1～4mmの石英・長石を含む	良	
96	297	85	JD00 – 黒褐色土	JD00 – 黒褐色土	長辺:[22.0] 広端幅(短辺):[17.7] 狭端幅:[16.0] 女瓦厚:2.3	布目痕、糸切り痕	平行叩き痕（平行I）	ケズリ1度、調整1度	ケズリ1度	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、0.5～2mmの長石を含む	良	灰被り
96	298	85	DQ05 – 第2層	DQ05 – 第2層	長辺:[21.5] 広端幅(短辺):[16.0] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕、糸切り痕、調整1度	平行叩き痕（平行J）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土板作り	[凹]2.5Y6/1黄灰 [凸]2.5Y6/1黄灰	普、4mm以下の長石を含む	良好	
96	299	86	DK13 SK1 暗褐色粘質土	DK13 SK6124 暗褐色粘質土	長辺:[8.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:[9.5] 女瓦厚:2.1	布目痕、ナデ	平行叩き痕（平行L）	ケズリ1度	–	タタラ切り出し未調整	粘土板一枚作り	[凹]7.5Y6/1灰 [凸]7.5Y6/1灰	普、5mm以下の長石を含む	良好	
96	300	86	JD01 – 第2層	JD01 – 第2層	長辺:[23.3] 広端幅(短辺):26.1 狭端幅:– 女瓦厚:2.4	布目痕、糸切り痕、調整1度	平行叩き痕（平行K）	ケズリ1度	–	–	–	[凹]5Y6/1灰 [凸]5Y6/1灰	普、1～3mmの石英・長石を含む	良	
97	301	85	IB05 僧房南雨落溝 –	IB05 SD6002? –	長辺:35.0 広端幅(短辺):24.2 狭端幅:22.3 女瓦厚:2.2	布目痕、指押さえ、調整1度、粘土紐痕？	縄叩き痕（縄縦A）	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土紐作り？	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	
97	302	85	IC02 僧房南雨落溝 –	IC02 SD6002 –	長辺:34.5 広端幅(短辺):26.7 狭端幅:– 女瓦厚:2.3	布目痕、糸切り痕、調整1度	縄叩き痕（縄縦B）	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板作り	[凹]10YR8/1灰白 [凸]10YR8/1灰白	普、1mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	
98	303	85	CQ19 SK 暗褐色土	CQ19 SK6006 暗褐色土	長辺:35.0 広端幅(短辺):[16.0] 狭端幅:21.5 女瓦厚:1.9	布目痕、糸切り痕、ナデ	縄叩き痕（縄縦D）、横方向の粗いナデ	ケズリ1度	ケズリ1度	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	密、1mm以下の石英・長石を含む	良好	
98	304	81	不明	– – –	長辺:35.2 広端幅(短辺):23.7 狭端幅:22.0 女瓦厚:2.3	布目痕、糸切り痕	糸切り痕、縄叩き痕（縄縦E）	ケズリ1度	ヘラケズリ	ナデ	–	[凹]10Y4/1灰 [凸]10Y4/1灰	粗、2mm以下の長石を含む	良	

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
99	305	85	DT01 畔 第2層	DT01 畔 第2層	長辺:[19.6] 広端幅(短辺):- 狭端幅:[24.6] 女瓦厚:2.2	布目痕、ナデ、調整1度	縄叩き痕（縄縦F）、ナデ	布目痕、ケズリ	-	ケズリ	粘土板一枚作り	[凹]7.5Y5/1灰 [凸]7.5Y5/1灰	普、4mm以下の石英・長石を含む	良好	
99	306	83	B03 築地 第5層	B-3 SA5801 第5層	長辺:33.7 広端幅(短辺):[27.0] 狭端幅:[21.3] 女瓦厚:2.0	布目痕、糸切り痕	縄叩き痕（縄縦G）	ケズリ2度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板一枚作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、1～4mmの長石を含む	良	
100	307	85	DQ09 - 第2層	DQ09 - 第2層	長辺:[26.0] 広端幅(短辺):[23.2] 狭端幅:- 女瓦厚:3.1	布目痕、糸切り痕、ヘラ状圧痕	縄叩き痕（縄縦G）	ケズリ1度	ケズリ1度	-	粘土板	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
100	308	86	DQ11 - 第2層	DQ11 - 第2層	長辺:[25.5] 広端幅(短辺):[19.8] 狭端幅:- 女瓦厚:2.4	布目痕、ナデ、糸切り痕	縄叩き痕（縄縦H）	布目痕、ケズリ1度	ケズリ1度	-	粘土板一枚作り	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
101	309	84	EC13 - 最下層	KC13 - 最下層	長辺:31.3 広端幅(短辺):[18.8] 狭端幅:[21.5] 女瓦厚:2.4	布目痕、糸切り痕、調整1度	縄叩き痕（縄縦H）	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板一枚作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、1～6mmの石英・長石を含む	良	
101	310	83	B-3NS 築地 内側瓦列中	B-3 SA5801 内側瓦列中	長辺:33.5 広端幅(短辺):25.5 狭端幅:- 女瓦厚:1.9	コビキA、布目痕	縄叩き痕（縄縦H）	-	-	-	粘土板	[凹]5Y8/1灰白 [凸]-	密、砂粒を少量含む	良好	
102	311	83	B3 築地 第5層	B-3 SA5801 第5層	長辺:32.4 広端幅(短辺):24.4 狭端幅:[15.0] 女瓦厚:2.0	布目痕、糸切り痕、模骨痕、調整1度	縄叩き痕（縄縦I）、指押さえ	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板桶巻作り	[凹]10YR8/2灰白 [凸]10YR8/2灰白	普、6mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	
102	312	85	HB17 炉跡 -	HB17 SX6046 -	長辺:34.5 広端幅(短辺):[16.0] 狭端幅:[6.3] 女瓦厚:2.3	布目痕、糸切り痕	縄叩き痕（縄縦I）	ケズリ1度、調整1度	ケズリ1度	ケズリ1度、布目痕	粘土板一枚作り	[凹]N4/灰 [凸]N4/灰	普、2mm以下の長石を含む	良	
103	313	83	K03 - 第2層	K-3 - 第2層	長辺:[17.5] 広端幅(短辺):[19.6] 狭端幅:- 女瓦厚:2.9	布目痕	縄叩き痕（縄縦I）	布目痕、タタラ切り出し、未調整	布目痕、タタラ切り出し、未調整、バリあり	-	一枚作り	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、4mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	
103	314	85	DS08 - 2層	DS08 - 2層	長辺:[12.7] 広端幅(短辺):[12.5] 狭端幅:- 女瓦厚:2.3	布目痕、調整1度、ヘラ状圧痕？	縄叩き痕（縄縦J）、ナデ	ケズリ1度	模骨痕？、調整1度	-	粘土板桶巻作り	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
103	315	86	DP02 - 第2層	DP02 - 第2層	長辺:34.1 広端幅(短辺):25.5 狭端幅:22.6 女瓦厚:2.7	布目痕、ナデ	縄叩き痕（縄縦J）	ケズリ1度	ナデ、ケズリ1度	粘土板切り出し→未調整	粘土板	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5Y8/1灰白	普、2.5mm以下の石英・長石を含む	良好	
104	316	85	DQ03 - 第3層	DQ03 - 第3層	長辺:36.0 広端幅(短辺):- 狭端幅:24.8 女瓦厚:2.7	布目痕、糸切り痕	縄叩き痕（縄縦K）	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	粘土板	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、4mm以下の長石・黒色粒を含む	良好	
104	317	86	ER01 - 第2層	ER01 - 第2層	長辺:30.2 広端幅(短辺):21.6 狭端幅:- 女瓦厚:1.7	布目痕、調整1度	縄叩き痕（縄縦K）、文字「ー」	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	一枚作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	成形台の痕跡
105	318	85	DT08 - 2層	DT08 - 2層	長辺:[14.4] 広端幅(短辺):- 狭端幅:[18.9] 女瓦厚:2.3	布目痕	縄叩き痕（縄斜A）	布目痕、粘土板切り出し→未調整	-	布目痕	粘土板一枚作り	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、4mm以下の石英・長石を含む	良	
105	319	不明	不明	不明 - -	長辺:[17.8] 広端幅(短辺):[13.4] 狭端幅:- 女瓦厚:2.5	布目痕	縄叩き痕（縄斜B）	布目痕、未調整、バリあり	布目痕	-	粘土板一枚作り	[凹]2.5Y7/2灰黄 [凸]2.5Y7/2灰黄	普、4mm以下の石英・長石を含む	良好	
105	320	不明	不明	不明 - -	長辺:35.4 広端幅(短辺):24.5 狭端幅:- 女瓦厚:2.1	布目痕	縄叩き痕（縄斜B）	布目痕、粘土板分割痕、未調整	布目痕	未調整	粘土板一枚作り	[凹]10YR7/3にぶい黄橙 [凸]10YR7/3にぶい黄橙	普、5mm以下の石英・長石を含む	良好	
106	321	85	CQ14 - 第2層	CQ14 - 第2層	長辺:[16.4] 広端幅(短辺):[14.6] 狭端幅:- 女瓦厚:1.9	布目痕、糸切り痕、調整1度	縄叩き痕（縄斜C）	ケズリ1度	ケズリ1度	-	粘土板	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、2mm以下の長石を含む	良好	
106	322	不明	不明	不明 - -	長辺:[19.9] 広端幅(短辺):- 狭端幅:- 女瓦厚:2.6	布目痕、ナデ	縄叩き痕（縄斜D）	粘土板切り出し→未調整、バリあり	-	-	粘土板一枚作り	[凹]7.5Y8/1灰白 [凸]7.5Y8/1灰白	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
106	323	85	DT01 - 第2層	DT01 - 第2層	長辺:[21.2] 広端幅(短辺):[9.0] 狭端幅:- 女瓦厚:2.0	布目痕	縄叩き痕（縄斜D）	未調整、バリあり	未調整、バリあり	-	粘土板一枚作り	[凹凸]10YR7/3にぶい黄橙	普、5mm以下の石英・長石を含む	良好	
106	324	不明	不明	不明 - -	長辺:20.8 広端幅(短辺):[15.9] 狭端幅:- 女瓦厚:2.5	布目痕	縄叩き痕（縄斜E）	布目痕、ケズリ1度	-	布目痕、ケズリ1度	粘土板一枚作り	[凹]N8/灰白 [凸]N8/灰白	普、5mm以下の石英・長石を含む	良好	
107	325	85	IB03 - 第2層	IB03 - 第2層	長辺:[14.8] 広端幅(短辺):[11.9] 狭端幅:- 女瓦厚:1.6	布目痕	縄叩き痕（縄斜F）	布目痕、タタラ切り出し、未調整	布目痕	-	粘土板一枚作り	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
107	326	85	IB04 - 第2層	IB04 - 第2層	長辺:[10.5] 広端幅(短辺):[9.8] 狭端幅:- 女瓦厚:2.2	布目痕	縄叩き痕（縄斜G）、ナデ	-	布目痕、ナデ	-	一枚作り	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、2mm以下の長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	
107	327	83	J2 - 第4層	J-2 - 第4層	長辺:[12.1] 広端幅(短辺):[11.6] 狭端幅:[7.2] 女瓦厚:[2.1]	布目痕、ヘラ描き	縄縦系縄叩き痕	-	ケズリ1度	-	-	[凹]7.5YR7/3にぶい橙 [凸]7.5YR7/3にぶい橙	普、0.5～4mmの石英・長石を含む	良	
107	328	85	IB07 - 第2層	IB07 - 第2層	長辺:[18.2] 広端幅(短辺):[17.5] 狭端幅:- 女瓦厚:1.7	ナデ、指押さえ、調整1度	糸切り痕	ケズリ1度	ナデ、ケズリ1度	-	不明	[凹]10YR7/1灰白 [凸]10YR7/1灰白	普、3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	
107	329	83	C2 - 第3層	C-2 - 第3層	長辺:[15.8] 広端幅(短辺):[23.0] 狭端幅:- 女瓦厚:2.1	布目痕、糸切り痕、模骨痕、模骨止め痕	ナデ、縄縦系縄叩き痕	ケズリ	ケズリ1度	-	粘土板桶巻作り	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]2.5Y8/2灰白	普、0.5～5mmの石英・長石を含む	良	
107	330	85	HC14 南雨落溝 -	HC14 SD6002 -	長辺:[22.3] 広端幅(短辺):[17.9] 狭端幅:- 女瓦厚:2.2	布目痕、糸切り痕、調整1度	糸切り痕	未調整	-	-	粘土板	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5Y8/1灰白	普、2mm以下の石英・長石・雲母を含む	良	
108	331	86	OR01 瓦溜り -	OR01 SX6143 -	長辺:29.5 広端幅(短辺):- 狭端幅:24.0 女瓦厚:1.7	布目痕、指押さえ、ナデ、調整1度	種子圧痕、朱あり	ケズリ1度	未調整	ケズリ1度	粘土板桶巻作り	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]2.5Y8/2灰白	普、4mm以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	凸面種子軒出5cm

道具瓦　1）鬼瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 外面/凹面	内面/凸面	側面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
109	332	84	CI47 – 第3層	HI07 – 第3層	長幅:[21.8] 短幅:[31.9] 厚さ:7.1	–	ナデ	–	2枚の粘土板使用か？	[凹]灰白色 [凸]–	精良、石英・長石を少量含む	良好	平城宮式
109	333	86	OR04 SD03 茶褐色粘質土	OR04 SD03 茶褐色粘質土	長幅:[29.2] 短幅:[12.5] 厚さ:7.8	–	ナデ	縦方向のナデ（ケズリ）	–	[凹]– [凸]–	やや粗、長石・茶褐色砂粒を多量に含む	良好	平城宮式
109	334	80	– – –	不明 – –	長幅:[27.3] 短幅:[15.0] 厚さ:8.0	–	ナデ	縦方向のナデ	3枚の粘土板使用か？	[凹]灰褐色 [凸]–	やや粗、石英・長石を多量に含む	良好	平城宮式 外縁:貼り付けか？
109	335	86	DQ14 SK25 暗褐色土	DQ14 SK6114 暗褐色土	長幅:[19.4] 短幅:[12.4] 厚さ:–	ナデ、ハクリ	–	–	–	[凹]10YR8/2灰白 [凸]10YR8/2灰白	密、0.5～2mmの石英・長石を含む	良	平城宮式 穿孔あり
109	336	84	CE46 – 第3層	HE06 – 第3層	長幅:[14.4] 短幅:[10.3] 厚さ:[7.4]	ナデ	–	ナデ	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	密、0.3～2mmの石英・長石を含む	良	平城宮式 接合痕あり
109	337	91	WA10 南限大溝 第2層茶褐色粘質土	WA10 SD3010 第2層茶褐色粘質土	長幅:[25.1] 短幅:[11.5] 厚さ:[7.2]	–	–	ナデ、ヘラケズリ	–	[凹]2.5Y6/1黄灰 [凸]2.5Y6/1黄灰	普、0.5～3mmの石英・長石を含む	良	平城宮式 接合痕あり
109	338	86	OR04 – 第3層	OR04 – 第3層	長幅:[22.5] 短幅:[14.2] 厚さ:[6.0]	ケズリ1度、ナデ	ナデ、工具痕あり	ナデ	–	[凹]10YR8/3浅黄橙 [凸]10YR8/3浅黄橙	普、3mm以下の砂粒を含む	良	平城宮式 接合痕あり
109	339	不明	不明	不明 – –	長幅:[12.6] 短幅:[9.6] 厚さ:[4.1]	ナデ	ナデ	ナデ	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、4mm以下の砂粒を含む	良好	接合痕あり
110	340	86	DM09 – 黒褐色土	DM09 – 黒褐色土	長幅:[10.5] 短幅:[10.0] 厚さ:[5.7]	ナデ	–	–	–	[外]N5/灰 [胎土]2.5Y8/2灰白	普、2mm以下の白色砂粒を含む	良好	
110	341	85	IC00 – 第2層	IC00 – 第2層	長幅:[16.4] 短幅:[14.5] 厚さ:6.85	ハケ、ケズリ	ハケ、ナデ	–	–	[外]7.5Y6/1灰 [内]–	密、1mm程度の白色砂粒・赤色粒を含む	良	未貫通の円孔1ケ
110	342	85	IB02 – 第2層	IB02 – 第2層	長幅:[16.2] 短幅:15.4 厚さ:5.7	指ナデ、板ナデ、工具痕、摩滅	ハクリ	ケズリ	–	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5Y8/1灰白	普、1mm以下の長石・赤色粒を含む	良好	
110	343	不明	– – –	不明 – –	長幅:– 短幅:– 厚さ:[4.0]	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	–	–	[外]N5/灰 [内]–	普、3mm以下の白色砂粒・赤色粒、9mm以下の礫を含む	良	
110	344	85	IB06 – 第2層	IB06 – 第2層	長幅:[17.5] 短幅:[12.1] 厚さ:4.3	ケズリ	指ナデ、ナデ	–	–	[外]N6/灰 [内]–	やや密、1～5mm程度の白色砂粒を含む	良	
110	345	85	DT00 – 第2層	DT00 – 第2層	長幅:[32.5] 短幅:[18.9] 厚さ:[5.4]	糸切り痕	–	–	–	[外]N4/灰 [内]–	やや密、1～2mm程度の白色砂粒を含む	良	
110	346	85	IB03 – 第2層	IB03 – 第2層	長幅:[15.8] 短幅:[9.15] 厚さ:[3.65]	ナデ	–	–	–	[外]N4/ 灰～2.5Y8/1灰白 [内]–	密、1mm程度の白色砂粒・赤色粒を含む	良	
111	347	85	HB15 SK 灰色粘土	HB15 SK6011 灰色粘土	長幅:[16.2] 短幅:[9.4] 厚さ:5.2	–	粗いナデ	–	–	[外]N5/灰 [内]–	普	良好	
111	348	不明	– – –	不明 – –	長幅:[17.5] 短幅:– 厚さ:[4.8]	–	–	–	–	[外]N6/灰 [内]–	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良	
111	349	85	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	長幅:[11.0] 短幅:– 厚さ:[7.4]	ナデ	ナデ	–	–	[外]N6/灰 [内]–	普、1mm以下の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良	
111	350	85	IB06 – 第2層	IB06 – 第2層	長幅:[12.1] 短幅:[11.7] 厚さ:–	ナデ	ナデ	–	–	[外]N6/灰 [内]–	密、1～2mm程度の白色砂粒・赤色粒を含む	良	
111	351	85	IB03 – 第2層	IB03 – 第2層	長幅:8.5 短幅:11.5 厚さ:4.5	ナデ	ナデ	–	–	[外]N5/灰 [内]–	普、3mm以下の白色砂粒を含む	良	
111	352	不明	– – –	不明 – –	長幅:[12.8] 短幅:[9.6] 厚さ:–	ケズリ、穴	ケズリ	–	–	[外]N7/灰白 [内]–	やや密、0.5～1mm以下の白色砂粒を含む	良	
111	353	85	CR16 – 第2層	CR16 – 第2層	長幅:[13.45] 短幅:[11.1] 厚さ:[5.2]	ナデ、ケズリ	ナデ	–	–	[外]N5/灰 [内]N5/灰	密、2mm以下の白色砂粒を含む	良	
111	354	84	CE52 – 第2層	HE12 – 第2層	長幅:[10.3] 短幅:[10.8] 厚さ:[4.5]	ハクリ	ナデ	ナデ	–	[凹]5Y8/1灰白 [凸]5Y8/1灰白	普、5mm以下の長石・赤色粒を含む	良好	

2）熨斗瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
112	355	84	CE53 – 第2層	HE13 – 第2層	長辺:[8.2] 広端幅(短辺):[12.5] 狭端幅:– 瓦厚:[2.5]	布目痕	縄叩き痕	ケズリ1度	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、5mm以下の砂粒を含む	良好	
112	356	85	DT08 – 第2層	DT08 – 第2層	長辺:[15.6] 広端幅(短辺):[10.4] 狭端幅:– 瓦厚:1.7	布目痕、模骨痕	縄叩き痕、ナデ	ケズリ	ケズリ1度	–	桶巻作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、0.5～2mmの長石を含む	良	
112	357	85	HB13 SE中 –	HB13 SE6019 –	長辺:[18.0] 広端幅(短辺):14.5 狭端幅:12.5 瓦厚:2.5	布目痕、糸切り痕、調整1度、粘土板合わせ目痕	縄叩き痕（縄縦B）	ケズリ1度	ケズリ1度	–	粘土板桶巻作り	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、3mm以下の長石を含む	良好	
112	358	91	WA11 – 第2層	WA11 – 第2層	長辺:[24.2] 広端幅(短辺):11.5 狭端幅:– 瓦厚:1.6	布目痕、糸切り痕	格子叩き痕(正格子B)	ケズリ1度	–	–	粘土板桶巻作り？	[凹]2.5Y8/1灰白 [凸]2.5Y8/1灰白	普、6mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	

3）隅木蓋瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
112	359	84	CG46 – 第3層	HG06 – 第3層	長辺:[17.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦厚:4.7	縦方向のナデ	縦方向のナデ、横方向の粗いナデ	ケズリ1度	–	–	成形型	[凹]N6/灰 [凸]N5/灰	普、2mm以下の石英・長石・赤色粒・白色粒を含む	良好	
112	360	85	IB05 僧房南雨落溝 –	IB05 SD6002? –	長辺:[18.5] 広端幅(短辺):[10.5] 狭端幅:– 瓦厚:3.1	布目痕	ナデ、斜格子叩き痕	ケズリ	ケズリ1度、調整1度	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N4/灰	普、0.5～4mmの長石を含む	良	

4）面戸瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
113	361	86	NJ18 回廊北雨落溝 –	NJ18 SD6132 –	長辺:[14.9] 広端幅(短辺):[9.5] 狭端幅:– 瓦厚:[1.1]	布目痕、灰被り	縄縦系縄叩き痕、灰被り	ケズリ	ケズリ1度、調整1度	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、1～6mmの石英・長石を含む	良	
113	362	86	JK03 – 黒褐色土	JK03 – 黒褐色土	長辺:[16.0] 広端幅(短辺):11.0 狭端幅:– 瓦厚:1.4	布目痕、布がかり痕	ナデ、調整1度	ケズリ1度	ケズリ1度	–	[凹]灰 [凸]灰	密、2mm以下の白色粒を含む	良	
113	363	86	NJ18 回廊北雨落溝 –	NJ18 SD6132 –	長辺:[20.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦厚:1.2	布目痕、調整1度	ナデ、調整1度	ケズリ1度	ケズリ1度	ケズリ1度	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、6mm以下の長石を含む	良好	

5）雁振瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
113	364	85	IA07 – 第2層	IA07 – 第2層	長辺:[13.5] 広端幅(短辺):[22.1] 狭端幅:[6.0] 瓦厚:2.3	布目痕、ナデ	ナデ、縄叩き痕	ケズリ	ケズリ1度、調整1度	ケズリ	[凹]7.5Y7/1灰白 [凸]7.5Y7/1灰白	普、0.4～4mmの長石・赤色粒を含む	良	
113	365	84	CH53 – 第2層	HH13 – 第2層	長辺:[17.7] 広端幅(短辺):[14.8] 狭端幅:[11.7] 瓦厚:2.6	糸切り痕、調整2度	縄叩き痕のち横方向のナデ	ケズリ1度	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、6mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良好	

6）鳥衾瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	形式	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
114	366	83	BG13 – 礫層	AG13 – 礫層		長辺:[7.0] 広端幅(短辺):[9.5] 狭端幅:– 瓦当径:– 瓦当厚:6.7 男瓦厚:–	ナデ	多方向のケズリ?	–	–	–	–	[凹]7.5Y6/1灰 [凸]–	普、4mm以下の白色砂粒を含む	良	瓦当文様:蓮華文、花弁8葉、蓮子1+8
114	367	86	OR00 SD01 最下層	OR00 SD6136 最下層	SKM02L	長辺:[13.5] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:23.8 瓦当厚:5.1 男瓦厚:–	–	–	–	–	–	一本作り	[凹]– [凸]–	やや粗、石英・長石を多量に含む	良好	
114	368	83	HA15 SF 直上	AH15 SA5801 直上	SKM03L	長辺:– 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 瓦当径:23.0 瓦当厚:5.5 男瓦厚:–	–	瓦当裏:ナデ	–	–	–	接合式	[凹]灰黄 [凸]灰黄	緻密、2mm以下の白色粒を含む	良	

7）隅切瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	形式	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
115	369	86	DQ14 – 第2層	DQ14 – 第2層	SKH01C	長辺:[16.8] 広端幅(短辺):[17.2] 狭端幅:– 瓦当径:[17.0] 瓦当厚:[5.8] 女瓦厚:[4.3]	ナデ、ケズリ1度	粗いナデ	ケズリ2度	ケズリ1度	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、2mm以下の石英・長石を含む	良	
115	370	85	DQ08 SK 暗褐色土	DQ08 SK6009 暗褐色土	SKH01A	長辺:[12.1] 広端幅(短辺):[13.3] 狭端幅:– 瓦当径:[8.5] 瓦当厚:[5.3] 女瓦厚:[5.0]	糸切り痕	ナデ	–	–	–	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、1～5mmの石英・長石を含む	良	
115	371	86	NJ18 回廊北雨落溝 –	NJ18 SD6132 –		長辺:[18.0] 広端幅(短辺):[17.9] 狭端幅:– 女瓦厚:2.3	布目痕、布かがり痕、粘土板合わせ目痕	縄叩き痕（縄縦C）、ナデ、灰被り	ケズリ1度、灰被り	–	調整1度、ケズリ1度	粘土板桶巻作り	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、4mm以下の石英・長石・黒色粒を含む	良好	
115	372	85	HC18 – 第2層	HC18 – 第2層	SKH03	長辺:[18.5] 広端幅(短辺):26.0 狭端幅:– 瓦当径:[25.0] 瓦当厚:6.0 女瓦厚:3.6	布目痕、ナデ	ナデ	ケズリ1度	–	–	–	[凹]灰 [凸]灰	密、2mm以下の白色粒・黒色粒を含む	良	

塼

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	タイプ	法量(cm)	手法の特徴 上面	下面	側面	端面	技法・素地	色調	胎土	焼成	気づいたこと
116	373	不明	– – –	– – –	台形	長幅:38.8 短幅:17.2～22.8 厚さ:13.5	丁寧なナデ調整	粗い筋状痕	丁寧なナデ調整/縦方向の粗い筋状（ハケメ）痕	丁寧なナデ調整	4.5～5cm程の粘土塊を合わせて製作	[外]7.5YR8/4浅黄橙	普、1～2mm程度の白色砂粒・赤褐色砂粒を含む	やや軟	小口面調整 穿孔2ヶ(未貫通)
116	374	不明	ZZ – –	ZZ – –	—	長幅:[10.0] 短幅:[12.1] 厚さ:[5.2]	縦方向のナデ	接合部:糸切り痕	縦方向のナデ	–	–	[外]N6/灰 [胎土]N6/灰	普、1mm以下の白色砂粒を多量に含む	良好	糸切り痕
117	375	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[31.3] 短幅:27.2 厚さ:13.8	縦方向のナデ	未調整	ナデ	ナデ	–	[外]N8/灰白	普、1mm以下の白色砂粒・茶色砂粒を含む	やや軟	調整
117	376	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[19.7] 短幅:[14.4] 厚さ:12.0	縦方向のナデ	未調整？	ナデ	ヘラ描き	–	[外]7.5Y8/1灰白	普、白色粒・赤茶色粒を含む	良	表面黒色化 側面文字「]ろ石ノ心」？
118	377	84	EF13 SD01 –	KF13 SD5901 –	方形	長幅:41.5 短幅:26.0 厚さ:13.5	丁寧なナデ調整	未調整	ナデ	ナデ、ヘラ描き	–	[外]N5/灰 [胎土]5YR7/3にぶい橙	普、3mm以下の白色砂粒を含む	良好	
118	378	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[37.0] 短幅:26.0 厚さ:12.7	縦方向のナデ	未調整	ナデ	ナデ、ヘラ描き	–	[外]10YR7/2にぶい黄橙	普、3mm以下の白色砂粒を含む	良	側面文字「山■」？○
118	379	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[30.0] 短幅:25.2 厚さ:11.5	縦方向のナデ	未調整	ナデ	ヘラ描き	–	[外]10YR7/2にぶい黄橙	普、2mm以下の白色砂粒を含む	良	側面文字「一千」葉脈 柱痕？
118	380	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[19.5] 短幅:25.5 厚さ:12.0	ナデ	未調整、工具痕	未調整	ヘラ描き	–	[外]2.5Y7/1灰白	普、5mm以下の白色砂粒・茶色砂粒・黒色砂粒を含む	良	側面文字「水」？
118	381	85	DT07 – 第2層	DT07 – 第2層	—	長幅:[9.0] 短幅:12.3 厚さ:[5.8]	粗い布目痕	–	–	ナデ	–	[外]7.5YR7/2明褐灰	普、4mm以下の白色砂粒・赤色砂粒を含む	良	布目痕？ 唐居敷？
118	382	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[19.0] 短幅:[8.0] 厚さ:13.6	ナデ	粗い筋状痕	未調整	ヘラ描き	–	[外]N5/灰	普、5mm以下の白色砂粒・赤色砂粒を含む	良	側面文字「キ」
118	383	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[15.5] 短幅:[16.0] 厚さ:12.5	ナデ、ヘラ描き	未調整	ナデ	未調整	–	[外]2.5Y7/1灰白	普、2mm以下の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良	上面黒色化 ヘラ記号
118	384	不明	– 僧房掘方 –	– 僧房掘方 –	方形	長幅:[16.5] 短幅:12.0 厚さ:[9.5]	縦方向のナデ	–	未調整	ナデ	–	[外]10YR7/1灰白	普、5mm以下の白色砂粒・赤色砂粒・黒色砂粒を含む	やや軟	側面黒色化 調整
118	385	85	DR03 – 第2層	DR03 – 第2層	方形	長幅:[18.5] 短幅:[13.0] 厚さ:13.0	縦方向のナデ	未調整	–	ヘラ描き	–	[外]2.5Y7/1灰白	普、2mm以下の白色砂粒・黒色砂粒を含む	やや軟	側面文字「一キ」？
118	386	85	DS04 – 第2層	DS04 – 第2層	台形	長幅:[6.0] 短幅:[9.0] 厚さ:[12.6]	丁寧なナデ調整	–	ナデ	粗いハケ状板ナデ	–	[外]10YR7/2にぶい黄橙	普、5mm以下の白色砂粒・赤色砂粒・黒色砂粒を含む	やや軟	調整
118	387	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[14.5] 短幅:[12.8] 厚さ:13.2	縦方向のナデ	ナデ	板ナデ	板ナデ	–	[外]N7/灰白	普、2mm以下の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良	調整
118	388	85	CR17 – 第2層	CR17 – 第2層	台形	長幅:[10.5] 短幅:[8.0] 厚さ:[5.5]	ナデ、指頭圧	–	ナデ	ヘラ描き	–	[外]N6/灰	普、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	文字？
118	389	不明	ZZ – –	ZZ – –	台形	長幅:[14.0] 短幅:[10.5] 厚さ:[8.0]	縦方向のナデ	接合部:糸切り痕	丁寧なナデ調整	粗いハケ状板ナデ	–	[外]N7/灰白	普、2mm以下の白色砂粒を含む	良好	
119	390	84	EF13 SD01 –	KF13 SD5901 –	方形	長幅:41.3 短幅:27.9 厚さ:12.5	ナデ	未調整	丁寧なナデ調整	粗い板ナデもしくは刷毛状になった板状工具による調整痕	–	[外]7.5YR8/2灰白	普、1～2mm程度の白色砂粒・茶色砂粒を多量に含む	やや軟	側面文字「一キ」？
写真のみ	参考1	不明	– – –	– – –	台形	長幅:[23.5] 短幅:[17.5～18.4] 厚さ:[8.3]	縦方向の板ナデ	–	ナデ/–	ナデ	–	[外]N6/灰	普、2mm以下の白色砂粒を含む	良好	製作技法観察のみ
写真のみ	参考2	85	DR05 僧房雨落溝 –	DR05 僧房雨落溝 –	台形	長幅:[26.2] 短幅:[17.0～18.0] 厚さ:[7.0]	縦方向のナデ	–	丁寧なナデ調整	ナデ	–	[外]N6/灰	普、2mm以下の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良好	製作技法観察のみ
写真のみ	参考3	不明	– – –	– – –	方形	長幅:[23.0] 短幅:[15.5] 厚さ:13.0	ナデ	未調整	未調整	未調整	–	[外]7.5Y7/1灰白	普、2mm以下の白色砂粒を含む	良好	製作技法観察のみ
写真のみ	参考4	不明	– – –	– – –	台形	長幅:[12.0] 短幅:[15.5] 厚さ:[9.3]	縦方向のナデ	–	丁寧なナデ調整	粗いハケ状板ナデ	–	[外]N5/灰	普、2mm以下の白色砂粒・黒色砂粒を含む	良好	製作技法観察のみ
写真のみ	参考5	不明	– – –	– – –	台形	長幅:[28.0] 短幅:[19.2～23.8] 厚さ:[10.5]	ナデ	–	–/未調整	ナデ	–	[外]7.5YR7/2明褐灰	普、5mm以下の白色砂粒・赤色砂粒を含む	良	製作技法観察のみ
写真のみ	参考6	不明	– – –	– – –	台形	長幅:37.0 短幅:17.0～22.0 厚さ:13.3	丁寧なナデ調整	ナデ	丁寧なナデ調整/未調整、ヘラ描き	ナデ	–	[外]5Y7/1灰白	普、2mm以下の白色砂粒・茶色砂粒を含む	良好	製作技法観察のみ
写真のみ	参考7	85	DS03 – 第2層	DS03 – 第2層	—	長幅:[14.5] 短幅:[14.0] 厚さ:5.2	布目痕、縦方向のナデ	未調整	ナデ	–	–	[外]N7/灰白	普、2mm以下の白色砂粒・黒色砂粒・赤色砂粒を含む	良好	

文字瓦

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	形式	法量(cm)	手法の特徴 凹面	凸面	側面	広端面	狭端面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
120	391	86	OR01 瓦溜り溝 –	OR01 瓦溜り溝 –	SKH05A	長辺:[17.2] 広端幅(短辺):[16.2] 狭端幅:– 瓦当径:[14.1] 瓦当厚:[5.4] 女瓦厚:3.0	布目痕、文字「イ大瓦」	ナデ	ケズリ1度	–	–	[凹]2.5Y8/2灰白 [凸]2.5Y8/2灰白	やや粗、2mm以下の白色粒・赤色粒を含む	良	文字は異体字。顎貼り付け
120	392	84	EJ13 SD 最下層	KJ13 SD5901 最下層		長辺:[8.8] 広端幅(短辺):[9.6] 狭端幅:[6.4] 女瓦厚:1.8	布目痕、ナデ	叩き痕、文字「]■■[」	未調整	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、0.5～2mmの長石・赤色粒を含む	良	
120	393	85	DS06 – 第2層	DS06 – 第2層		長辺:[6.0] 広端幅(短辺):– 狭端幅:– 女瓦厚:1.5	ナデ	ナデ、文字「≠」	ケズリ1度	–	–	[凹]7.5YR8/4浅黄橙 [凸]7.5YR8/4浅黄橙	普、2mm以下の砂粒を含む	良	
120	394	85	IB04 南北畦 第2層下層	IB04 南北畦 第2層下層		長辺:[7.0] 広端幅(短辺):[8.8] 狭端幅:[3.8] 女瓦厚:[2.1]	ナデ	格子叩き痕（斜格子Ａ）、ヘラ描き、文字「一」	ケズリ	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、1～3mmの長石を含む	良好	
120	395	85	IA06 – 第2層	IA06 – 第2層		長辺:[18.0] 広端幅(短辺):[10.6] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕、模骨痕	ナデ、縄縦系縄叩き痕、文字「一」	ケズリ	ケズリ1度	–	[凹]5Y7/1灰白 [凸]5Y7/1灰白	普、0.5～4mmの石英・長石・赤色粒を含む	良	
120	396	85	IC02 – 第2層	IC02 – 第2層		長辺:[14.2] 広端幅(短辺):[11.1] 狭端幅:– 女瓦厚:1.6	ナデ	粗いナデ、墨書文字「×」	ケズリ	ケズリ1度、調整1度	–	[凹]N7/灰白 [凸]N7/灰白	普、1～3mmの長石を含む	良	凸面に墨書文字
120	397	86	DO12 瓦溜り –	DO12 SX6141 –		長辺:[11.6] 広端幅(短辺):[12.0] 狭端幅:– 女瓦厚:2.1	布目痕、ナデ	縄叩き痕、ナデ、指押さえ、「]十歳」	–	–	–	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、4mm以下の長石・赤色粒・黒色粒を含む	良好	刻字「]十歳」
120	398	85	CR10 – 第2層	CR10 – 第2層		長辺:[16.0] 広端幅(短辺):[9.7] 狭端幅:– 男瓦厚:[2.6]	布目痕	ナデ、ケズリ、「]大■」	–	–	–	[凹]N5/灰 [凸]N5/灰	普、0.5～5mmの長石を含む	良	刻字「大■」

その他の瓦塼類

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	法量(cm)	手法の特徴 外面/凹面	内面/凸面	側面	色調	胎土	焼成	気づいたこと
121	399	85	DT01 – 第2層	DT01 – 第2層	長辺:[10.9] 広端幅(短辺):[11.3] 狭端幅:– 男(女)瓦厚:4.0	ナデ	ナデ	ナデ	[凹]2.5Y7/1灰白 [凸]2.5Y7/1灰白	普、3mm以下の長石・赤色粒を含む	良好	
121	400	85	DT07 – 第2層	DT07 – 第2層	長辺:[18.8] 広端幅(短辺):[12.0] 狭端幅:– 男(女)瓦厚:5.0	指ナデ、ヘラ記号	ケズリ、指ナデ	–	[凹]N6/灰 [凸]N6/灰	普、3mm以下の石英・長石を含む	良好	
121	401	85	CR16 – 第2層	CR16 – 第2層	長辺:[9.9] 広端幅(短辺):9.6 狭端幅:– 男(女)瓦厚:[3.3]	キラコ	ナデ	ナデ	[凹]N4/灰 [凸]N5/灰	普、1mm以下の石英・長石を含む	良好	棟飾瓦

石製品

挿図番号	報告書番号	次	（整理前）取り上げ位置	（整理後）取り上げ位置	器種	法量(cm)	手法の特徴	石材	気づいたこと
121	402	不明	– – –	– – –	唐居敷座？	長幅:[21.4] 短幅:[16.1] 厚さ:12.5		凝灰岩　角閃石・白色砂粒・黒色砂粒を多量に含む	煤付着
121	403	不明	– – –	– – –	塼	長幅:[29.1] 短幅:[21.5] 厚さ:16.0	恐らく全面加工	凝灰岩	製作技法観察のみ、本来の形状か不明

写 真 図 版

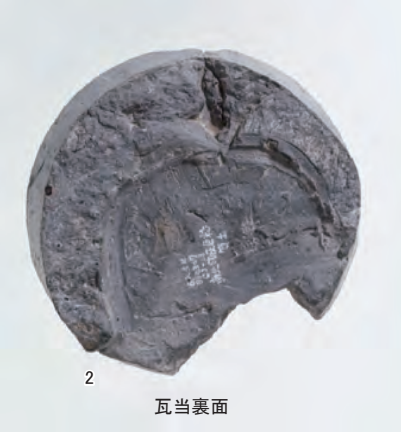
1　特別史跡讃岐国分寺跡出土軒瓦

2　特別史跡讃岐国分寺跡出土塼

一本作り 2

一本作り 3

接合式 4

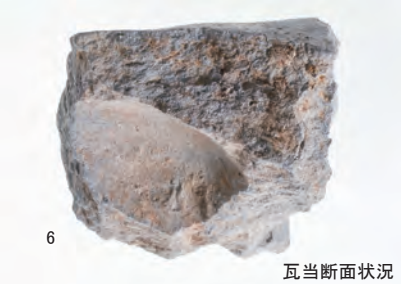

2 瓦当裏面

3

4

3－1　鐙瓦 SKM01

5 瓦当断面状況①


6 瓦当断面状況

1 接合部状況

3－2　鐙瓦 SKM02A

11

10 粘土積み上げ状況

3－3　鐙瓦 SKM03A

4－1　鐙瓦 SKM04

4－2　鐙瓦 SKM05

4－3　鐙瓦 SKM06

4－5　鐙瓦 SKM08

4－4　鐙瓦 SKM07

4－6　鐙瓦 SKM09

4－7　鐙瓦 SKM10A

4－8　鐙瓦 SKM11

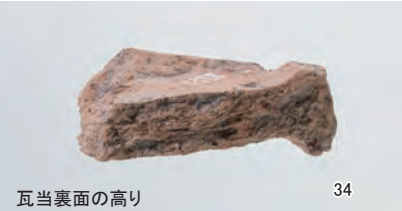
5－1　鐙瓦 SKM12

5－2　鐙瓦 SKM13

5－3　鐙瓦 SKM14

5－4　鐙瓦 SKM15

5－5　鐙瓦 SKM16



5－6　鐙瓦 SKM17

5－7　鐙瓦 SKM18

5－8　鐙瓦 SKM19

5－10　鐙瓦 SKM21A

5－11　鐙瓦 SKM21R

5－9　鐙瓦 SKM20

6－1　鐙瓦 SKM22

6－2　鐙瓦 SKM23

6－3　鐙瓦 SKM24A

6－4　鐙瓦 SKM24B

6－5　鐙瓦 SKM25

6－6　鐙瓦 SKM27

6－7　鐙瓦 SKM28

6－8　鐙瓦 SKM29

6－9　鐙瓦 SKM30

6－10　鐙瓦 SKM31

6－11　鐙瓦 SKM32

6－12　鐙瓦 SKM33

6－13　鐙瓦 SKM34

7－1　鐙瓦 SKM35

7－2　鐙瓦 SKM36　　7－3　鐙瓦 SKM37　　7－4　鐙瓦 SKM38　　7－5　鐙瓦 SKM39

7－6　鐙瓦 SKM40　　7－7　鐙瓦 SKM41　　7－8　鐙瓦 SKM48　　7－9　鐙瓦 SKM49

7－10　鐙瓦 凹面

7－11　鐙瓦 凸面

男瓦凹面

男瓦凸面

KB103B

SKM07

8　府中・山内瓦窯跡出土（高松市歴史資料館所蔵）

81

77
ハケ

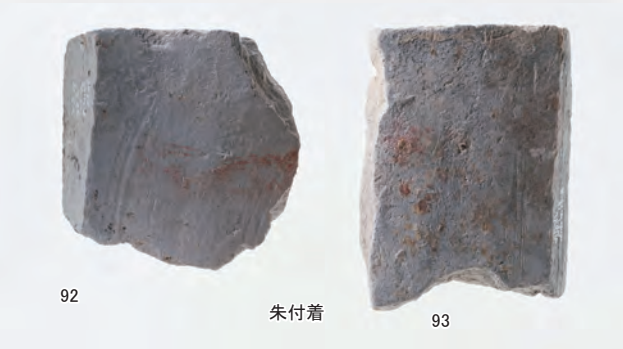
粘土紐？
78

9－1　宇瓦 SKH01A

81 彫り直し前

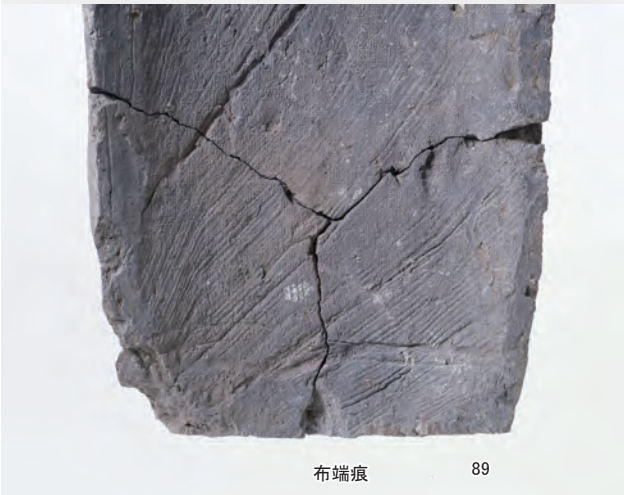
82 彫り直し後

96

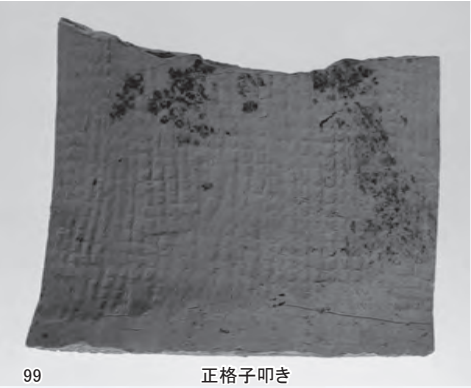

92
朱付着
93

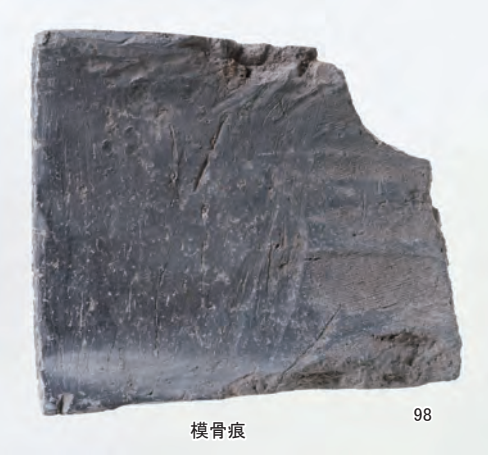
9－3　宇瓦 SKH01C

86


布端痕
89

9－2　宇瓦 SKH01B





10－1　宇瓦 SKH01C

10－2　宇瓦 SKH01D

10－3　宇瓦 SKH02

10－4　宇瓦 SKH03

10－5　宇瓦 SKH04

10－6　宇瓦 SKH05A

10－7　宇瓦 SKH05B

11－2　宇瓦 SKH07

11－1　宇瓦 SKH06

11－3　宇瓦 SKH08

11－4　宇瓦 SKH09

11－5　宇瓦 SKH10

11－6　宇瓦 SKH11A

11－7　宇瓦 SKH12

11－8　宇瓦 SKH13

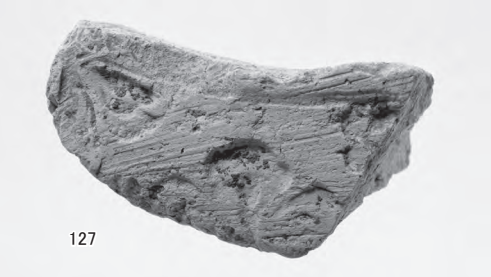
11－9　宇瓦 SKH15

12－1　宇瓦 SKH16

12－2　宇瓦 SKH17

12－3　宇瓦 SKH18

12－4　宇瓦 SKH19



12－5　宇瓦 SKH20

12－6　宇瓦 SKH21

12－7　宇瓦 SKH22

12－8　宇瓦 SKH23

12－9　宇瓦 SKH24

12－10　宇瓦 SKH25

12－11　宇瓦 SKH26

12－12　宇瓦 SKH27

12－13　宇瓦 SKH30

13－1　宇瓦 SKH33

13－2　宇瓦 SKH35

13－3　宇瓦 SKH38

13－4　宇瓦 SKH39

13－6　宇瓦 SKH41

13－5　宇瓦 SKH40

13－7　宇瓦 SKH42

13－8　宇瓦 SKH43

13－9　宇瓦 SKH44

13－10　宇瓦 SKH45

13－11　宇瓦 SKH47

13－13　宇瓦 SKH55

13－12　宇瓦 SKH48

14－1　正格子A

14－2　正格子B

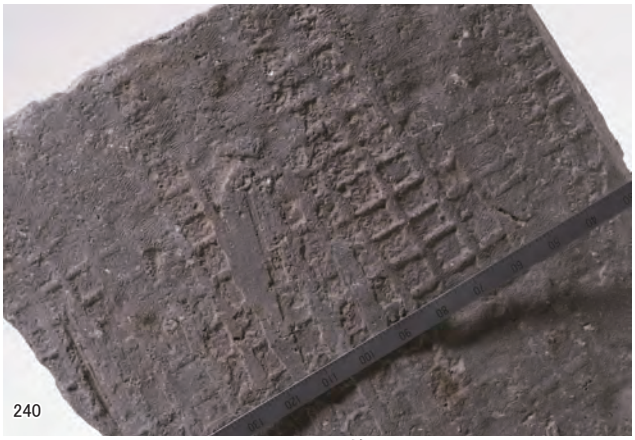
14－3　正格子B

14－4　正格子C

14－5　正格子D

14－6　正格子E

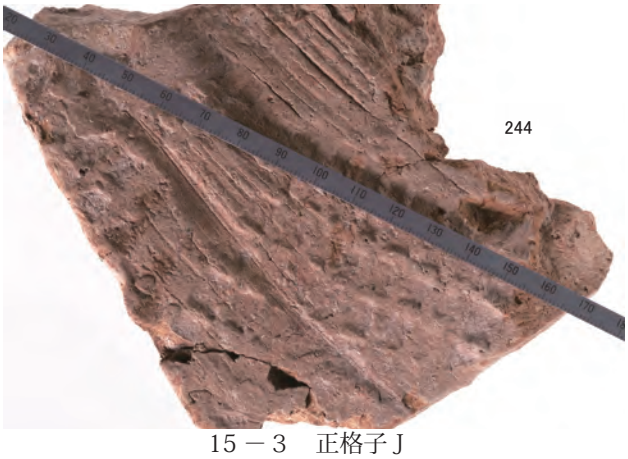
14－7　正格子F



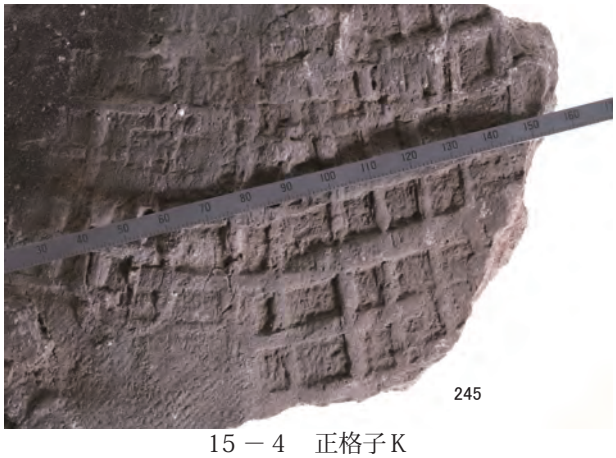
14－8　正格子G

15－1　正格子H

15－2　正格子I



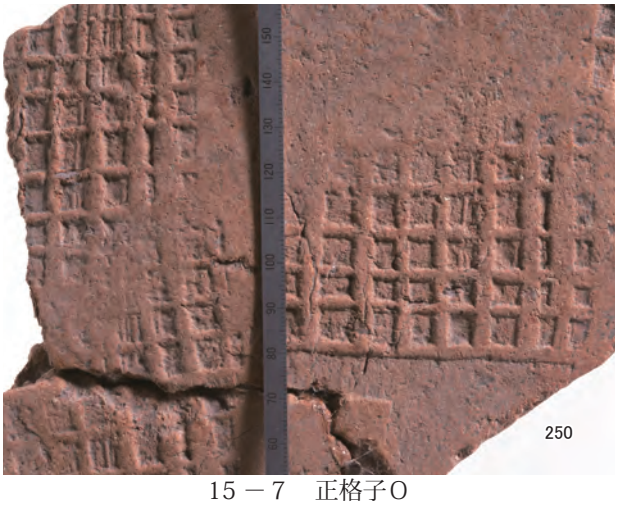
15－3　正格子J



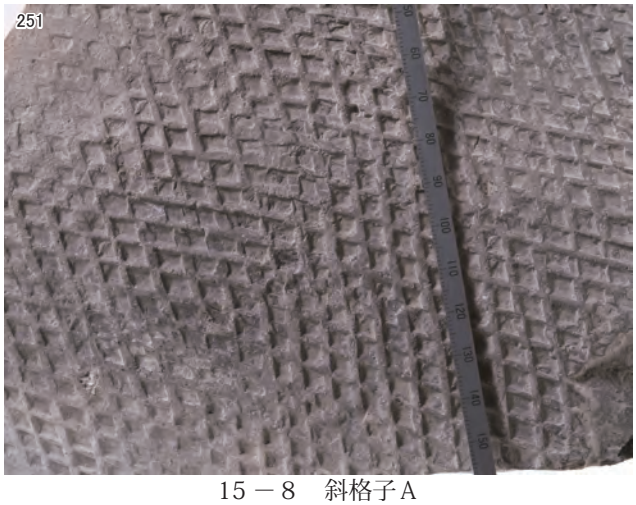
15－4　正格子K

15－5　正格子M

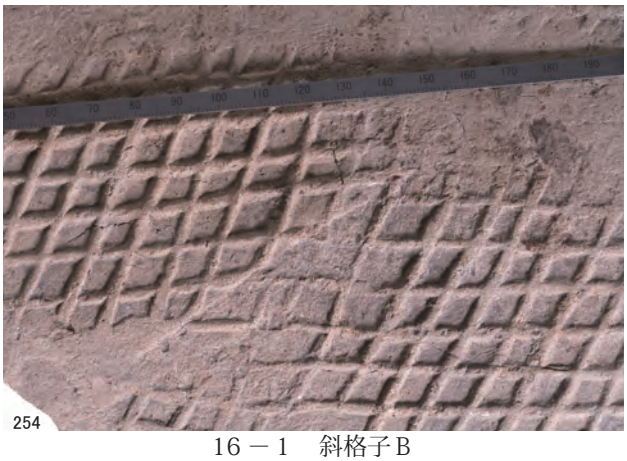
15－6　正格子N



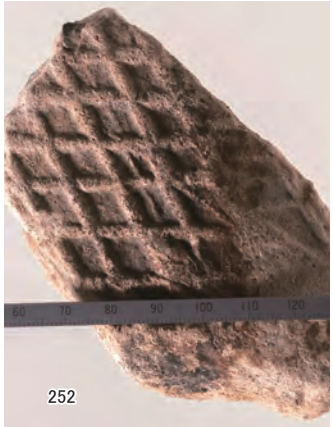
15－7　正格子O



15－8　斜格子A



16－1　斜格子B



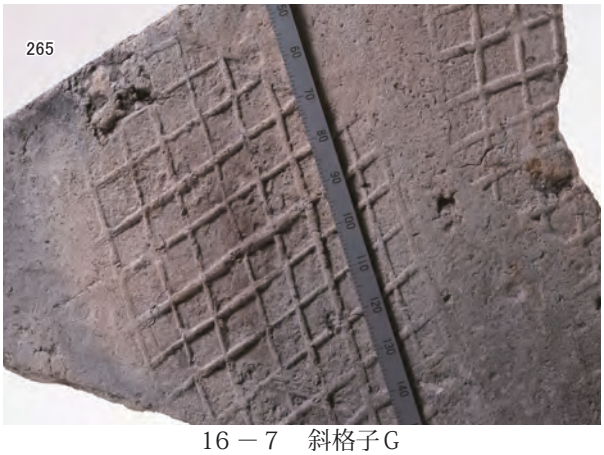
16－2　斜格子B　傷あり

16－3　斜格子C

16－4　斜格子D

16－5　斜格子E

16－6　斜格子F



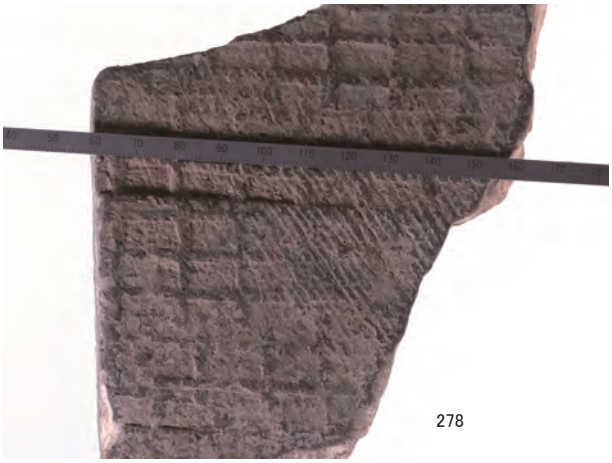
16－7　斜格子G

16－8　長格子A

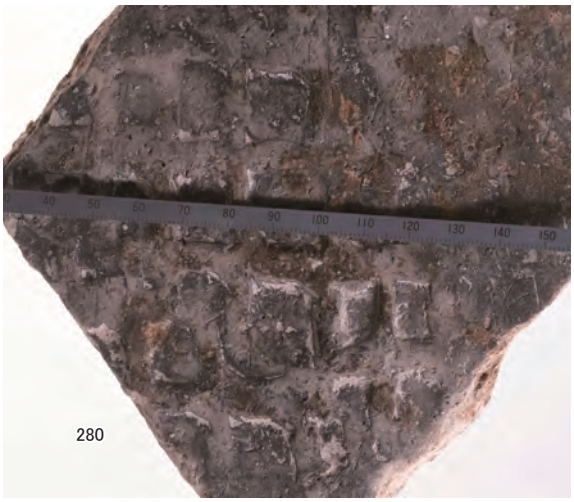
17－1　長格子B

17－2　長格子D

17－3　長格子E

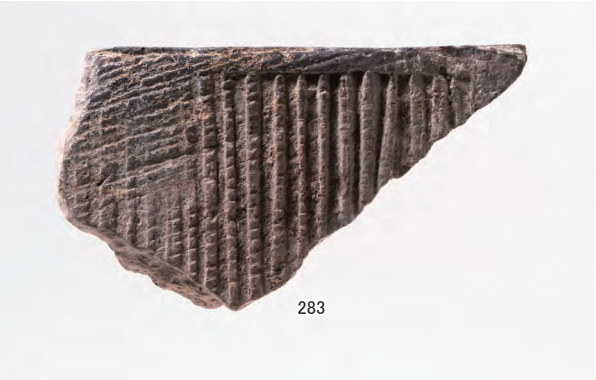


17－4　長格子F



17－5　長格子G

17－6　長格子H



18－1　平行A

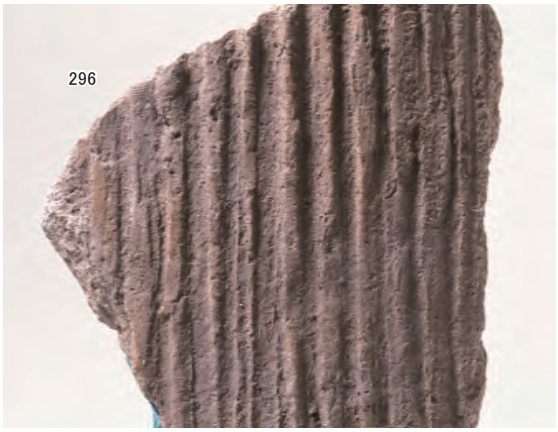
18－3　平行E

18－2　平行C

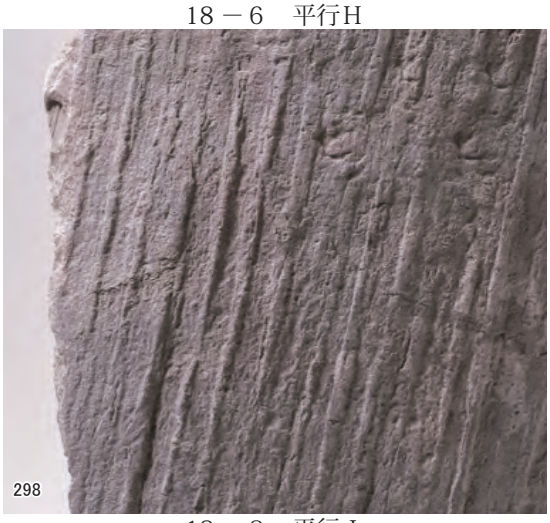
18－4　平行F

18－5　平行G

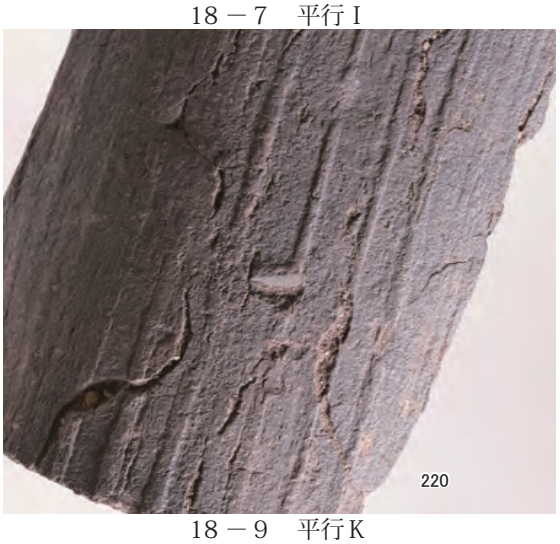
18－6　平行H



18－7　平行I



18－8　平行J



18－9　平行K

19－1　女瓦側面　布目痕とバリ状の痕跡

19－2　女瓦凹面　布目痕・糸切り痕・模骨痕・模骨止め痕

19－3　女瓦凸面　種子付着

20　鬼瓦 A

21－1　鬼瓦B

21－2　鬼瓦B

356 凹面

356 凸面

22－1　熨斗瓦

359

360

22－2　隅木蓋瓦

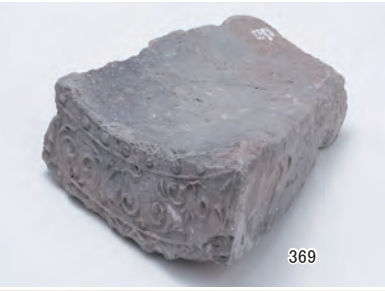
366

SKM02L 367

SKM03L 368

22－3　鳥衾瓦

370

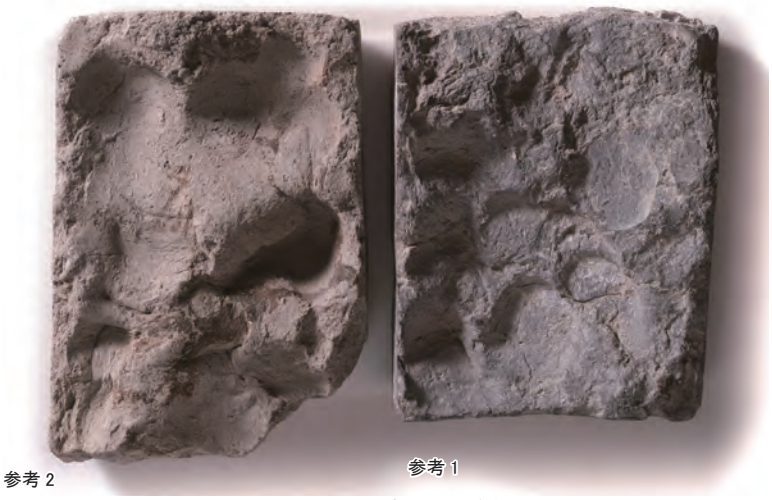

369

372

22－4　隅切り瓦

23－1　塼　台形

23－2　塼　長方形



23－3　塼　凹面側

23－4　塼　凸面側

377

24－1　塼「キ」

376

24－2　塼「]ろ石ノ心」？

379

24－3　塼「一千」

378

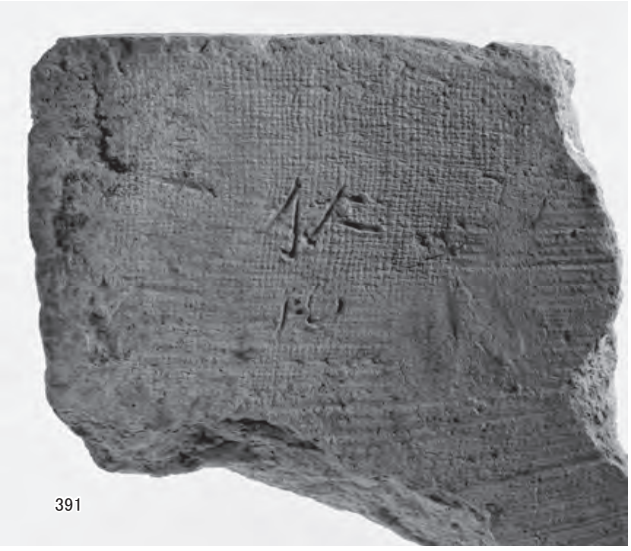
24－4　塼「山■」？

380

24－5　塼「水」？

参考 7

24－6　塼　布目圧痕



25－1　文字瓦「仁大瓦」

25－2　文字瓦「] 十歳」

25－3　文字瓦「大■」

25－4　文字瓦「] ■■ [」

25－6　文字瓦「国分金光明」

25－5　文字瓦「一」

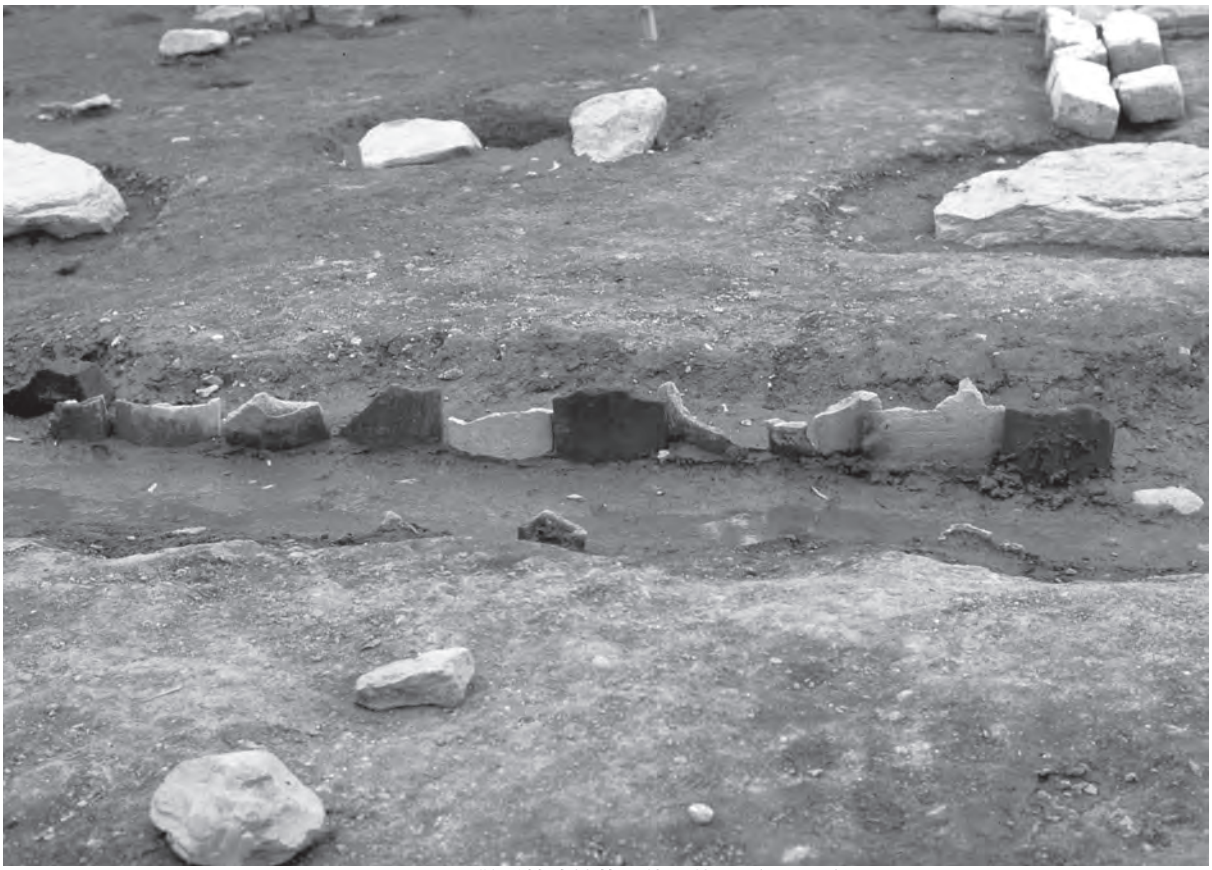
26 － 1　瓦製品

26 － 2　瓦製品

26 － 3　唐居敷座に加工した石製品

27 － 1　僧房跡東第二房南側唐屋敷座（台形塼）と切石（南から）

27 － 2　僧房内排水溝 SD6005 瓦使用状況①（北から）



28 － 1　僧房基壇外装瓦使用状況（北から）

28 － 2　僧房内排水溝 SD6005 瓦使用状況②（南から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	とくべつしせき　さぬきこくぶんじあと　いち
書名	特別史跡讃岐国分寺跡　Ⅰ
副書名	保存整備事業に伴う発掘調査報告書　遺物編②
巻次	
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第210集
編著者名	香川　将慶・渡邊　誠
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目８番15号　　TEL087－839－2660
発行年月日	西暦2020年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	発掘及び 整理期間	整備 面積	発掘 原因
とくべつしせき 特別史跡 さぬきこくぶんじあと 讃岐国分寺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 こくぶんじちょう 国分寺町 こくぶ 国分	37201		34° 18′ 10″	133° 56′ 41″	1983.4.1 ～ 2020.3.31	6,000㎡	史跡整備

所収遺跡名	種別	おもな時代	おもな遺構	おもな遺物	特記事項
特別史跡 讃岐国分寺跡	寺院	奈良時代 ～ 江戸時代	僧房跡 回廊跡 築地塀跡 礎石建物跡	土師器 須恵器 緑釉陶器 白磁 陶磁器 石製品 瓦塼	

要約	昭和58年度から平成３年度にかけて特別史跡讃岐国分寺跡の史跡整備事業に伴う発掘調査で出土した遺物に関する成果報告書の２冊目である。

令和２年３月 31 日　印刷
令和２年３月 31 日　発行

高松市埋蔵文化財調査報告第 210 集

特別史跡讃岐国分寺跡Ⅰ
― 保存整備事業に伴う発掘調査報告書 ―
遺物編②

発　行　者　高松市番町一丁目８番 15 号
高松市教育委員会
印　刷　者　高松市北浜町４番５号
藤田印刷株式会社